

3323
Mi37



* 0022576000 *

0022576-000

332. 3-Mi37ウ

独逸占領地域の経済経営

南満洲鉄道株式会社調査部・編

日本評論社

昭和16

ADC

332.3
M137

株式會社 九州鐵道 調查部 編

獨逸占領地域の經濟經營

日本評論社 版

304

332.3
Mi37



南滿洲鐵道
株式會社
調查部編

獨逸占領地域の經濟經營

日本評論社版



913
219

凡 例

一、ドイツは今大戦勃發以來、着々戦果を擴大し、北は北海バルト海沿岸から、南は地中海まで、西は大西洋岸から東ソ聯國境まで、ヨーロッパ大陸において、既に十數ヶ國を傘下に收めてゐる。ドイツが構想するヨーロッパ新秩序が、果して如何なる地域に、如何なる形態に組立てられるかは、大戦の歸結にかゝはるところ多く、未だ明瞭ではない。しかしドイツは、一面戦争と共に、一面建設に邁進してゐるのであり、これら占領地域に對する諸工作は、ドイツ廣域經濟圏の將來を卜するものとして注目されねばならない。

一、本稿はかゝる意味において、最近における大きな關心事の一つたるドイツの占領地域に對する諸工作中、その中心たるべき經濟經營の諸方策を取りあげたものである。然しながら戦亂中のこととて、とるべき資料としては、主として海外新聞雜誌類の如き、断片的なものに據らざるを得なかつた。それ故本調査は、資料上多大の制約を受けねばならなかつたが、可能なる範圍で詳細にデータを蒐集し、これに形式的な體系を與へることを期した。

一、本稿は最初本年三月末までのデータに依つて執筆せられる豫定であつたが、會社業務の都合により同月初旬急遽一應の取纏めを爲さざるを得ざる事情となり、従つてデータもその時期迄に限定され、整理も稍、不十分たるを免れなかつた。それ故、ユーゴスラヴィアの項の如きは、最近の發展と若干事實を異にしてゐるし、ギリシヤも本稿からは洩れてゐる。

凡例
一、本稿擔當者 長 守善

昭和十六年五月

滿鐵調査部資料課長
菊 地 清

目次

第一部 總 觀 篇

- 第一章 占領地域の行政と治安……………三
- 第二章 ヨーロッパの食糧問題……………一七
- 第三章 占領地域の金融工作……………三〇

第二部 各 論 篇

- 第一章 ポーランドの經濟及び經濟工作……………四五
- 第二章 デンマークの經濟及び經濟工作……………五三
- 第三章 ノルウェーの經濟及び經濟工作……………八四
- 第四章 オランダの經濟及び經濟工作……………一〇一
- 第五章 ベルギーの經濟及び經濟工作……………一二六
- 第六章 エルザス・ロートリンゲンの經濟及び經濟工作……………一三五
- 第七章 フランスの經濟及び經濟工作……………一四七

目次

目次

第八章 東南歐諸國の經濟及び經濟工作…………… 一六三

結語 歐洲廣域經濟の構想…………… 一八三

附錄

一、ドイツ占領地重要日誌…………… 二〇三

二、被占領國貨幣單位…………… 二一〇

第一部 總觀篇

第一章 占領地域の行政と治安



一九三三年一月に於けるドイツ政權獲得以後、ナチスは鋭意ヴェルサイユ體制の改訂に努力しつゝあつたが、その軍備の充實と國民力の涵養とが漸く達せられるに至つた一九三八年三月には、宿望のオーストリアを合併し、同年九月の歴史的なミュンヘン會議の後にズデーテンを奪取し、次いで一九三九年三月にはチェッコを保護領化するに至つて、此處に第二次歐洲大戰への序曲が高らかに奏でられるに至つたのである。更にこの年の九月ダンテと間諜を絡むポーランドとの間の確執の尖鋭化から、遂にドイツ軍の同地方への進撃を見、此處に戰爭の幕は開つて落された。爾後の戰爭の経過を我々は詳しく辿る義務もなく、その必要もない。ポーランド全土は總てドイツ軍の蹂躪下に獨ソの間に分割され、翌年四月にはデンマーク及びノルウェーは容易にドイツ軍の進駐するところとなり、次いでオランダ、ベルギー、ルクセンブルグはドイツの電撃戦によりて脆くも潰れた。民主主義國體の重要な一翼たるフランスさへも、最大の頼みとするマデノ線を支へ得ずして、歴史的な休戦協定を結ばねばならなかつた。

かくしてヨーロッパの地圖はヴェルサイユ條約の成立後二十年を経た後に完全に塗りかへられてしまつたのである。勿論占領地域の大部分は、とも角も名目上の獨立を維持して居り、その終局的な處置は將來の問題に残されてゐるが、既にドイツに歸屬した地域だけでも次の如く廣汎な範圍に互つてゐる。

一九三八年乃至四〇年に於けるドイツへの歸屬地域

	面積(平方軒)	人口(一、〇〇〇人)
オストマルク(オーストリア)	八三、七六四	六、六九五
ズーデテン	二九、一一〇	三、三九六
メーデーメル	二、八四八	一四二
ダンチツビ	一、八九三	四〇八
オスト・ゲビート	九一、九七四	九、六二七
ボエーメン及メーレン保護領	四八、九四七	六、七九四
クラカウ總督領	九五、六二五	一〇、五六五
合 計	三五四、一六〇	三七、六二七

これらの廣大な、名實とも此ドイツに歸屬した地域に加ふるに、スロヴァキアの如きは實質上ドイツの保護下に立つて居り、デンマーク以下のドイツの被占領諸國は、大部分ドイツの軍政下にあり、政治的にも經濟的にもドイツの支配下に置かれてゐる。更にハンガリー、ルーマニア、ブルガリアの如き東南歐諸國さへも、歐洲廣域經濟圏の一環として、ドイツの意志に従はねばならぬ。

此處に我々は東南歐諸國は問はない。他のドイツ併合乃至占領地域が如何なる政治機構の下に統治され、且つその治安が維持せられてゐるか、差當り我々の問題である。

現在の段階に於ては、ドイツが全體としてのこれらの地域に如何なる組織を與へるかは充分に明らかではないが、組織の一般的な外貌は既に認められる。

ポーランドの西部、ボエーメン及びメーレンは既にドイツに併合されたし、北歐及び西歐諸國にあつては、ルクセンブルグ大公國並に嘗てのドイツ領であつたオイペン、マルメデー地方をドイツ領に編入したのを例外として、大體に於てドイツは國內政治の對外的形式を維持してゐる。これらの地域では一般に軍政が布かれ、ドイツ委員 Reichskommissar が管理權を附與されてゐるけれども、夫々の國內の主腦者に政治上の直接責任を負はしむべく企圖してゐる。例へば、ノルウェーではキスリング少佐が政權についてゐるし、オランダでもアントン・クワサートが政局についてゐる。ベルギーでは不成功には終つたが、最初ドイツは國王レオポルドとの協調を企圖した。ハンガリーやルーマニアの如き非占領國にあつても、自己の撰擇か、その必要かによつて樞軸國を支持し、ドイツ軍の通過乃至進駐を許した。

かやうにして一般的に云へば、嘗てドイツ領であつた地域は、之を完全に併合して、ドイツの行政區域に加へ、他の地域に於ては軍政を布いてはゐるが、原則として國家の主權を認めてゐる。

ヨーロッパの政治的再組織に關する最終的計畫は勿論未だ明らかでないが、到るところでナチス化の過程が進んでゐることは明らかであり、かくして歐洲協同體への基礎が築かれつゝある。かやうな目的の前には、反抗的分子の壓迫、言論機關、郵便物の檢閲、ラジオ、電話使用の制限、労働組合の調整、反ユダヤ主義の徹底等が必要とされ、とりわけ深く根ざした英佛的影響の殘滓の拂拭が急務とされてゐる。

以下に於て簡単に各地域に於ける政治工作を眺めよう。

一 ポーランド ドイツの占領地域中でナチス化の過程が最も進捗したのは、舊チェッコスロヴァキアと共に

ポーランドに於て、あり、これら二國の全面的な、そして恒久的なドイツへの隸屬は、ナチス占領地工作の主要特質となつたのである。

ところで、一九三九年九月にドイツがポーランドを征服するや、ナチスのスポークスマンは先づこの國土が四地方に分たれることを明らかにしたが、やがてそれは實行に移された。即ち、その第一は、東部プロイセンを含む西部ポーランド、ポーランド廻廊、シュレヂェン竝にダンチツヒ自由市であり、これらの地方は一九三九年九月一日及び十月八日の法律を以てドイツの行政區域に編入された。第二は東部ポーランドであり、この地方は周知のやうに一九三九年九月二十八日の獨ソ協定に基いてソ聯に割讓されたものである。この點につきヒットラーは一九四〇年九月の議會演説に於ても、右の獨ソ間勢力範圍に關する協定は最終的なものであることを確認してゐる。第三はテッシエン地方であつて、ミュンヘン協定後の最初のチェッコの分割に際してポーランドに歸屬せしめられた地方であるが、スロヴァキアに讓渡された。最後のものが所謂クラカウ總督領(の *de facto* *raiguvernement* Krakau) である。

かくしてソ聯及びスロヴァキアに割讓された二つの地方を除き、ドイツ占領下のポーランド地域は、政治的にも經濟的にも截然と二つに分たれた。ドイツに編入されたドイツの東部地區 *Ostgebiete* となつたが、その下に新に二つの地區 *Gau* 即ちダンチツヒ西プロイセン及びワルテガウが設けられた。後者は舊ドイツ領ポーゼンのみならず、ポーランド最大の纖維工業中心地たるロツヅ地方を含むものである。

他方に於て、總督領はポーランドの中部及び南西部を覆ふものであり、その面積は約四萬三千平方哩、人口

約四百五十萬人を含む、うち二百萬人はユダヤ人、五十萬人はウクライナ人、七萬人がドイツ人である。この地域は更にクラカウ、ルブリン、ラドム及びワルソウの四地區に分たれた。ハンス・フランク博士が總督に任命され、總督の命令は總て一九三九年十月十二日の總督令によつて公布されるが、形式ではポーランド國として成立せしめられたものであり、西部ポーランドのポーランド人及びユダヤ人はこの地域に移住せしめられることになつた。しかし「ドイツ國特權利益地區」とされ、一切の施設はドイツの利益の爲に行はれることになつた。

しかるに一九四〇年八月十六日に總督フランク博士は、ポーランド國民を再びドイツ國民の保護下に置くとの宣言を爲す場合には、總督領はドイツに接收されるであらうと述べたが、同年十月十二日の總統ヒットラーの布告によつて、正式にこの總督府は従来の「ポーランド占領地域總督府」から單に「總督府」と呼稱されることになつた。この結果として總督領は最早被占領地域の總督ではなくて、大ドイツ國の一構成部分としての總督領になつたのである。かくして「ハーケンクロイツはこの國の上を未來永劫に翻ることになり」、ポーランド國民は無條件にドイツの保護支配下に置かれるに至つた。クラカウ駐在のフランク總督もある祝典に際して、この新しい改革の意義について述べてゐるが、ヴァルトシャフツデーインスト誌は次のやうに説いてゐる。かかる「ポーランド國民に對するドイツの指導要求は、一九三九年秋に於ける六萬人のドイツ人同胞殺害の記憶によつて特殊の性質を持つてゐる。この事件についてはあらゆる階層のポーランド人が責任を負ふべきである。とは云へ、ドイツは何らの復讐をも考へてゐるものではなく、寧ろポーランドにも平和、秩序、勞働を齎さん

とするものである。」(Wirtschaftsdienst, 23 Aug. 1940)

さて、ポーランド總督フランク博士はドイツ國務大臣を兼ねて居り、直接に總統ヒットラーに隸屬するが、總督領に於ても實施されることになった四ヶ年計畫の遂行については、その性質上全權官ゲーリングの指揮を受けなければならぬ。同時にフランク博士は聲明して、ポーランドのドイツ國民協同體の生活表現は、ドイツの範に倣ふべきものとした。

かくしてこの地域でも先づナチス黨が組織され、「ドイツ國防上奪つたこの國土をば、ドイツの勢力下に確保する」任務を負はしめられた。ドイツのあらゆる地區から派遣された三萬人のナチス黨員がその指導に立ち、地方團體に於て制限された範圍の自治權を許容されたポーランド人との協力によつて、大ドイツの經濟生活に資すべきことが要求されてゐる。

行政上の最高機關としての總督をクラカウに置くが、總督府は普通の行政組織に倣つてその下部機關として六部十五局を持ち、この他にドイツ國防軍の連絡將校及び四ヶ年計畫當局の派遣員が存在する。その他に總督領經濟會議の組織があり、この下に指導的人物、殊に政府の各當局者をば經濟部長を委員長とする委員會に統合してゐる。かくして首都クラカウは大ドイツ國の代表であり、したがつてユダヤ人官吏は總て免官された。

二 デンマーク デンマークに對するドイツ占領軍の態度は、他の占領地域の場合と著しく異なる。といふのは、ドイツ軍は「デンマーク國王の要請に應じて進駐」したものである。したがつて、占領軍當局は何等その内政に干渉するところはない。例へば、從來の社會民主黨がドイツ軍進駐後の四月以降も依然として政

局に立つて居り、トルヴァルド・スタウニングが従前と同じく首相の地位にある。労働組合も解散せしめられることはないし、一九四〇年七月二日にデンマーク警察が百名のデンマーク・ナチス黨員を騷擾的デモの故に逮捕した時にも、ドイツは何等干渉を加へなかつたのである。

とは云へナチス化は徐々に進められつゝあるものゝやうに考へられる。デンマークの小學校は以前からナチス思想に影響されてゐたし、農民の一部は數年この方ナチスの傾向を帯びて來た。之に反して労働者の大部分は社會民主主義的労働組合に加入してゐるし、ブルジョワ階級は従前からのつながりから親英佛的傾向が濃厚である(The Nation, 5 Oct. 1940)。かゝる事情の下に労働者の一部の間では不穩と怠業との空氣があり、これ

により首相は「この國はドイツと交戦状態にあるのではない」との警告を發した。ともあれ、デンマーク・ナチス首領フリッツ・クラウゼンはその勢力の擴大に懸命になつて居り、この國のナチス化は徐々に進むであらう。

三 ノルウェー ノルウェーでは一九四〇年四月二十四日の布告によつて、ノルウェー占領地ライヒ委員 Reichskommissar für die besetzten norwegischen Gebiete を任命して、之を從來の首都オスローに置き、ドイツ占領軍の保護下にある地域の「公の秩序及び公の生活の確保」の任務を課した。つまりこのライヒ委員は行政廳の最高機關であり、その命令の施行及び行政權の行使に關しては、既存のノルウェー行政委員會及び各種の行政官廳を使用することが出来る。そしてドイツ人テアポーフンがその任務に就いた。

ところで、他方に於て依然としてノルウェー議會 Storting も存在するし、キスリング少佐を首班として四

月に新政府が組織されもした。そしてライヒ委員は最初は國王ハーコンとの協調をも求めたのであるが、その拒否するところとなり、此處に於て九月にライヒ委員テアボーフェンは聲明を發して根本的な行政改革を行ふことにした。即ち、テアボーフェンは新しく十五名の議員を任命し、そのうち十三名をばキスリングを首領とするノルウェー國民主義的政黨たる *Nasjonal Samling* の黨員から選んだ。そしてラジオ放送によつて、爾後ノルウェーに於ける一切の権限はドイツ人の決定によつて行はるべき旨を聲明し、結論して云ふ「ノルウェー國民が今や認識すべき一つのことは、國民主義的なノルウェー國民がその自由と獨立とを恢復すべき途は一つしかないといふことである。この唯一の途とは *Nasjonal Samling* 及びその首領キスリングによつて率ゐられる途である」(Times, 27 Sept. 1940)。かくしてノルウェー國民黨以外の一切の政黨は解散せしめられ、今やナチス的な新しい秩序が齎されんとしてゐるのである。

四 オランダ オランダに於ける行政組織もノルウェーのそれと同様である。即ち一九四〇年五月十八日の布告によつて、オランダ占領地域ライヒ委員 *Reichskommissar für die besetzten niederländischen Gebiete* をハーグに置くこととし、ザイス・インクワートがその地位についた。その任務も権限もノルウェーのそれと同様であり、既存の一切の行政機關を動員することが出来る。この點につき、ザイス・インクワート自身「オランダ人は彼等自身の役人の支配を受けるのだ」と聲明した。勿論行政上重要な箇所にはドイツ人が参加して居り、ある程度その任命にもドイツ當局の干渉があるかに思はれる。ライヒ委員ザイス・インクワートの下には四人の副委員長 *Generalkommissar* があり、そのうちフィシュベック博士は財政經濟問題、シュミットは労働

及び失業問題、ラウターは治安問題、ウィンマーは一切の文化問題につき、夫々ライヒ委員を補佐してゐる。地方諸政府にもドイツ人の顧問がある。又、アムステルダム市廳にはドイツ人委員があり、リュベック市長がその任についた。

オランダの従來の諸政黨はなほ存続せしめられて居り、労働組合も存在した。最初のうちはドイツ占領軍當局は可能な限り過激な變改を回避せんとするもの、やうに見えたし、事實ザイス・インクワートもその任についたとき、ドイツはオランダのナチス化を企圖するものでない旨の聲明をした (New York Times, 24 July 1940)。しかるに七月初め、オランダの六大政黨たるローマン・カソリック黨、二つのキリスト教的保守黨、二つの自由黨、及び社會民主主義労働黨がハーグ會議を開き、諸政黨の合同と自由に對する強主張とを含む共同聲明を發表するに及び、ライヒ委員ザイス・インクワートの拒否するところとなり、漸次主要ポストの配分につきオランダ・ナチス黨が重視されるに至つた (Economist, 12 Oct. 1940)。オランダには従來三つのナチス的運動があった。即ち *Nationale Unie*, *Nederlandse Unie* 及び *National-Socialistische Beweging* がこれである。第一の國民黨の首領ロスト・ヴァン・トンニンゲンは社會主義諸政黨の「監督」に任命されたが、九月二十一日に至つて彼はこれら諸政黨の解散を命じた。同時にオランダ黨の首領ウーデンベルヒは労働組合の理事長に任命されたが、彼の任務は労働戦線の結成にあるもの、やうである。現にドイツ労働戦線の歡喜力行團 *Kraft durch Freude* に似た *Vreugde en Arbeid* なる組織が誕生せしめられてゐる。

かくして既成諸政黨及び労働組合の無力化と共に、オランダ・ナチス運動の首領ムッサートを首班とする單

一政黨による組閣工作が進んだ。しかし前記のやうにオランダ國民主義運動は分裂して統一戦線にまで高まつて居らず、したがつてドイツ當局の欲するところは全體主義的政府の成立にあるから、ノルウェーに於けるキスリングの場合のやうな完全なナチス化までには時日を要するであらう (Times, 8 Nov. 1940)。

五 ベルギー この國では嘗てドイツ領であり、ヴェルサイユ條約の結果ベルギーに割讓されたオイペン、マルメデー及びモレネのみは全く別個に扱はれた。即ち一九四〇年五月十八日の布告によつて、ドイツに併合され、最早「占領地域としては取扱はない」ことになり、ライン州アーヘン地區に加へられた。

その他の地方ではノルウェーやオランダに於けるやうに占領地ライヒ委員の任命もなければ、キスリングやムッサートのやうな人物もなく、完全に占領軍の支配下にある。勿論一方ではフレミッシュ運動が澎湃として高まりつゝあり、ドゥグレル及びその部下は積極的行動を起して、歐洲新秩序への参加を唱へてゐる。かやうな事情の下に、ベルギーの將來についてのドイツの計畫はなほ明らかになされてゐない (Times, 23 Nov. 1940)。

六 ルクセンブルグ ルクセンブルグにもライヒ委員の任命はない。それ故に議會はドイツ占領軍當局の同意を得て、五名からなる行政委員會を組織した。しかしその権限は著しく制限されて居り、その命令権は既存法律の範圍内に於ける財政及び經濟政策に關する諸事項に止る。この委員會が暫定的なものであることは云ふまでもなく、したがつて他方では、コブレンツトリエル縣長グスタフ・シモンがルクセンブルグ行政長官に任命された。而してその権限はドイツ總統から委任された關係になつてゐる (Frankfurter Zeitung, 21 Aug. 1940)。そしてこの際總統ヒットラーによつて課せられた任務は、何よりもフランス的影響をこの國から

取り除き、ドイツ文化圏に引き入れることであつた。例へば言語の如きも、國民學校ではフランス語を廢し、上級學校では之を制限し、官廳及び裁判所用語としてのフランス語は廢止されたのである (Wirtschaftsdienst, 23 Aug. 1940)。

七 フランス この國でもエルザス・ロートリンゲンは完全にドイツに併合され、エルザスはバーデン區に編入され、ロートリンゲンはザールプアルツと共に別の一區にされた。

兩餘のフランス全土は、周知のやうにコンピエーニュの休戦協定によつて占領地域と非占領地域とに截然と分たれ、後者はベタンがヴィシーに於ても角も政府主席として管理權を保持することになつたのである。だが、このベタン政權もドイツのヴァイスバーデンに設けられる獨佛休戦委員會に於ては、豫め駐佛ドイツ大使オットー・アベツに協議せねば、如何なる重要決定をも爲し得ないといふのが實相らしい (Foreign Policy Reports, 15 Oct. 1940)。

他方この國の約五分の三に當る占領地にあつてはドイツ軍政が布かれて居り、報告によればドイツ士官ワイヤーなる人物が總督に任命されたといはれてゐる (Times, 30 July 1940)。

七月二十八日の朝五時を期して、この兩地域間は一切の道路も鐵道も閉鎖されたが、それが主たる動機は避難民の流入による混亂の防止及び軍事的目的にあるらしい。

同時にドイツ占領軍當局は占領地域を五つの地方に分割した。即ち、

第一は、西北フランス全部の地帯で、ベルギー國境に至る總ての英佛海峽に臨む諸港を含み、この地帯への

一般の旅は絶対に禁止されてゐる。

第二は、大西洋岸に沿ひスペイン國境からロアル河に於て第一の地帯に接続する地帯である。

第三は、ベルギー國境からスイス國境に至る地帯で、マチノ線が含まれて居り、この地帯でも貨物その他の動きは禁止されてゐる。

第四は、フランスを横切り、大西洋岸から東部地帯、即ち前のマチノ線を含む地帯にまで及ぶ地域である。

この地帯の南部は直接に非占領地帯につながり、北部はパリの近郊に接続してゐる。而してパリ自體は分離地帯とされてゐる。

第五は、パリの北部で西北地帯、ベルギー國境、マチノ線、パリ、及び中部地帯の間に介在するものである。

第四以下の地帯に於ては特別の許可の下に通行が許されることになつてゐる (Times, 29 July 1940)。

かやうな占領地域及び非占領地域間の交通の遮断及び、前者の地域的分割は、極めて困難な多くの問題を醸し出して居り、とりわけ食糧品その他の物資の相互的融通、一地帯から他の地帯への債務支拂の不能等が困難ならしめられてゐる。その結果、兩地域に於ける經濟生活及び政策も全く別個のものたらざるを得ない。だがこの問題は別項に於て述べるところである。

占領地域の行政及び治安に關しては、一般に發表されるところが少く、斷片的に資料に現れた限りでは大凡以上述べた如くである。これにより結論的に我々の云ひ得ることは、完全にドイツ領として併合された地域及びクラカウ總督領を除いては、その地域の主權に關する問題及び行政組織に關する最終的決定は爲されてはゐる。

ないが、地域によつてその程度の差こそあれ、ある程度ナチス化の過程が進んで居り、歐洲新秩序に参加すべき體制が漸次整へられつゝあるといふことである。これらの地域の治安の如きも、社會的秩序の恢復、經濟生活の正常化に伴ひ、徐々に平靜に歸しつゝあるもの、如くである。とりわけドイツ占領軍の秩序は整然と保たれて居り、些の行き過ぎもなく、一般に占領地域の民衆から好感を持たれ、親しまれてゐるといはれる。この占領軍當局の權威の下に、ドイツの政治的及び經濟的な各種の専門家から成る委員乃至顧問達は占領地域の再建に對してあらゆる角度から、精力的に協力してゐるのである。

だが勿論かかる事實が何等の摩擦も、困難もなしに遂行されてゐるのではない。スカンデナヴィア諸國にしても、白蘭やフランスの如き諸國にしても、從來政治的にも經濟的にも對英依存の傾向が濃厚であり、大體に於て民主主義的な統治下に置かれて居り、それだけに急速に全體主義的秩序の下に統合し、歐洲廣域經濟の組成分子として、夫々の國民經濟を再編成することには多大の困難が横はつてゐることを忘れてはならぬ。民主主義的傳統に慣れた諸國民のナチス化に對する反抗もあるだらうし、ハーコン、ウイヘルヘルミナ女皇、或はレオポルド等の舊君主に對する「忠誠」の情からなる新政權への不満もあるだらう。のみならず、被占領諸國の多くはフランスのド・ゴール政權を始め、擬裝政府をドゥヴァー海岸の彼方に樹立して居り、それらによる各種の煽動は被占領地域の治安をある程度妨げてゐるかも知れない。更に國民經濟の全面的な再編成に當然に伴ふべき多くの混亂や摩擦は、經濟及び社會生活のある種の困難や不安を醸し出すであらう。英米側の報告が悪意によつて歪められ、著しく誇張されたものであるとしても、各地に小規模の小ぜり合や、騷擾があり、この

ことは時として権力の發動を不可避ならしめてゐる。冒頭に述べたやうな各種の制限や取締りも當然要求されるであらう。だが、このことは戦時下に於ては正に不可欠なものである。

第二章 ヨーロッパの食糧問題

戦争とドイツの占領とによつて醸し出された最も切實な問題は、一九四〇年乃至四一年の冬季に小國の多くは食糧不足に悩み、ある場合には饑饉さへ起るであらうといふことであつた。といふのはイギリスの封鎖が完全に大陸封鎖の形態をとるに至つたからである。一九四〇年初めまでは、ドイツは隣接諸國を通じてなほ海外から物資を輸入することが出来た。然るにドイツのデンマーク、ノルウェー、オランダ、ベルギー及び北部フランスへの進駐後は、これら諸國も亦、イギリスによつて外洋から封鎖されたのである。かくして直接間接に獨伊の支配下にある地域内では商品の交換は自由に行はれるが、非歐洲諸國とのそれは断ち切られてしまつた。歐大陸は全體としてみれば、食糧品の輸入國である。主要パン用穀物たる小麦及びライ麦のみについてみて、一九三六—三八年平均の歐大陸輸入額（イギリス及びソ聯を除く）は、小麦三百五十八萬九千噸、ライ麦三十九萬三千噸であり、前者は世界總輸出額の三二・五%、後者は九〇・七%を占めてゐる（League of Nations, Year-Book of Agricultural Statistics, 1939）。

勿論ヨーロッパ大陸中、東南歐諸國、とりわけルーマニアやハンガリーは有数の穀物生産地であり、デンマーク、オランダ等は優れた酪農業を持つてゐるし、ドイツはいはゆる生産國爭 *Erzeugungsschlacht* によつて、又イタリアは穀物國爭 *Battaglia del grano* によつて自給率を高めた。それ故に單に穀物のみについてみれば、

平年作の下にあつては、歐洲大陸は九〇%以上の自給を爲し得ることになつてゐる。これらの諸國をおしなべて、一般にヨーロッパ大陸は食糧品の自給率は高い。

歐洲大陸諸國の食糧品自給率

デンマーク	一〇三	ノルウェー	四三
オランダ	六七	ベルギー	五一
フランス	八三	イタリヤ	九五
東南歐諸國	約一〇	平均	約九〇

(Wirtschaftsdienst, 4 Dez. 1940)

しかるに一九四〇年の收穫豫想は前年の異常の豊作に反して著しく悪い。このことは冬季の嚴寒、春季の寒冷及び降雨量の過多、軍事動員による勞働力の不足、等々の自然的及び人爲的諸條件に基くものである。合衆國商務省は一九四〇年の歐大陸の小麥收穫高を三千四百萬噸と見積つてゐるが、之は平常消費の八〇%である (Times, 24 Aug. 1940)。

一九四〇年收穫豫想を個別的に主要穀物供給地たる東南歐諸國についてみても、何れも右の事情の例外を爲し得ない。ハンガリーの小麦收穫豫想は、一九三九年の三千六十九萬ドッペルツェントナーに對して、二千二百萬乃至二千三百萬ドッペルツェントナーである。この國の國內消費が二千萬ドッペルツェントナーであるから、新收穫による他の歐洲地域に對する輸出可能量は、二百乃至三百萬ドッペルツェントナーにしか過ぎぬ。ルーマニアの小麦收穫豫想高は、前年の四千四百萬ドッペルツェントナーに對して三千萬ドッペルツェント

ナーであり、國內消費が前年半ばに二千七百萬ドッペルツェントナーであつたから、輸出も亦、大量ではあり得ない。之に反してブルガリアでは收穫は前二者ほど悪くはないが、その絶對量が大きく、輸出は不可能である。同様にユーゴスラヴィアでもその生産額は、前年の二千八百萬ドッペルツェントナーに對して、精々のところ二千萬ドッペルツェントナーであり、自國消費をさへ満すに充分でない。獨りトルコのみはその收穫を前年に倍加すると豫想されてゐるが、之は現在のところ獨伊樞軸の外にあるとみななければならず、したがつてこの地域からの穀物供給は一應諦めねばならぬ。

ローマ農業研究所の推定によれば、一九四〇年二月一日現在では、ギリシヤを除き東南歐諸國の新規收穫期迄の小麥在高は國內消費を除き二千九百二十萬ドッペルツェントナーに達する。これだけが輸出可能量である。しかも右のやうな不作の見透しはこれら諸國の貯藏政策を強化せしめ、輸出を困難ならしめるであらう (Frankfurter Zeitung, 22 Aug. 1940)。

東南歐諸國穀物收穫高 (單位一、〇〇〇ドッペルツェントナー)

小 麥		中 麥		大 麥		燕 麥	
一九四〇年	一九三九年	一九四〇年	一九三九年	一九四〇年	一九三九年	一九四〇年	一九三九年
年平均	年平均	年平均	年平均	年平均	年平均	年平均	年平均
ハンガリー	三、八〇〇	三、八〇〇	三、一〇〇	七、七〇〇	八、六〇〇	七、〇〇〇	七、九〇〇
ルーマニア	三、九〇〇	四、五〇〇	三、六〇〇	三、一〇〇	四、一〇〇	三、九〇〇	四、〇〇〇

ユーゴスラヴィア	三,〇〇〇	二,八〇〇	三〇,〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブルガリア	一,五〇〇	一,五〇〇	一五,〇〇〇	二〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇

(Allgemeine Zeitung, 8 Aug. 1940)

歐洲の穀倉と稱せられるルーマニアを初め、その他の東南歐諸國の狀態がかくの如しとすれば、他の歐洲諸國の穀物不足は察するに難くはない。勿論ドイツはさきに述べた生産國争により一九三五年乃至三六年の平均をとれば、小麥の自給率は八八%、ライ麥のそれは九七%であり (Economist, 16 Sep. 1939)。イタリアでも増産運動の結果、一九三一年乃至三六年の平均に於て小麥自給率は九一%といふことになつてゐるが (Banca d'Italia, l'Economia italiana nel sessennio 1931-36)、不足部分はなほ輸入に仰がねばならぬ。

之に反してフランスでは平時に於ける穀物生産は國內需要を充して餘りがあり (外國からの價格上の壓迫なき限り)、一九四〇年度收穫についても、氣候的條件は東南歐諸國の如く著しく悪くはなかつたが、四百萬人に達する大規模の動員、とりわけその大半が農村労働者であつたといふ事實、及び北部農業地帯が戦争の直接的影響によつて荒廢せしめられたことは、甚だしい收穫減を伴つた。

だが穀物不足のより顯著に現れてゐるのは、デンマーク、ノルウェー、オランダ及びベルギーの諸國である。これら諸國のうちデンマークやオランダの如きは典型的な農業國と云はれてゐるが、このことは酪農等の場合について妥當するのであり、穀物の國內生産は僅少であつて、その海外への依存度が高い。即ち、戦前の一九三八年に於けるこれら四國の小麥生産及び輸入高をみれば次の如くなつてゐる。

デンマーク	二,三〇〇	一,〇〇〇
ノルウェー	三六〇	—
オランダ	二〇三	—
ベルギー (ルクセンブルグを含む)	二九七	—

小麥生産高 (一、〇〇〇噸)

デンマーク	一六六	—
ノルウェー	一六五	—
オランダ	六四五	—
ベルギー (ルクセンブルグを含む)	一,〇三九	—

小麥輸入高 (一、〇〇〇噸)

(1) League of Nations, Statistical Year-Book of the League of Nations, 1938-39)

(2) League of Nations, International Trade in Certain Raw Materials and Foodstuffs, 1939)

ところでこれらの諸國にとつてより重要なことは家畜飼料の大部分を海外に仰いでゐることである。次掲にみるやうにこの地域に於ける飼料用農産物の生産額は甚だ僅少に止る。

大 麥	耕地面積 (千ヘクタール)		生産額 (千噸)	
	1938-39	1939	1938-39	1939
デンマーク	三九七	三九七	六七九	六二
ノルウェー	六〇	八五	六二	九三
オランダ	四七	一四六	七三	一八三
ベルギー	三二	二二三	四四	三一

燕 麥	耕地面積 (千ヘクタール)		生産額 (千噸)	
	1938-39	1939	1938-39	1939
デンマーク	三九七	三九五	五七三	九三
ノルウェー	六〇	八五	九三	一八三
オランダ	四七	一四六	一八三	三一
ベルギー	三二	二二三	三一	一四七

馬 鈴 薯	耕地面積 (千ヘクタール)		生産額 (千噸)	
	1938-39	1939	1938-39	1939
デンマーク	三九七	三九五	七九	七二
ノルウェー	六〇	八五	五四	四七
オランダ	四七	一四六	一三九	一四一
ベルギー	三二	二二三	一四七	一六三

(League of Nations, Statistical Year-Book of the League of Nations, 1938-39)

玉蜀黍の生産に至つては皆無である。この結果として、一例を一九三八年中の玉蜀黍輸入についてみれば、次の如く多額にのぼつて居り、その他の飼料用農産物や油粕等の輸入の如きも多額にのぼつてゐる。

玉蜀黍輸入高 (一、〇〇〇萬)

デンマーク	ノルウェー	オランダ	ベルギー及びルクセンブルグ
二九五	一四八	九一五	六一五

(League of Nations, International Trade in Certain Raw Materials and Foodstuffs, 1939)

しかもこの場合その大部分が歐洲大陸以外の諸國から供給されてゐる事實に注目せねばならぬ。同じく一九三八年の玉蜀黍についてみるとその極めて多くの部分をアルゼンチンに仰ぎ、大陸内部ではユーゴスラヴィア、ルーマニア及びハンガリーから僅少の供給があつたに止る。即ち次掲の如くである。

輸出國	輸入國	輸出量	輸入量
アルゼンチン	デンマーク	六四	七一
ユーゴスラヴィア	ノルウェー	三七	九
ルーマニア	オランダ	一五	一一
ハンガリー	ベルギー及びルクセンブルグ	四二	一

(League of Nations, International Trade in Certain Raw Materials and Foodstuffs, 1939)

かうした海外飼料への高い依存度の上に、ノルウェーを除くこれら三國の優れた牧畜等が營まれ、歐洲諸國に對するミルク、バター、チーズ、肉類及び卵の大量供給者たり得た。しかるに右のやうに飼料の供給國が主として歐洲大陸以外の諸國である限り、最早その輸入は期待し得ず、飼料の著しい缺乏が現れるであらう。その結果としてドイツの進駐後間もなく、これらの地域では家畜の屠殺が行はれたし、將來も飼料供給可能の範

圍内までに家畜数を制限すべきことが要求されてゐる。だがそのことは當然に歐洲大陸内に於けるミルク、バター、チーズ、肉類、卵等の不足を招かざるを得ない。

食糧問題につき、より重大なのはポーランドのドイツ占領地域である。この地方は元來主要食糧品を自給し得たのみでなく、若干の肉類生産物、卵、小麦、砂糖等の輸入さへ可能であつた。しかるに家畜の約五〇%はソ聯の占據地域に含まれるものであり、例へば、牛一千五百五十五萬頭、豚七百五十二萬頭中、ドイツ占領地域内に入るものは、牛五百四十一萬九千頭、豚四百萬頭である。加ふるに戦争はポーランドの農村を著しく荒廢せしめ、その生産力を破壊した。かうして既に一九三九年冬季に早くもポーランドは深刻な食糧不足に悩まねばならなかつた。

この故に合衆國で組織されたポーランド救済委員會 (American Commission for Relief of Poland) はイタリアの参戰以前には、合衆國で食糧品を購入し、ゼノアを経てイタリア及びドイツ鐵道によつてポーランドに輸送することが出来た。しかるにイタリアの参戰と地中海に於けるイギリスの封鎖が嚴重になるに及び、同委員會はポーランド隣接諸國、殊にリトアニアを通じて嚴重な合衆國の統制下にポーランド兒童への食糧供給を實施してゐる。

以上述べ來つたやうな、直接間接にドイツの支配下にある地域の食糧不足につき、一九四〇年八月十一日合衆國前大統領ハーバート・フーバーは「若し何らかの對策が爲されない限り、これら諸國內に一般的な飢餓と死と疫病とが発生するであらう」と述べ、オランダ、ベルギー、ノルウェー、ポーランド等の救済の爲に、速

かにして實際的活動の開始さるべきことを訴へたのであつた。そして彼の救済案なるもの、實行にはドイツの充すべき一定の前提があることを附言した。彼は云ふ、ドイツは救済を受くべき諸國の國內生産物を引揚げぬこと、既に奪つた食糧と同額を提供すること、ソ聯及びバルカン諸國からこれら諸國への輸入を許可すること、及び「これらの保證が確實に爲される爲には」中立國政府又はその他の機關によつて、有效な配給統制が行はれること、等についてドイツの同意を要すると。而してこの案によれば、西半球に於ける食糧の購入には、それら諸國の在米資産を充てようとするにある (Foreign Policy Reports, 15 Oct. 1940)。

同じく合衆國赤十字社代表ジョン・マロニーも一九四〇年七月に、少くとも三千五百萬人の歐洲人がこの冬には飢餓に直面するだらうと述べた (New York Times, 13 July, 1940)。かうした歐大陸食糧不足の見透しから、合衆國赤十字社は既に開戦來七ヶ月間に百四十五隻の船舶を利用し、殆んど八百萬ドルに達する食糧品、衣類、藥品、其の他をイギリスは勿論、被占領地域に輸送したのであつた (New York Times, 1 Aug. 1940)。

だがこれらの事實は常に誇張して傳へられてゐるやうにみえる。ドイツ側の資料によれば事態はそれ程悪化してはゐない。確かに東南歐諸國の穀物收穫は悪いが、玉蜀黍の混用、ストックの使用によつて需要を充し得ぬ程度ではない。しかも耕作物や玉蜀黍の收穫は却つて良好であつた。又甜菜の如きは國際農業研究所の報告によれば、過去數年間の平均に比して二五%方もよかつたし、大抵の諸國の馬鈴薯收穫は「平年作以上」ところか寧ろ「非常に豊作」でさへもあつた。これらの作物はある程度飼料の不足をも補ひ得るであらう (Allgemeine Zeitung, 8 Aug. 1940)。

ところで問題はこれらの地域を支配するドイツ自體の食糧供給はどうかといふことである。既述のやうにドイツでは一九三四年以降の生産闘争により、此處數年來農産物増産運動は著しく進み、その結果食糧全體の自給率は次掲のやうに著しく高まつた。

ドイツ重要食糧品の自給率 (大ドイツ經濟圖)

ドイ ツ	約一〇〇	オストマルク及びゾーデテン	七八—八二%
メーメル	約一〇〇	ポエーメン及びメーレン	約一〇〇
ダンテツヒ	約七五	オストガウ	約一〇九
クラカウ總督領	約一〇〇	大ドイツ經濟圖平均	八七

(Institut für Konjunkturforschung, Wochenbericht, 4 Dez. 1940)

かやうに舊ドイツだけでも、重要食糧の自給率は八三%に高まつてゐるが、とりわけパン用穀物や馬鈴薯の如きは國內需要を完全に充すことが出来る。しかし戦時に於て一般に農業生産の低下することは常であり、前大戦時にはドイツの穀物生産はその直前の五年間平均の七一%、ミルクの生産は六〇—六五%に低下したのである。しかるに生産闘争による集約化の爲に、今回にあつては大ドイツの穀物收穫は二千四百六十萬噸であつて、一九三四—三八年の五ヶ年間平均より僅か二%低いに過ぎない (Wirtschaftsdienst, 4 Okt. 1940)。馬鈴薯の如きは未曾有の豊作で六千萬噸にも達し、從來よりも五百萬噸も多かつた。しかも馬鈴薯の食糧としての需要は僅かに一千八百萬噸であるから残餘は之を家畜飼料に充てる事が出来る。更に甜菜は二千萬噸の收穫をみ、貯蔵量を高めることが可能である。かくしてダンは全體としてのドイツの食糧供給は満足すべき状態にあ

ると述べてゐる(New York Times, Oct. 1940)。

事實として、開戦後一ケ年も経過した後にも、食糧品割當率には變更がなかつたのみでなく、多くの場合には却つて改善されもしてゐる。例へば肉類やバターの如きは一九三九年冬及び一九四〇年夏には特別分配さへも追加された。

にも拘らず、他方にはドイツがその占領地域から食糧品その他の物資を引揚げたといふ英米側の報告がある。例へば、タイムズ紙によればドイツはノルウェーから一日當り二百噸の魚類、ベルギーから一切の卵を徴發し、二三の國で魚獲された鯀はドイツが獨占的に引取つてゐるといふ(Times, 20 Sep. 1940)。又他の資料によれば、ドイツ占領軍の兵士は一日當り半ポンドのバターを母國に送る特權を得た(The Nation, 5 Oct 1940)。

だが、かやうな事實は常に誇張して傳へられてゐるやうだし、歐洲農作物不作も過大に評價されてゐるものやうである。このことはタイムズ紙さへ明瞭に認めて居り、次のやうに述べてゐる。結論的に云へば、ヨーロッパ大陸の全面的飢饉の危険は過大に誇張されて來た。尤も來るべき冬に對する近い將來の見込と、より遠い將來の見込とを區別せねばならぬ。長い先について云へば、次の數年間に大陸の食糧生産は平常の消費に近付くと豫想することは不合理ではない。浪費されたり、軍需産業に振向けられたりする剩餘はないし、慣習的な食物にある種の調節を加へる等の細心な消費と配給との計畫化は要求されるが、繼續的な不作と云つたやうなことがない限り、主要食糧品の供給は殆んど充分であらうと。

タイムズ紙は更にヨーロッパ諸國の穀物貯藏量を推定して、未來の緊急に備へる爲の繰越高を残しても、一

九四〇年乃至四一年の穀物消費を平時の九〇%迄には維持し得ることが可能であるといふ(Times, 24 Aug 1940)。

たゞ問題はこれらの貯藏がドイツの手に集中されてゐることである。全體としての歐洲大陸、殊に獨伊の支配下にある地域の諸國の生活を支へるに足る食糧の生産及び貯藏があるといふこと、現實には何人も餓ゑることがないといふことは全く別個である。さきに述べたやうにドイツ占領地域の多くでは現に食糧や飼料の缺乏が現れてゐる。此處に於てか歐大陸食糧不足の問題は全般的なものではなくて局部的なものたることが明らかにされるのである。

勿論このことは、英米側で誣ひるやうに、占領地域に對するドイツの冷淡や惡意によるものではない。即ち、「ドイツ政府の見解は、ドイツと交戦した諸國は自己の危険に於て戦つたものであり、ドイツからもバルカンからも援助を期待すべきものではない。バルカン諸國はドイツに取つてのみ、穀倉として役立つべきものである」と云ふが如き報告は著しく事實に反する(Foreign Policy Reports, 15 Oct. 1940)。寧ろドイツは被占領國諸政府に協力して食糧難の緩和に懸命の努力を拂つてゐる。

若干の實例についてみれば、舊ポーランド領では野菜栽培は數倍となり、ミルクの如きは到るところで増産され、倍加したところさへある。このことは農業機械器具や多數の家畜がドイツから提供されたことに基くものであり、例へば僅々三ヶ月間に六百四十臺の牽引車が供給されたし、又牛馬二萬五千頭、豚五千頭が搬入された(Der deutsche Volkswirt, 11 Okt. 1940)。ヘルザスロートリンゲンに於ても、ドイツはフランス軍によ

つて徴發された馬の代りに鹵獲馬を以て置き代へたし、種子、人造肥料、農業用機械器具を提供したし、占領後最初の數ヶ月間にドイツから搬入された家畜は、馬二千頭、牛四千二百頭、豚二千頭、牝豚二百頭、家雞二萬羽に達した(Wirtschaftsdiensl, 22 Nov. 1940)。

これらのドイツ併合地域以外の占領地區にあつても、ドイツは食糧及び飼料の維持に協力して居り、この故に例へば、デンマーク農務省ベークン委員會の如きは、一九四〇年五月末に「飼料の大量貯蔵が出来たし、ただ輸送の困難が残されてゐるのみだ」と報告し、あらゆる屠殺業者及び屠殺業組合は六月初旬中、豚屠殺を中止すべきことを命じた(Der deutsche Volkswirt, 21 Juni, 1940)。ノルウェーでもドイツの協力によつて漁撈が再開され、大量の魚類が農民の手にはいり得るに至り、不満足ながら肉類、ミルク、バター、卵の入手も可能になつた(Wirtschaftsdiensl, 18 Okt. 1940)。

勿論既述のやうな自然的諸條件や戦争の影響による食糧及び飼料の不足は覆ふべくもないし、加ふるに配給機構の全面的破壊や輸送の困難は、局部的には破局的食糧難を醸し出してゐるであらう。このことは又投機的買占を煽り益々食糧不足を激化した。此處に於てか食糧の割當、價格の統制は不可避だし、農業のある程度の轉換が要求される。既にオスロー、ハーグ、ブリュッセル、或はパリ等のドイツ占領地域にあつては、到るところにドイツ人専門家が活躍して居り、それら諸國の政府と協力して食糧問題の解決に當つてゐる。そして此の場合、例へば農業の轉換、或は市場秩序や消費統制について常に生かされてゐるものは、従來の久しきに互るドイツ農業の貴い經驗である。

かくしてドイツ食糧省は今や、事實上ヨーロッパ食糧不足防止事業の中央局たる任務を負ふに至つた。かやうな、あらゆる生産力の動員により食糧飢饉から歐洲を救はんとするドイツの努力に對しては、既に南歐諸國からの反響があり、例へばブルガリア農務大臣バクリアノフの如きは、緊密な協力の必要を強調してゐるのみでなく、歐洲農業新秩序に對する南歐に於ける理解が餘程進んでゐると述べてゐる(Der deutsche Volkswirt 11 Okt. 1940)。

第三章 占領地域の金融工作

戦國による混亂からの經濟生活再建は、何よりも幣制の確立と、そしてそれによる物價の安定とに基礎を置かねばならない。この點に於てドイツ占領軍が先づ準備したものは軍票 Truppengeld としてのライヒ信用金庫證券であつた。Reichskreditkassenschein と云ふのは後述するやうに被占領國の多くでは舊政權の逃亡と共に、金を初め巨額の通貨が海外に持ち出され、支拂手形の缺乏を生じたからである。最初にライヒ信用金庫證券が軍票として使用されたのは、ポーランドに於てであつた。即ち一九三九年九月二十三日にライヒ信用金庫令が公布され、これに基きポーランド占領地域内に流通する特殊通貨としてのライヒ信用金庫證券が發行されることになつたのである。最初のうち、ライヒ信用金庫證券は一乃至二〇ライヒスマルク及び五〇ライヒスマルクであつたが、後には最高五〇ライヒスマルクプエニヒとされた。金庫はその本店をロツツに置き、その支店を重要な十五ヶ所に設けた。しかし最初からライヒスマルク支配人マックス・クレツチュマンが「バンク」誌上で述べてあるやうに、差當り補助的な發券機關として設けられたものであつた。それ故に一九三九年十二月十五日に新にポーランド發券銀行がクラカウに設けられるに及んでライヒ信用金庫の任務は終り、その支店と共に閉鎖されることになつた。しかしさきに述べたやうに舊ポーランド領は行政的に二つの地域に分たれたので、その各々に於ける通貨工作にも多少の相違があることは當然であるが、その詳細については後に

述べるであらう。

ともあれ、ポーランドに於けるこの經驗はやがてスカンデナヴィア諸國及び爾餘のオランダ、ベルギー、フランス等の占領地域にも導入されるに至つた。先づデンマーク及びノルウェーへのドイツ軍進駐の成るに及んで、この地域にもライヒ信用金庫證券が流通せしめらるゝことになつた。但しこの地域では信用金庫は設置されることなく、専らベルリン本店によつて發行されたのである。

しかるに戰禍が擴大し、オランダ、ベルギー、ルクセンブルグ及びフランスが戰國地域になるに及んで、一九四〇年五月十日に初めて、ドイツ國境外に於けるライヒ信用金庫設置の權限が宣言され、同時に多數の信用金庫の設置により、その西部占領地域に於ける活動範圍が著しく擴大されるに至つたのである。繁雜ながらその組織及び活動範圍に關する規定を掲げれば次の如くである。

ライヒ信用金庫に關する命令

一九四〇年五月三日附（一九四〇年五月十五日附命令を以て改正）

最高國防會議は左の通り定め之に法律たるの效力を有せしむ

- 第一條 (1) デンマーク、ノルウェー、ベルギー、フランス、ルクセンブルグ及オランダに在るドイツ軍隊及行政官廳に對し通貨を供給し並に此等諸地域に於ける支拂取引及經濟を維持せんが爲ライヒ信用金庫券(Reichskreditkassenschein) 及ライヒ信用金庫貨(Reichskreditkassennote)を發行することを得
- (2) 右發行はライヒ信用金庫中央管理會之を爲す。ライヒ信用金庫中央管理會は其の所在地をベルリンに置く
- (3) ライヒ信用金庫に管理委員會を設置し之が所在地をベルリンに置く。管理委員會はドイツ・ライヒスマルク總裁の指

名する者（中一名を委員長とす）並にライヒ財政大臣、ライヒ經濟大臣、國防軍最高司令官の代理人各一名を以て組織す

第二條 (1) ライヒ信用金庫中央管理會は少くとも二名より成る理事團を其の長とす 理事團は管理委員會之を任命す

(2) 中央管理會の聲明は中央管理會理事團の二名の團員が之を發する場合には拘束力を有するものとす 管理委員會の定むる理事團代理人も亦右の聲明を發することを得

第三條 管理委員會は中央管理會の爲したる措置に付常に之が報告を受くるものとす ライヒ信用金庫管理會は管理委員會に對し各曆月末に既發ライヒ信用金庫券の總額及現存準備手段に關する一覽表を提出すべし

第四條 ライヒ信用金庫中央管理會は第一條第一項に掲ぐる目的の爲國に三十億ライヒスマルクを限度として貸上を爲す

第五條 (1) ライヒ信用金庫券は券面五十、二十、五、二及一各ライヒスマルク及五十ライヒスプエンニヒとす ライヒ信用金庫貨は十及五ライヒスプエンニヒとす

(2) ライヒ信用金庫券及ライヒ信用金庫貨は其の發行前ライヒ信用金庫中央管理會より其の詳細なる模様を公告すべし

第六條 (1) ライヒ信用金庫中央管理會は破損、汚損し又は流通に依り毀損せるライヒ信用金庫券を新金庫券と交換するの義務を負ふ

(2) 中央管理會は毀損せるライヒ信用金庫券に付其の所有者が該金庫券の半分より大なる部分を提出するとき又は半分若くは其れより少き部分を提出したる金庫券の殘餘が破滅したる旨證明を爲すときは之が賠償を爲す 中央管理會は訴訟手段に依らずして右の證明が爲されたりや否やを定む

(3) 金庫券の回收及沒收は中央管理會之を爲し、中央管理會は此の點に付詳細なる規定を制定す 該規定は之を公告すべし

(4) 回收せる金庫券は中央管理會の定むる期間の經過後は之を無効とす

(5) 中央管理會は破滅、喪失し及無効となりたる金庫券に付賠償を爲すの義務を負ふことなし

第七條 (1) ライヒ信用金庫を偽りて流通せしめんが爲偽造又は變造したる者は懲役に處し、情狀酌量すべきときは禁錮に處す

(2) 偽造又は變造せられたる金庫券を偽りて流通に置き又は其の傳播に加擔したる者も亦之を罰す 犯人が斯かる金庫券を惡意なくして受取り而も其の不正なることを知りて後偽りて行使するときは二年未滿の禁錮又は罰金に處す 企行も之を可罰とす

(3) 刑の外可罰行爲に關係ある物件を沒收することを得 特定の人を訴追し又は處罰し得ざるときは沒收は之を獨立に言渡すことを得

(4) 前三項の規定は之をライヒ信用金庫貨に準用す

第八條 ライヒ信用金庫中央管理會に對しては總ての公租及公課並に總ての手數料を免除す

第九條 ライヒ信用機關中央管理會の決算は管理委員會の詳細なる命令に依り之を検査す

第十條 ライヒ信用金庫中央管理會の收入は管理費用を控除したる後或は生ずることあるべき損失の填補の爲之を使用すべし

第十一條 財政大臣及經濟大臣は國防軍最高司令官と協議の上本令の施行及補充の爲必要なる規定を制定するの權を有す

此の場合本令の規定を變更することを得

第十二條 本令は公布の日より之を施行す

占領地區に於けるライヒ信用金庫の設置及其の業務範圍に關する命令

一九四〇年五月十五日附

一九四〇年五月三日附ライヒ信用金庫に關する命令第十一條に基き國防軍最高司令官と協議の上左の通定む

第二條 (1) 一九四〇年五月十五日附財政大臣の公告に依る一九四〇年五月三日附ライヒ信用金庫に關する命令第一條第一項に掲ぐる諸地域にライヒ信用金庫を設置す

(2) ライヒ信用金庫中央管理會は各ライヒ信用金庫の理事團及必要なる代理人を定め、各ライヒ信用金庫の住所及施設を定め、並に業務經營を規律す

第二條 (1) ライヒ信用金庫は其の理事團之を裁判上及裁判外に代表するものとす ライヒ信用金庫理事團の聲明は當該ライヒ信用金庫の業務範圍内に於て二名の理事團員又は其の代理人より發せらるゝときは拘束力あるものとす

(2) ライヒ信用金庫の代表權限を有する者の氏名及署名筆蹟は之を其の事務室に掲示して公告すべし

(3) ライヒ信用金庫に對して意思表示を爲すべきときは代表權者一人に對して爲すを以て足る

第三條 (1) ライヒ信用金庫は第一條第一項に掲ぐる諸地域に於ける貨幣取引、支拂取引及信用取引を規正するの權を有す

(2) ライヒ信用金庫は中央管理會の詳細なる指示に従ひ左の業務を爲すことを得

a. 通常三名、少くとも二名の支拂能力ありと認めらるゝ者を債務者とする手形及小切手の賣買、但し該手形は買入の日より計算して六箇月以内に満期に達するものたることを要す

b. 適當なる擔保を供せしめ通常六箇月未滿の利附貸付を爲すこと

c. 無利子資金を振替取引又は預金として受入るゝこと

d. 各種の銀行委託業務の執行、特に手形其の他の證書の取立を爲すこと

e. 有價物件、特に有價證券を保管及管理すること

(3) 前項に規定するもの以外の業務は中央管理會の明示の同意を得たる場合に限り之を爲すことを得 ライヒ信用金庫が手形の引受を爲すことは之を許さず

第四條 (1) 擔保は左のものに依り用意せらるゝことを得

a. 前條第三項 a 號の要件の適格を有する手形に擔保權を設定すること

b. ライヒ信用金庫中央管理會の許可を得たる有價證券に擔保權を設定すること

c. 腐敗の虞なき各種の商品に擔保權を設定すること、但し其の擔保占有の確保し得べきものに限る

d. 公法上の施設に對する貸付に付ては此等施設の債務證書、又は財産物件の引渡を受け又は之に擔保權を設定すること

と

(2) ライヒ信用金庫は右の外副擔保、特に保證を要求し又は許容することを得

(3) ライヒ信用金庫が商品に擔保權を設定せらるゝときは引渡を受くるに代ふるに擔保權の設定が外的徵表、例へば目錄の調製に依り確認せらるゝを以て足る

(4) 擔保供與者が擔保物を引渡すに當り該擔保物が負擔を受くることなき自由なる所有權に屬する旨又は擔保供與者が商人なるときは所有權者より無制限處分權を委ねられ居る旨の文書に依る證明書を交付するときは該擔保物に對する第三者の權利はライヒ信用金庫に知られ居りたる場合に限りライヒ信用金庫の不利益に主張することを得

第五條 (1) 擔保物は元本、利息及費用に付其の實に任す 利息及費用は貸付金額より直接天引することを得

(2) 擔保權に依り保證せらるゝ債權が期間通りに返還せられざるときはライヒ信用金庫は擔保物を催告又は通知なくして且つ裁判所の授權又は協力なしに取引所價格若くは市場價格又は其の適當と認むる價格にて一般競賣又は自由の方法に依り賣却し又は之を自己の所有に移すことを得 ライヒ信用金庫は該權利を他の債權者及債務者の破産財團に對しても有するものとす

(3) ライヒ信用金庫は擔保契約に基く其の權利を主張するの外其の債權を直接債務者に對し主張することを得

第六條 ライヒ信用金庫の業務取引に適用せらるべき利率はライヒ信用金庫中央管理會之を定む



第七條 流通ライヒ信用金庫券は左のものに依り準備せらるゝことを要す

- a. ライヒ信用金庫に於ける本令第三條第二項 a 號の適格を有する手形及小切手の現在高
- b. 本令第三條第二項 b 號に依る貸付業務に基く債權
- c. 獨逸國支拂手段の現在高及管理委員會の細目規定に従ひ外國支拂手段の現在高、獨逸ライヒスバンクに對する預金勘定、清算取引に基く資金勘定並に獨逸ライヒ國庫手形
- d. 一九四〇年五月十五日附財政大臣公告に依る一九四〇年五月三日附ライヒ信用金庫に關する命令第四條に依る獨逸國に對する貸上金債權

第八條 本令は一九四〇年五月十日より之を施行す

ところで、その結果はこれらの地域に於てはライヒスマルクによつて表示された信用金庫證券と從來の通貨との二種が並び流通せしめられることとなり、爲に兩者の交換比率の決定に迫られ、六月末に至り次の如くに定められた(Frankfurter Zeitung, 30 Juni 1940)。

- 一 デンマーク・クローネ 五〇ライヒスプエニヒ
- 一 ノルウェー・クローネ 六〇ライヒスプエニヒ
- 一 オランダ・ギルダー 一・五ライヒスマルク
- 一 ベルギー・フラン 一〇ライヒスプエニヒ
- 一 ルクセンブルグ・フラン 一〇ライヒスプエニヒ
- 一 フランス・フラン 五ライヒスプエニヒ

しかるにかやうに二種の通貨の流通することは通貨の混亂を招き、したがつて可及的にそれを回避する爲の方法が講ぜられた。例へば、ノルウェーにあつては、ドイツ占領軍當局はノルウェー銀行との協定により、ノルウェー銀行はドイツ軍當局の必要とする額を直接にノルウェー・クローネで支拂ふと共に、ノルウェー銀行に對しては之とライヒスマルクに表示された相當額を信用金庫ベルリン本店の借方と記入された。それ故に實際にはドイツ占領軍は軍票としての信用金庫證券を行使することとなり、したがつてノルウェーには軍票の流通はなかつたのである。デンマークでは發券銀行とのかゝる協定はなく、なほ信用金庫證券は流通してゐるが、ノルウェーの場合と同じく、此處でもその流通を阻止せんとする傾向が現れた。同様な傾向はオランダ、ベルギー、ルクセンブルグ、及びフランスに於ても生じてゐる。

だがこれらの地域では前二國と異り、戰國も激甚であつたし、發券銀行を初め主要金融機關の首腦者達はその財産を持つて國外に逃亡し、一切の支拂取引は停止してゐた爲に、事態はより困難であつた。此處に於てか、デンマーク及びノルウェーとは異り、この地域には多數の信用金庫が設置せられ、完全な軍票制度が樹立されざるを得なかつたのである。

しかし正常な取引關係の最も早く回復されたオランダでは、七月初めに至つてオランダ銀行との協定により、國內に流通して居る信用金庫證券をグルデン券と兌換し、支拂手段としては専らグルデン券が流通せしめられることになつた。

之に反してベルギーに於ける事情はより困難であり、後述の如くこの國の新發券銀行が營業を開始したのは

漸く七月十五日に至つてからであり、したがつて正常な支拂取引が回復されるまではなほ當分信用金庫の活動が要求されてゐる。

フランスに於ても銀行取引は徐々に再開されるに至つた程度に止つてゐる現在にあつては、ライヒ信用金庫網は「大西洋岸からピレネー山脈に至るまで」の廣大な地域に擴張されねばならなかつた。尤もフランス銀行は本店をパリから非占領地域に移したが、漸く占領地域に對しても漸次支拂手段を供給し得る状態に立ち至つたし、したがつて早晚信用金庫を解散し得る見透しもついでゐるといふ (Der deutsche Volkswirt, 16 Aug. 1940)。

だが何れにしても、これら占領地域の通貨は従來のポンドへの連繫から離脱して完全にライヒスマルクにリンクすることとなり、これは恰も嘗てスターリング・ブロック内部に於て、イギリスとブロック諸國との間に存在したやうな依存關係が生ぜしめられることになつたのである。かくして信用金庫の存続する与否とに拘らず、占領地域の通貨はライヒスマルクに對して一定の交換比率を決定され、之に基づきライヒを中心として各種の取引が行はれることになつた。しかるにこの場合今一つの主要な問題は、諸地域間に於ける物價の調整である。物價水準の相違及び各種通貨の購買力の差は、ドイツ及び占領地域との取引を損ふからである。この問題についてはさきにオーストリア及びチェッコの併合の際に前例があり、爾餘の占領地域に於てもこの前例が踏襲されたのである。それ故にこゝに從前のこれらの經驗を顧みよう。

オーストリア併合後の一九三八年四月十五日に「オーストリア及び爾餘のドイツ地域との間に於ける商品取

引上の價格形成に關する」價格形成委員の命令によつて、舊ドイツ地域からオーストリアに對して販賣される商品は、一九三六年十一月二十六日の價格引上停止令及び爾後の各種の價格令による最高價格を超え得ざるものとした。同時にこの際反對にオーストリアからドイツに移入される商品取引については、三月十七日のオーストリアの物價水準を以て價格形成の基準たらしめることにした。

ズーデテンの併合の際にも同様な處置がなされたが、たゞオーストリアの場合と異なるのは、その商品が何れの地域から賣されるにしても、それに差異を設けなかつたことである。寧ろ相互の商品交換に於ては、ドイツ又はオーストリア内部に於ける商品取引上規準になつた價格が基礎にされた。それ故に、例へばズーデテン地域の引渡業者はその商品の引渡に際して、該商品のズーデテンに於ける價格がドイツやオーストリアのそれよりも低廉であつても、これら地域に於けると同一の價格を要求し得るとの規制が爲されたのである。

この二つの、オーストリア及びズーデテンとの商品取引價格に關する基本的原則に附隨して、漸次多數の個別的法規により價格の統制が行はれ來つたのであるが、遂に一九四〇年三月十二日に至つて二つの命令が交付された。これに基き、爾後オーストリア及びズーデテンと従來のドイツ地域との間の相互の商品取引にあつては、夫々の地域の價格停止令又はその他の價格統制規則による最高價格を超え得ざるものとされることになつたのである。

爾後次々にドイツによつて完全に併合された諸地域に對しても同様な規則が爲された。即ち、チェッコの併合後一九三九年四月二十七日價格形成委員は、特殊の法規公布まではドイツから保護領に對して引渡される商品

取引にあつては、既存契約による取引關係にあつては従來の輸出價格に依り、輸出代金の繼續的な立替の場合にのみ一定額の引上が許され、之に反して、新規取引にあつては、國內取引價格を超えるを得ないことになつた。メーメル、ダンチック、オイペン、マルメデー及びモレネ地方に於ても同様な對策が講ぜられた。即ち、これらの地域の夫々に於て價格統制規則が公布されたが、それらに共通な一般的原则によれば、あらゆる引渡人は價格停止令及びその他の該地域で施行される最高價格規制に従ふべきことが許されてゐる。

オスト地域のドイツ併合後にあつては、全般的な價格規定は公布されることなく、他のポーランド地域との相互的商品取引に於ける價格形成は寧ろ一九三九年十月四日のドイツ價格形成委員の布告によつて爲される。これにより舊ポーランド占領地域相互間の商品取引に關する規則の公布までは、國內取引上の最高價格迄が許されることになつてゐる。

しかるに併合地以外の他の占領地域との商品取引の問題は、依然として關稅が存在し、且つ通貨を異にする故を以てより困難であつた。

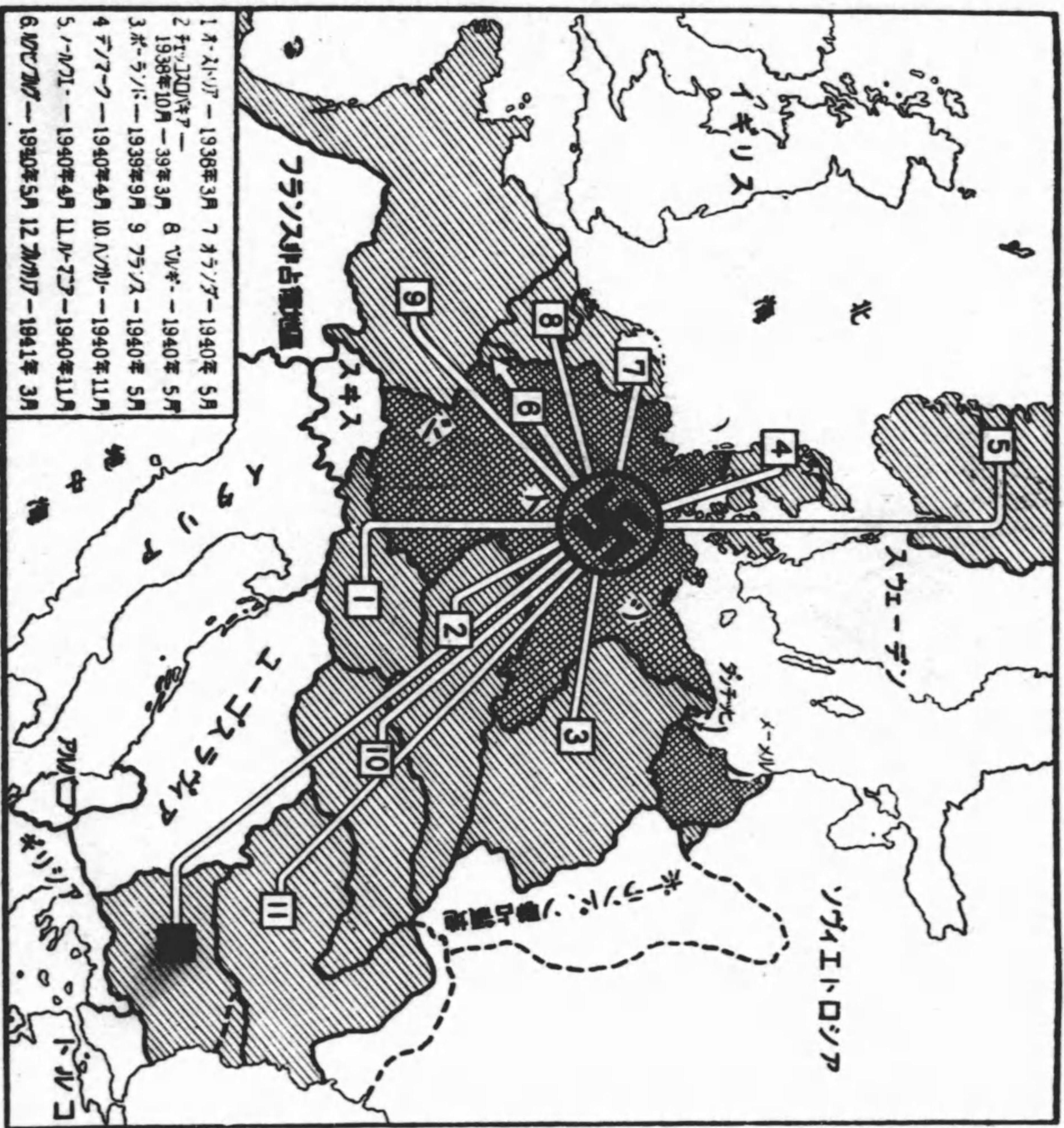
先づクラカウ總督領とドイツとの間の取引では、さきの一九三九年十月四日の價格形成委員の布告が適用されて居り、關稅に關しては一九四〇年七月十九日の價格形成委員の布告により、保護令に適用される規準を準用して、この地域に對する取引にあつても、ドイツ引渡人が負擔すべき關稅は算入されることになつた。

他の占領地域にあつて法的規則の公布されたのは、エルザス・ロートリンゲン及びブルクセンブルグのみである。この地域に於ける物資の供給は後述のやうにドイツに依存するところ多大であり、それ故にエルザス及び

ロートリンゲンでは貨銀と物價とは一九四〇年八月十一日乃至十九日の命令によつて隣接ドイツ地域との間に調整が爲された。ルクセンブルグでも同様な規制が實施されてゐる。そしてドイツからこの地域に移出される商品については、一九四〇年八月二十八日の價格形成委員の布告が適用され、國內取引上の最高價格を超え得ざるものとした。

北歐及び西部占領地域にあつては、ドイツとの相互取引上の價格形成の原則として國內最高價格を決定し、例外の要求される場合には商品統制當局の許可を要すべきものとされ、オランダでは既にこの原則は採用された。即ち、一九四〇年の價格令第一號は一九四〇年五月九日現在の商品と、品質及び數量の等しいもの、輸出向に於て、當時の價格以上に引上げることが禁止した。ドイツとベルギー間の取引については、右の原則は一九四〇年五月十日の軍司令官によつて公布された價格引上禁止令に含まれてゐる。これにより占領地域から領土内への取引にあつては、進軍當時の價格以上に引上げることが禁止された。フランスについては何等の法的規制は爲されてゐないもの、如くである(Wirtschaftsdienst, 27 Sept. 1940)。

第一圖 ヨロッパに於けるドイツ制覇の過程



(日附は侵入又は屈服の年月を示す)

第二部 各論篇

第一章 ポーランドの經濟及び經濟工作

ポーランド中ドイツ領になつたのは、舊ポーランド總面積の約五分の三、即ち二十三萬平方千米で、人口は二千四百萬人、つまり總人口の七割を含む地帯である。この地域はポーランド最大の工業地帯たる上部シュレジェンを包括し、工業の九〇%、農業の五〇%を含むものと云はれてゐる。とりわけ石油以外の礦物資源は悉くこの地域に集中してゐる。試みに一九三七年の舊ポーランド礦物及び金屬生産額をみれば、次掲の如くになつてゐるが、石油を除きその大部分は獨領下に生産されるものと考へても差支へない。

舊ポーランド礦物及び金屬生産額 (一、〇〇〇噸 一九三八年)

石	炭	三八、一〇〇	鐵	鑛	石	八七三	銑	鐵	一、二〇〇
鉛	一八	亞	鉛	一〇七	岩	鹽	六〇〇		
硫	酸	二二五	石	油	五〇七				

(Zeitschrift für Geopolitik, Heft Juni 1940)

礦物資源中最大のものは、云ふまでもなく石炭であり、總埋藏量は七百五十億噸と推定されてゐる。その最大の産地は東上部シュレジェン、チェッヘンシュレジェン、ドムプロワ、クラカウ竝にチェッコから奪取されたオルザ地方である。石炭の外にも褐炭が主としてポメルン及びロツツに賦存する。

鐵鑛石は就中上部シュレジェンに存在し、一九三八年の如きは八十七萬三千噸の生産があり、これは正に舊

ドイツのその十二倍に當る。だがこれらの鑛山は近年殆んど掘り盡されてしまひ、現在ではキェルツに最も多くの生産がある。

かゝる石炭及び鐵鑛石生産の基礎の上に從來の南西部ポーランドの東部オーバーシュレジェン、グムプロヴァス、オルザ地方の重工業地帯が形成されてゐる。ポーランドの全鐵鋼業はこの地帯に集中して居り、一九三八年には、マルチン爐七〇、高爐二九、電氣爐七、壓延工場七つが運轉されてゐる外、多數の加工工場があつた。だが生産増大と共に、鐵鑛原料が不足であり、一部外國産鑛石及びスクラップを輸入せねばならぬ。例へば最近ではこれら原料の輸入は百五十萬噸に達し、ポーランド總輸入額の四〇%以上を占めてゐるのである。

しかし機械工業その他の軍需工業はこの地域にのみ集中することなく、一部はオーバー・シュレジェンに、一部はサンドミールの謂はゆる中部工業地帯に、一部はワルソウ附近に集中してゐる。最も重要な工作機械工場や殆んど總ての光學及び精密機械器具工場はこれらの地帯に存在するのである。

鉛及び亞鉛鑛も亦、殆んど全くオーバー・シュレジェンから採取され、その冶金及び加工工場もこの地域に立地してゐる。しかし近年その生産は減退の傾向にあり、一部は既に掘り盡されてしまつた。その結果として、一九三八年には合計十六の鉛及び亞鉛冶金工場中で十一工場が休止してしまつた。

獨領下のポーランドでは石油生産は多くはないが、なほドロホビツツ、ヤスロー、スタニスラウ等に生産され、一九三八年の採油量は五十萬七千噸に達した。右のうち、ドロホビツツの産油は減退の傾向にあり、之に反してヤスロー油田は有望であつて、絶えず擴張されてゐる。一九三八年に一萬人以上の人員を以て約十ヶ所

の試掘が行はれたが、餘り好ましい結果は得られなかつた。精油業には約三千人の従業者が働いて居り、全ポーランド産油額の三分の一を出してゐる。

以上の鑛業及び鐵鋼業と並んで、纖維工業はこの國の重要な工業の一つである。その約三分の二はロッツ地方に集中して居り、之に次ぐ中心地はビエリツツ及びビヤリストツクである。一九三八年に於てその生産は絲類百三十萬ドッペルツェントナー、織物(綿布、毛織、絹織物、人絹、麻織物等)九十五萬三千ドッペルツェントナーに達した。それ故にこの國の纖維關係品生産はドイツの約四分の一である。だが、原料供給の點からみれば、三十八萬一千ドッペルツェントナーの亞麻、十一萬五千ドッペルツェントナーの大麻、竝に僅少の羊毛が生産されるのみであつて、他は大部分外國から輸入されねばならない。

纖維工業に次ぐ重要工業は化學工業である。この工業も豊富な石炭の基礎に立つものであり、したがつて上部シュレジェンに最も多く集中してゐる。一九三八年にはタール一億一千二百萬噸、ベンゾール三千六百四十萬噸の生産があつた。主としてコルツォフに生産される窒素肥料も亦、ポーランド工業生産物中重要なもの、一つである (Heknut Vollweiler, Die wehrwirtschaftliche Bedeutung der besetzten polnischen Gebiete, Zeitschrift für Geopolitik, Juli, 1940)。

その他の消費財生産は主として、ワルソウ、ポーゼン、クラカウ、ブロンベルグ等の都市に集中してゐるが、之に反して、食糧品工業例へば製粉、醸造、澱粉、罐詰工業等は著しく分散してゐる。

かやうにポーランド工業は比較的優れたものではあるが、その發展のテンポをみれば、ドイツはもとより、

その他の諸國に著しく劣つてゐる。工業生産が第一次大戦前の一九一三年の水準を回復し得たのは漸く一九三七年（之に對してドイツは一九二七年）であり、世界工業生産に對するポーランドの参加等も、一九三八年には〇・七六%で、一九三三年の一・一四%に比すれば著しい低下である。

このことについては種々の原因が挙げられるであらうが、一つには國內市場の狭小に原因するものである。工業部門では小規模經營が支配的であり、中規模及び大規模經營はその企業數からすれば極めて少く、工場労働者の賃銀は低廉である。農業にあつても、農村は人口過剰な部分が多く、大部分の土地は細分化され、土地からの收穫によつて最低生活水準をさへ維持し兼ねるものが少くない。したがつて農村の購買力は低く、一般に國民所得は中央及び西歐諸國に比して遙かに少い。次掲は一九二九年の國民所得の比較であるが、これによれば一人當り國民所得はドイツの二千五百ツロチー、合衆國の五千八百ツロチーに對して、ポーランドのそれは僅かに九百ツロチーにしか過ぎない。この開きは爾後も決して縮まつてはゐないのである。

各國の國民所得比較（一人當り、一、〇〇〇ツロチー）

ポーランド	〇・九	ギリシャ	〇・八
ルーマニア	〇・六	ブルガリア	〇・四
フランス	二・一	ドイツ	二・五
イギリス	四・二	合衆國	五・八

(Institut für Konjunkturforschung, 12 Jg. No. 32)

勿論東南歐諸國のそれよりは幾分高いとしても、國民の生活水準や購買力そのものはこれらの諸國に比し、

決して高くないのである。

かやうな國民購買力の低さは、工業生産物の消費高の上に現れてゐる。代表的な若干の商品についてドイツとの比較を示せば、兩者の間には次のやうな開きが見出される。

工業生産物消費高	ポーランド	ドイツ
石炭	一九三八年 一人當キログラム 七九〇	二、八九〇
電力	一九三七年 一人當キロワット時 三八	二四八
機械	一九三七年 一人當ライヒスマルク 一〇五	七二二
人造肥料	一九三七年 農業用地一ヘクタール當キログラム 三	四七
紙	一九三五年 一人當キログラム 四・六	八五
織物	一九三七年 同 四・五	二九・八
藥品	一九三七年 一人當ライヒスマルク 〇・八〇	一五

(Vierteljahrshefte zur Wirtschaftsforschung, 14 Jg. 1939—40)

かくの如き國內市場の狭さは勢ひその販路を海外市場に求めねばならぬ。それ故にこの國の工業は必然的に外國市場に依存し、例へば一九三〇年には石炭の四三%、石油生産物の三九%、鐵鋼製品の五二%、亜鉛の八六%、毛絲製品の三八%が輸出されたのである。しかるに世界經濟恐慌に直面して價格の下落となり、輸出も不振に陥つた。かやうな輸出の不振は、この國の機械類、化學製品等の生産部門では輸入超過になつてゐる爲に、ポーランド經濟に極めて好ましからざる影響を與へてゐる。加ふるに原料供給についても、前述のやうに

石炭や金属半製品等にあつては輸出超過ではあるが、繊維諸原料を初め、各種の原料を輸入に俟たねばならぬ。即ち、全體としての原料關係に於ても一億ツロチー以上の入超になつてゐるのであり、このことはポーランド工業に大きい弱點となつてゐる。

國內資本の乏しさはポーランド工業に取り今一つの弱點を形成してゐる。即ち、第一次大戦後からポーランド工業の外資に對する依存性は漸次高まり、最近の一九三九年に於てイギリスに五百八十萬ポンド、フランスに四億三千萬フランの信用を求めねばならなかつたのである。

かやうな工業活動の不振に直面して、工業の危機が最高潮に達した一九三五—三六年前後に、舊ポーランド政府は、國內市場振興の目的を以て総合的投資計畫を立てた。この國家的投資計畫は最初には交通網、電力事業等の建設、次いで軍需諸工業の擴充を目指すものであり、四ヶ年計畫及び三ヶ年計畫の名の下に包括された。これが概要を示せば次の如くである。

ポーランド國家投資計畫

一 四ヶ年計畫（一九三六—三七年乃至一九四〇—四一年）

主 要 目 的

交通、電力事業、諸工業の擴張

一九三六—三七年	三四〇百萬ツロチー
一九三七—三八年	四〇〇
一九三八—三九年	四七〇
一九三九—四〇年	五九〇
合 計	一、八〇〇

二 第一次四ヶ年計畫の擴張（一九三七—三八年）

工業中心地帯サンドミール建設の準備

内 一九三七—三八年分	八〇〇(前計畫四〇〇)
一九三八—四〇年分	一、二六〇

三 第一次四ヶ年計畫の擴張（一九三八—三九年）

サンドミール工業地帯の建設

一九三八—三九年分 一、〇〇〇百萬ツロチー

一九三九—四〇年分 一、二五〇百萬ツロチー 軍需工業制度の確立

一九三九—四二年分 二、〇〇〇 Institut für Konjunkturforschung, Vierteljahrshefte zur Wirtschaftsforschung, 14 Jg. 1939—40

ポーランド専門家の推定によれば、右の計畫による實際の投資額は、常にこの額を超えてゐるといふ。

この努力により生産は著しく刺戟され、一九三五年乃至三八年迄に、生産財生産は五七%、消費財生産は二五%方高まつた。

かやうな努力の結果、ポーランド工業は著しく發展し、一九三八年には全面的に一九二八年の水準を超えることが出来た。しかし此處で注目すべきは、生産財生産の増加が消費財のそれよりも遙かに大なることであり、これは右のポーランド四ヶ年計畫の性格からも知られる如く、軍備の充實に力點が置かれた爲である。例へば一九三五年から一九三八年迄の間に生産財生産は五九%も高まつたのに、消費財のそれは僅かに二五%しか上昇してゐないのである。

舊ポーランド(獨領)工業生産

年次	總生産	生産財生産	消費財生産
一九二八年	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九三五年	八五	八八	八四
一九三六年	九四	一〇三	九〇
一九三七年	一一一	一二七	九九
一九三八年	一二〇	一四〇	一〇五
一九三九年	一二六	一四五	一一四

第一四分一二期

(Vierteljahrshefte zur Wirtschaftsforschung, 14 Jg. 1939—40)

ポーランドはヨーロッパでも優れた農業國である。舊ポーランドに於ては總就業者数の約七〇%が農業に従事してゐた。農業用地總面積は約一千八百七十萬ヘクタールであり、したがつてドイツでは人口百人當り農業用地は四十二ヘクタールに過ぎないのに、ポーランドでは六十一ヘクタールに當る。かくして嘗てプロシヤ領であつたポーゼン、ポメルン、東部オーバー・シュレジエンやキエルトツ、クラカウを中心とする農業地帯では豊かな農業生産があり、パン用穀物、飼料、牛、豚、ミルク及び脂肪類は過剰である。

ところが、この國の農業の生産状態そのものは劣悪だとされてゐる。しかしこの場合第一次大戦前にドイツ領であり、今やオスト・ゲビートとして再びドイツに併合された地域とクラカウを中心とする總督管下に置かれた地域とは著しく事情を異にする。例へばオスト・ゲビートは舊ポーランド穀物耕作總面積の一四%しか

いのに、穀物生産では總額の一九%を占めて居り、このことはこの地域の集約度が他のそれよりも高いことを意味する。ヘクタール當り收穫は他の地域のそれよりも七〇%も高いのである。

平均收穫 (一、〇〇〇畝)	平均收穫 (一、〇〇〇畝)				穀物合計	馬鈴薯
	ライ麥	小麥	大麥	燕麥		
オスト・ゲビート	一、三四四	三三〇	三二六	三六二	二、三六二	五、七八五
他の地域	三、二四六	九一一	六〇五	一、二三九	六、〇〇二	一五、八五二
合計	四、五九〇	一、二四二	九三一	一、六〇一	八、三六四	二一、六三七

(Institut für Konjunkturforschung, Vierteljahrshefte zur Wirtschaftsforschung, 14 Jg. 1939—40)

しかし一般に單位當り收穫の少いことは明らかであるが、このことは氣候、地味等の自然的諸條件によるものではなくて、經營の不良、農民の無氣力等の故である。しかもなほ且つ人口に比し、生産の絕對量が大きい為、従來の穀物や馬鈴薯の收穫は國民を扶養して餘りがある。即ち、ドイツでは國民一人當り穀物收穫は三百三十二キログラムであるのに、この國では約四百キログラムであつて、約二〇%も高く、殊に馬鈴薯の如きにあつては四〇%も高いのである。

人口一人當り穀物、馬鈴薯收穫 (キログラム)	人口一人當り穀物、馬鈴薯收穫 (キログラム)					
	ライ麥	小麥	大麥	燕麥	穀物合計	馬鈴薯
オスト・ゲビート	一一〇	七六	五一	八五	一、一九〇	六五九
他の地域	二七七	六八	六七	七四	一、一九〇	九三三
合計	一九一	五四	三六	七三	五三	九三三

第一章 ポーランドの經濟及び經濟工作

(Vierteljahrshefte zur Wirtschaftsforschung, 14 Jg. 1939—40)

砂糖も亦、完全に自給されるのみならず、その剰餘は輸出されてゐる。だがこの輸出は國內消費が一人當りではドイツの半分にしか當らないことをみれば、國內消費者の犠牲によるものだといふことが出来る。家畜数は比較的少く、ヘクタール當り飼畜数はドイツの約半數である。殊に飼料用地單位當り豚の數はドイツの三分の一であり、牛は約半分である。たゞ馬のみは例外的に多いが、この地域では耕作用に多數の馬を使用することによる。今一九三七年の家畜飼育數をみれば次の如くである。

ポーランド家畜數 (一、〇〇〇頭)

オスト・ゲビート	馬	牛	豚	羊	山羊
ポメルン	一五二	三九四	四六一	一五三	二二三
ポゼン	二七八	七八七	九五四	一五八	一二九
東シュレジエン	三四	三三一	八六	七	五九
計	四六四	一、三一二	一、五〇一	三一八	二二一
總督管轄區	一、五九三	四、六二九	三、一九二	四八〇	一三二
總計	二、〇五七	五、九四一	四、六二八	七九八	三四三

(Vierteljahrshefte zur Wirtschaftsforschung, 14 Jg. 1939—40)

かやうな農業生産の基礎の下に、大體に於て農産物は國內需要を充して餘りがあり、次掲のやうに可なりの輸出を示してゐる。併しこの場合注目すべきは、國民の生活水準の低さの故に、消費水準も亦、低いことである。

農産物輸出入額 (一九三四—三七年平均、一、〇〇〇噸)

輸入超過	輸出超過	米	玉蜀黍	鮮肉
油用植物	五四	マルガリン	四一	三
魚油	七		七	六・四
鹽藏肉	四三・七			
小麥	五六	ライ麥	三〇五	大麥
燕麥	六〇	小麥粉	五二	ライ麥粉
馬鈴薯	三九	甜菜	八〇	砂糖
牛(一、〇〇〇頭)	一三	豚(同)	一八一	家畜
ベーコン	二四	バター	七・三	チーズ
卵	二三・九	油	一一	バター

以上に於て概観したやうに、舊ポーランドの産業は全體としてこれを見るときは、工業もまた農業もそれ程優れたものではない。だがこのことについては經營の不良、資本の不足、労働者の無氣力、組織の不備、交通の不完全等に主たる原因があり、自然的諸條件には寧ろ恵まれて居り、此處に諸産業のなほ發展すべき多くの餘地が残されてゐる。かゝる事情の下にポーランドは獨ソの分割するところとなつたのである。

既述のやうに獨領に歸した舊ポーランドは行政的に二分され、したがつてその各々に於ける經濟政策も亦、

當然に異らねばならなかつた。

一 東部地方

總督領に屬する約十萬平方杆の土地には一千二百萬乃至三百萬人の住民が居住し、人口密度は一平方杆當り百二十人乃至百三十人である。ラドム縣の北方部及びワルソウ縣の大部分の地方では、百ヘクタールの農業用地に對して人口は四、五十人にしか過ぎないがクラカウ縣のガリシヤ方面ではこれだけの農業用地に百八十乃至二百五十人が農業に従事してゐる。それ故に後者では勢ひ土地は細分化されざるを得ず、ガリシヤにあつては自作農地は全農業用地の五分の一にしか過ぎず、しかもこれらの自作農は高々二ヘクタールの土地しか持つてゐない。クラカウ縣に於ける平均經營規模は、農業經營數四十二萬六千五百七十七、總用地面積二百ヘクタールに對して、四六八ヘクタールである。かゝる土地の零細化は何よりもスラヴ人の相續慣習の結果によるものであるが、とも角も、嘗て獨領であつたオスト・ゲビートでは四百七十五ヘクタールの農業用地に對して農民數は百人であるにも拘らず、ガリシヤでは同數の百人の農民が精々五十ヘクタールの土地を所有してゐるに過ぎない。かくしてこの地方ではあらゆる農業經營中一〇ヘクタール以下の土地所有が五〇%、大農と稱せられる一〇〇ヘクタール以上が一七%、二〇乃至一〇〇ヘクタールには三%、残りが一〇乃至二〇ヘクタールの農業經營である。しかも良地の大部分が一〇ヘクタール以下の零細農の手にあり、彼等はその家族數の多い爲に、肥料を充分に購入することも出来なければ、その生産物を市場に出す餘裕もなく、市場にその收穫を出し得

るものは少數の一〇〇ヘクタール以上の經營のみである。ドイツではヘクタール當り窒素肥料の消費は二二キログラムであるのに、舊ポーランド領の平均では一・六キログラムにしか過ぎぬ。種子の如きも劣悪であつて、總督府農業食糧局長ケルターの云ふところによればドイツに比し四十年も遅れてゐる(Wirtschaft dienst, 9 Aug. 1940)。

かゝる事情の下に、收穫の不良であることは云ふまでもない。總督府管轄下では、ドイツの收穫がライ麥二二トッペルツェントナー、小麥二三トッペルツェントナー、大麥及び燕麥二〇・二トッペルツェントナーであるのに對して、夫々一一・七、一一・三、一二トッペルツェントナーにしか過ぎない。

零細農經營の結果は、家畜飼育數の上にも影響してゐる。クラカウ縣ではあらゆる經營中、馬のないものが六三%、豚のないものが三〇%である。しかも他方に於て耕作物が比較的發達してゐるが、これらの作物は家畜飼料に供せられることなしに、農民の自家消費たらしめられる。かうしてドイツでは一〇〇ヘクタールの土地に對して、牛七八頭、豚九七頭、羊一六頭、雞二一〇羽が飼育されてゐるのに、この地域では同一面積に、牛四七・七頭、豚三〇頭、羊五頭、雞八二羽しかないのである。

かゝる事情の下に總督府管下の農業にあつては、何よりもその經營の合理化に精力が集中された。先づ總督府食糧局は一〇〇ヘクタール以上の農業經營を、すべてその管理下に置くと共に、從來のポーランド國有地、不在地主及びユダヤ人の所有地は沒收して、之を不動産管理所の管轄下に置き、殘餘の土地はドイツ委員會の支配下にある四つの農會の保護下に置かれることになつた。同時に緻密な強制的市場組織が急速に作り上げら

れ、四ヶ年計畫の下に総合的な農産物増産計畫が實施され、ドイツの戦時經濟に即應せしめられるに至つたのである。

總督の四ヶ年計畫令によれば、この農業生産の轉換及び増加の目標は、就中耕作物の擴大にある。但しこのことの爲にパン用穀物の耕作を減じてはならぬ。従來ポーランドでは耕地の僅か八乃至一〇%が耕作物に充てられてゐたのであるが、爾後各農業經營の耕地の平均三分の一を以て之に充てるべきことが目指されてゐる。とりわけ甜菜耕作地三萬二千ヘクタールから六萬五千ヘクタールに、馬鈴薯耕作地を十二萬ヘクタールから最低百十萬ヘクタールに擴大することが計畫され、他に利用價值がない場合には、馬鈴薯を豚の飼料に向けようと云ふにある。同時に燕麥の生産及び油料植物並に纖維植物の最大限の増産、煙草作付面積の約六千ヘクタール迄の倍加、飼料耕作の合理化、等々がもくろまれてゐる。

この目的の爲に何よりも要求されるものは、施肥の増大、種子の選擇、機械使用の増加にある。従來ポーランド農業では、ヘクタール當り窒素肥料の消費量はドイツの二二キログラムに對して、僅かに一・六キログラムにしか過ぎなかつたが、この點に於てドイツ治下の最初の一ヶ年間に早くも次のやうに倍加されたことは注目すべきである。

總督領の人造肥料消費高

窒素肥料	一九三九年春	一九四〇年春
	二五、〇〇〇馬	六〇、〇〇〇馬

加里肥料	一九三九年春	一九四〇年春
	一一、〇〇〇	三〇、〇〇〇
過磷酸肥料	一九三九年春	一九四〇年春
	一四、九〇〇	二五、〇〇〇

(Frankfurter Zeitung, 29 Okt. 1940)

種子については、種子委員會が設けられ、種子の改良、選擇、價格の公定を以てその任務たらしめると共に、他方ではドイツから優良種子が供給された。そのみでなく、他方ではドイツからの供給も企てられ、牽引機の如きは一ヶ年も立たぬうちに三倍になつた。ドイツから供給された各個の農業用機械器具についてみれば、牽引機八十臺、大型打穀機五十臺、條播機七百臺、刈取機七百臺、耙二千、鋤一萬一千となつてゐる。これに對する代償として相當額の鐵がドイツに輸出された (Allgemeine Zeitung, 7 Juli 1940)。その後の報告によれば、ドイツからの供給はより増加し、最初の一ヶ年間に提供されたトラクターは八十臺、鋤は五萬に達してゐる (Frankfurter Zeitung, 29 Okt. 1940)。

同時に國內でも農業用機械器具の供給を高める爲に、修繕工場は再組織され、各區毎に必ず一組の工場が設けられ、休止工場の再開の爲に百萬ライヒスマルクの資金が支出された。

既述のやうに、従來ポーランド農業の痛になつてゐた零細農業改善の爲に、ドイツ委員を以て前記の四つの農會を獨占せしめ、従來のポーランド地方農會の技師、牧畜顧問の如き専門家の協力の下に、一〇〇ヘクタール以下の小農の増産促進を計らしめることにした。

土地改良の分野に於ても、ドイツ政府當局は熱心な努力を拂ひ、四ヶ年計畫案では七十萬ヘクタールの改良

を目指して居り、この目的の爲に二億六千五百萬ツロチーの支出と約四萬五千人の労働者の充當とが豫定されてゐる。この計畫の持つ意義は、舊ポーランド政府が二十年間に僅かに四十萬ヘクタールの土地改良しか行ひ得なかつた事實と對比すれば明瞭である(Wirtschaftsdienst, 9 Aug. 1940)。

この問題に絡んで重要なのは治水事業である。これが事業計畫については總督府食糧農業局長ケルナーは次のやうに、その内容を明らかにしてゐる。先づその目的の爲に、建設局二百五十を設けて労働者三萬四千人を雇ふ。そして濕潤地及び荒蕪地開拓及び灌漑路建設の爲に初年度に於て五千七百萬ツロチーが支出されることになつてゐる(Wirtschaftsdienst, 25 Okt. 1940)。

かゝる農業經營上の精力的な改善によつてその増産を計ると共に、食糧需給の組織的な計畫が立てられてゐる。九月に總督フランク博士が聲明してゐるやうに、パンの切符制度及び分配制度の實施は、國民扶養の爲に独自の立場から爲されたものである。又八月の命令では、生産者に對して種子用及び自家消費量を差引いた残額を配給局に引渡すべきことを命ずると共に、他方精穀についてはライ麥は八〇%、小麥は七〇%と規定した。穀倉の不足に關しては、破壊された建物に修理を加へて之に轉用し、近代的な輸送機關の不足は多大の労働力を要するが、一部はユダヤ人を以て之に充てた。他方に於て近代的倉庫の建築事業も進んで居り、各地區には二千乃至三千噸積の穀倉が出来てゐるが、年末迄にこの種の倉庫十四が完成する豫定である。

耨耕作物の強化及び飼料の合理化と相俟つて、用畜の急速な増加が企てられてゐる。從來この地域には約百九十萬頭の牛が飼育せられ、これらから平均約一千二百キログラムのミルクが供給されたが、それはドイツの

搾乳率の約半分にしか足りない。この故にミルク生産を二千乃至二千五百キログラムに増加する計畫を立て、この目的の爲に一九四〇年九月に牧畜獎勵令が公布され、二十の牧畜局が牧場を監督し、大經營は總てミルク統制局の監督下に置かれた。又比較的大經營に對しては、二ヘクタール當り大型家畜二頭を飼育すべきことを獎勵した。だが現状では一般に家畜は不足であり、したがつてドイツから優良種の移植が必要とされ、最近牡種牛三七五頭、牛一、三九四頭、豚八九、〇〇〇頭、羊一〇、〇〇〇頭が輸入された(Frankfurter Zeitung, 8 Nov. 1940)。

家畜の取引については市場を設けて、獨占的に取引を行ふべき特權を與へ、且つこの市場以外で屠殺を爲す場合にも許可を要することとした。

脂肪經濟の領域に於ても、バターや豚脂肪のみでなく、油料植物、鯨油、脂身、硬脂、等々をも含む廣汎な増産計畫が立てられ、生産者はもとより、中間取引業者、加工業者の上にも統制が及ぼされる。オーストリアの範に倣ひ、酪農業者に對しては一定の最低引渡量が定められた。

その他生産物一般の統制は中央局によつて行はれる。この中央局は取引を監視し、過剰の地方と不足の地方との間の調整、中間取引の廢除、諸經營に對する原料の配給、適當な貯藏の維持等を任務とするものである。

林業も亦、一九四〇年五月初めに公布された總督府の林業保護令によつて増産が目論まれてゐる。この國では從來盜伐が多く、この爲に一九二一年乃至三一年には約一〇%の山林面積の減少があつた。それ故にドイツ當局は中央的指導及び計畫により、年産三百五十萬立方米から六百萬立方米への増加が目指されてゐる。

かやうな諸努力によつて、ドイツの總督領に於ける食糧經濟に期待するところは大きく、經營の改善及び合理的な組織化は、この地域の農業の水準を高めるであらう。既に一九四〇年の中間收穫豫想では甚だ好ましい結果が得られたといはれてゐる(Der deutsche Volkswirt, 23 Aug. 1940)。

工業部門に於ては、戰爭による直接的禍害が大きかつたが、漸次その復舊事業も進捗した。工業復舊の前提として交通關係にあつては、破壊された道路、鐵道、橋梁、電話、電信の修理は著しく進んだ。クラカウ地方のみで三つのトンネル、三百七十哩の鐵道及び道路、六十の橋梁、三十哩の電線が復舊した。しかしこの場合より大きい意圖は國內水路の開發である。これにより、一方ではドイツ、他方ではソ聯の水系に連續せしめんとするにある。この場合主たる連絡は、ドニエール河からブリペート運河を経てブグ河及びヴィスツラ河に至るものであり、之により黒海とバルチック海との直接的連絡が可能になるのである。

ところでこの地域の工業も亦、總督府令による四ヶ年計畫の下にドイツ戰時經濟の遂行に資すべき重要な任務が課せられた。この目的の爲に左記の五つの重要原料の生産、配給、消費、貯藏及び販賣の管理の爲に、管理局が設けられた。即ち、イ 鐵鋼管理局、ロ 石炭管理局、ハ 金屬管理局、ニ 皮革及び毛皮管理局が之である。

ワルソウ商會議所のラジオ放送によれば、一九四〇年九月迄には、一九三〇年に存在した工業企業の二五・三%は操業を再開するに至るだらうといふ。同じ報告によれば、この既存企業中二〇%は完全に破壊されてしまつたし、何ら損害を蒙らなかつたものは一五%にしか過ぎなかつたのである(Wirtschaftsdienst, 23 Okt. 1940)。

だがこの地域の工業は現在も、また將來に於てもそれ程重大な役割を持ち得ない。といふのは、ロッツ及びオーバー・シュレジェンの工業地帯はドイツに併合されたし、ワルソウの工業はその工業の破壊が餘りにも甚だし過ぎるからである。寧ろこの總督領のドイツに取つての重要性は食糧基地としての利用にあり、西部ポーランドから此處に移住せしめられたポーランド人やユダヤ人の如きも、農業勞働に振り向けられつゝある(Foreign Policy Reports, 15 Oct. 1940)。

ポーランドの經濟的復舊を語るとき、專賣事業を顧みなければならぬ。といふのは、ポーランドでは夙に、煙草、燐寸、鹽、火酒、及びカード專賣收入は、國家の重要な財源だつたからである。即ち、これらの專賣收入は租稅收入の三〇%にも達してゐた。

ドイツの行政官廳はこの專賣の重要性を充分に認めた。加ふるに總督府の創設は、決してドイツの負擔になつてはならぬとの建前から、專賣事業の復舊が急がれたのである。この點につき、專賣事業の總指揮に當るクラカウ財政局長ゼンコフスキー博士は、一九四〇年四月十一日クラカウ及びワルソウ新聞日曜版に於て次のやうな報告をしてゐる。即ち、專賣事業は驚くべき早さを以て恢復され、殊にクラカウ煙草工場の如きは十月二日にその活動を開始することが出来、その他の諸經營も十一月初旬には運轉し始めた。しかもドイツの管理技術は舊ポーランド政府のそれよりも遙かに優れ、その管理に要する官吏數の如きも従前の十分の一を以てこと足り、作業能率は著しく向上したといはれる(Der deutsche Volkswirt, 30 Aug. 1940)。

クラカウ煙草工場は紙巻五六百萬本、刻み煙草三、四千キログラムの日産能力があり、ワルソウ及びラドム

のそれも舊労働者の復歸と共に操業を開始した。

これらの生産は占領地の全需要を充すことが出来る。この際看過すべからざるは、ドイツ行政廳はいち早く、有能にして専門的な少数官吏の援助を得て、舊オーストリアの煙草經營に成功し、戦時状態にも拘らず、原料葉煙草收穫の一部を取り入れ、煙草生産に原料の保證を爲し得たことである。

大栽培地はクラカウとキルツニ、即ちルブリン、ザモスクの地方であり、この地方で之まで爲された労働は、單に一九四〇年春に經營の耕作を爲し得たのみでなく、約半分即ち四、〇〇〇乃至六、〇〇〇ヘクタールが擴張され、著しい増収が期待された。

クラカウ近郊のヴィーリクカ及びボクニアの岩鹽坑は殆んど戦争の影響を受けることなく、その經營は戦時中も繼續された。この鹽生産は總督領の鹽需要を充すのみでなく、特にドイツ人による適當な割當制實施により、輸出鹽をも生産することが出来る。年生産額は二百五十萬ドッペルツェントナー以上、即ち二十五萬噸である。

火酒にあつては、ドイツに於けると同じくこれは生産專賣でなく、販賣專賣である。アルコールと火酒との生産は間もなく操業が開始された。既に一九三九年十月の初めにクラカウの飲用火酒の製造が始められた。ワルソウ火酒工場の外に若干の農村醸造所に於て飲用火酒が造られ、そのうちウォッカは占領地域で特に愛用される。現在のところラム酒の生産も制限されてはゐるが行はれてゐる。

これらの生産物の販賣は最初は、大量輸送手段の大部分の破壊によつて困難であつたが、これらの困難も特

殊な方策によつて除去された。

マツチ專賣もワルソウ近郊のマツチ工場で充分に操業が行はれるに至つた。

石油專賣はドイツ占領後新に追加されたものである。即ち一九三九年十二月十四日の鑛業權者及び参加者に關する命令によつて、採油權利者及び参加者は、石油及び天然ガスの採取權は總督領の爲に抑留された。この命令によつて、將來石油及び天然ガスの調査及び採取は總督にのみ獨占された。

石油及び天然ガス採取權所有者並に参加者の共同的權利を認める爲に、一九四〇年三月十九日の命令によつて、總督府「經濟部」の指導下に、特別全權委員が任命された。之に先だち一九四〇年一月二十日及び二十三日の命令は總督領に於ける石油事業の引繼ぎ、即ち專賣事業の設置及び對象の押收に關するものであつた。

この場合の石油專賣は總督領に於て採取され、又はその關稅区域内に輸入された一切の石油の引受に及ぶものであり、この爲に、「石油專賣會社」が設けられた。

一九四〇年一月二十日の施行規則によつて、專賣局による石油の引取りは總督府經濟部長及び財政部長の合意によつて決定された價格で爲される。專賣局は引受けた石油の總額を專賣會社に引渡し、爾後の販賣を行はしめるのである。

石油經濟の設備及び對象物の押收に關する一九四〇年一月二十三日の命令は、押收さるべき物を次のやうに規定してゐる。即ち、石油及び石油生産物の貯藏タンク、積込及び積出設備、接驛、鐵道運搬車、貨物運搬車、等々である。

この收用による損失については適當な賠償を行ふが、之が最終的決定は總督府經濟部による。しかし石油の採取そのものは（主としてヤスロにある）私營會社によつて行はれる。この目的の爲に全額ドイツ資本によつて二つの會社、即ち「ベスキデン採油株式會社」及び「ベスキデン精油株式會社」とが設けられ、その本店はベルリンに置かれた。この二會社は石油專賣會社の資本の三分の二、專賣局が三分の一を持つてゐる。

舊ポーランド政府は、採油及び精油について適當な注意を拂はなかつたが、今やあらゆる手段を以て、新しい穿井塔の設置、近代的機械の使用、ポーリングの深化、採油の強化等がドイツの監視の下に行はれ、かくして増産が期待された。

舊ポーランド政府は採油及び精油事業について、適當な注意を拂ふことを怠り、從來その生産は約二百もの企業に細分されてゐた爲に設備も不充分だし、一部は全く原始的方法で經營されてゐた。それ故に今や前述のやうな再組織の下に、あらゆる手段を以て、新しい穿井塔の設置、近代的機械の利用、ポーリングの深化、採油の擴大等がドイツの監視下に行はれ、かくして増産が期待されてゐる。

石油專賣に加へて、最も新しく實施されるに至つた專賣事業は、香料、調味料賣買である。之は總督府令によつて一九四〇年五月一日から實施されたものであつて、國內生産及びその加工のみならず、輸入、販賣をも獨占するものである（Der deutsche Volkswirt, 30 Aug. 1940）。

以上の專賣制度の確立によつて、關係諸事業の振興が期待されてゐるが、同時に國家收入の増大にも資する

であらう。

一九三九—四〇年財政年度に於ける租稅收入は、間接稅及び直接稅をもこめて十億一千七百二十萬ツロチー、即ち總歲入の四〇％であり、これは著しい減少である（Wirtschaftsdienst, 26 Juli 1940）。この故に、租稅收入の増收も企圖され、ドイツの範に倣つて稅制の再建が爲された。新稅制では、所得稅は累進課稅であり、稅率は一二％から最高六〇％にされると共に、他方では砂糖、ビール、酵母等に對する消費稅が新設された。又鐵道及び郵便事業が國營に移されたが、等しく國家收入増收の意圖に出たものである。

通貨工作に關しては、占領直後には支拂手段として、ライヒスマルクと舊ツロチーとが二對一の交換比率を以て並び流通せしめられたが、間もなくライヒ信用金庫が設けられて、ライヒ信用金庫證券が軍票として流通せしめられるに至つた。しかし一九三九年十二月十五日の新發券銀行に關する規定によつてバンク・エミッシンイ・フ・ポルセが設けられることになり、舊ポルスキー銀行券及びライヒ信用金庫證券その他のドイツ支拂手段は引揚げられることになつた。同時にライヒ信用金庫そのものも翌年四月八日を以てその活動を停止することにした。

この新銀行券は従前と同じくツロチーを以て秤量され、發行限度は三十億ツロチーであるが、發券準備は總督領の全土地に對する一種の擔保である。この點に於て、新銀行券は金の繫縛から全く引離されることは、注目すべきである。

右の新發券銀行の外に、ドイツ大銀行の支店が若干活動してゐるが、ポーランドの全銀行制度の確立は、な

は今後の問題に残されてゐる。

かゝる通貨工作の結果につき、一九四〇年四月一日に新發券銀行總裁の地位についたムリナルスキー教授は次のやうに報告してゐる。舊ポーランド銀行券と新銀行券との兌換は、後者が金準備の基礎に立つてゐないにも拘らず、支障なく行はれてゐる。戰爭勃發の際に保存した金の六億ツロチーの喪失は、國民經濟上には何らの意味なく、このことは新經濟秩序に於て金の無價値であることの證明である。ポーランド通貨に對する信用の恢復は、舊百ツロチー券及び五百ツロチー券の引渡による手取金の大部分が預金されてゐる點に現れてゐる。このことは秩序的な資本形成の恢復を意味し、短期信用の急速な復舊を可能ならしめるのである。かくして總督領の通貨制度上の第三の段階が始まつた。第一の段階はポーランド侵入の終る迄の時期であり、通貨の著しい膨脹によつて特徴付けられるが、その死蔵によつて物價への甚だしい影響はなかつた。寧ろそのことの爲に物價騰貴を抑へさへもしたのである。しかるに戰爭末期に當つては、物資の缺乏、買溜め、交通の破壊、等の物價騰貴の諸原因が強く現れ、交通不便の地方ではとりわけ物價の昂騰に惱んだ。戰爭が終り、生産活動の徐々な恢復と共に、占領軍當局によつて發行されたライヒ信用金庫證券の増發高と乏しい物資供給量との間のギャップは物價を騰貴せしめた。取引が現金取引に代つたことだけでも、物價の安定を妨げたが、占領地域からドイツへの輸入によりライヒスマルク券はツロチー券に引換へられて、益々通貨は膨脹した。かかる状態の下に於て新しい幣制が確定されたのである (Wirtschaftsdiensl, 26 Juli 1940)。

他方に於て通貨安定の爲に、該地域に即應した嚴重な價格統制が實施されてゐる。前述のやうに、戦時中か

ら騰勢にあつた物價は、占領直後の混亂期にはね上つた。とりわけ、ワルソウに於て最も甚だしく、イギリス側の報告によれば、避難民の流入により、人口は一千三百万人から一千八百万人に増加したのに反して、都市の破壊と近郊の農民による供給の原始的制度とは、殆んど救ひ難い事態を醸し出した。一九三八年に〇・三二ツロチーであつたライ麦パン一キログラムの小賣價格は六ツロチーもしたし、バターは一キログラム三・五ツロチーから六〇ツロチーに、馬鈴薯一ハンドレッドウェイトの價格は五ツロチーから一〇〇ツロチーに騰貴したと云ふ (Economist, 27 Apr 1940)。

かゝる事態に對處する爲に、一方ではあらゆる商品に對して最高價格を決定すると共に、他方では不足物資の一部はドイツから補給された。ある種の商品は關稅の緩和乃至除去によつてドイツからの輸入が急増し、爲に一九四〇年八月には輸入の統制を實施せねばならなかつた程である。

以上述べたやうな總督府を中心とするポーランド經濟再建への努力にも拘らず、勿論過渡的な諸困難は免れ難いことは當然である。

二 中部 地方

この地方はダンチッヒ及びゴーデンハーフェンのバルチック沿岸二港の紡績業の中心地たるロツツ(現在のリップツマンシュタット)を含み、又ポーゼンでは製粉、醸造業が榮えてゐるし、鐵、石炭産地のカトウィツ、ソスノウイツ等の工業都市を包含するが、一般に農業が支配的だといふことが出来る。それ故にこの地

域でも亦、經濟再建工作は何よりも農業部門に集中されたのである。この點に於て先づ特記すべきは、中央委託局 *Haupttreuhandstelle* 制定が確立され、一切の農業經營及び土地はその統制下に置かれることになつたことである。

これにより土地管理の爲に、ドイツ食糧大臣は監理長官を任命し、新設の東部ドイツ農業經營會社(オストランド—ベルリンに本社を置く)の監督の任務を課した。このオストランド會社による土地管理は東部地方に存在する一切の非ドイツ人の所有地に及び、約三千六百經營が含まれてゐる。その土地の約半分はワルテラントにある。同時にオストランドは國有地の管理のみに止らず、極めて廣汎な統一的農業經營を行ふべき任務を負ひ、この目的の爲にオスト・ゲビートに八つの支社を設け、之を各一名の經濟最高指導下の統制下に置く。その管轄範圍は行政區と同一であり、更にその下級機關として各クライゼに分所を設けてクライズ農民指導者の統制下に置き、更にその下にベチルク農民指導者がある。この最下級機關たるベチルク農民指導者は八乃至十二の大小經營を監督するものである。大經營の場合には一個、小經營の場合には數個について、一名の經營指導者が置かれるが、この經營指導者は小經營の場合には單に監督の任に當るに反して、大經營については直接に管理するのである。

この複雑な土地管理は、單にこれによつて從來のポーランド人所有地を段階的な經營指導に適當なやうに秩序立てるのみでなく、生産鬭争の重要な一部としてその機能を充分に發揮せしめるにある。それ故に經營指導者はライヒ食糧團體によつて設けられた生産規準に可及的に到達し得るやうに努力せねばならぬ。

かくして例へば、ポーゼンでは既に第一回經濟年度に於て、轉耕作物は二五%、間作物は一〇%、油料作物は二・三%の耕地の擴張が行はれた。野菜栽培は數倍になり、殊にオーバー・シュレジェンでは著しい増加をみ、ミルクは到るところで増産された。一部ではミルク生産は倍加したところさへあるが、それは家畜の増加及び改良に基づくところが少くない。過去數ヶ月間に互り、中央家畜購入局によつてドイツから多數の家畜が移入せられた。例へば牛馬二萬五千頭、豚十萬五千頭の移入をみた。一九三九—四〇年の冬にもオストランド會社はドイツから多數の家畜を購入した。

農業機械の使用も獎勵され、一九四〇年半ばに六百四十臺の牽引機が獲得された。土地改良も企てられてゐる。これらについては常にオストランド會社に所屬する諸經營が規範とされてゐる。それらの經營は國民扶養の保證を任務とするに止らず、ドイツ人移住の對策にもなつてゐるのである (*Der deutsche Volkswirt*, 11 Okt. 1940)。

オストゲビートの金融制度は全く新規に組織されねばならなかつた。といふのはポーランド金融機關は極めて不評だつたからである。整理は繰返され、無数の破産があつた爲に、ポーランド貯蓄金庫、地方信用機關に對する民衆の信用が無く、このことはオーストリアの例に倣ひポーランド郵便貯金制度の創設となつたのである。

かくしてドイツによる新しい金融制度の確定となつたのであるが、この場合特徴的なことは、地方性がはつきり現れてゐることであり、つまりベルリン大銀行の活動は大企業等の狭い範圍にその活動が制限されてゐる。

ことである。

オストゲビートの農業及び中間階級的性質に鑑み、ドイツ國民銀行(Deutsche Volksbank)に特殊な意味が附されてゐる。

その活動の範圍はこの地域に支配的な中小都市である。勿論大部分ユダヤ人やポーランド人の手にあつた弱小手工業は整理されねばならず、例へば一九三九年九月は六〇、〇〇〇の手工業中、再開されたものは、約三五、〇〇〇にしか過ぎぬ(Volkswirt, 11 Okt. 1940)。

第二章 デンマークの經濟及び經濟工作

デンマークは工業國として發展すべき一切の條件を缺いてゐる。そこにはセメント工業及び製陶業原料たる若干の粘土が存在するのみで、何らの原料もない。石炭や鐵は木材、纖維、動力油その他の諸原料と共に、五十年前と同じく今日もなほ輸入せねばならぬ。鐵需要の僅かに四分の一が國內スクラップによつて充され、一九三九年にあつてはデンマーク總輸入額の約一〇%、即ち一億五千萬クローネは鐵鋼及び非鐵金屬であつた。にも拘らず、工業に従事せる就業者數と農業に於けるそれとはほぼ同率であり、夫々人口の約三〇%に當る。しかしこのことは數十年この方の現象であり、三〇年前迄は人口の約三分の二が農業に従事してゐたのである。當時デンマーク農業にあつては穀物耕作が支配的であり、穀物は重要な輸出品の一つであつた。しかるに海外産穀物の競争によつて、農業は牧畜業に轉換し、肉類、バター、チーズ、及び卵を生産し、之を輸出すると共に、穀物を海外に仰ぎ、此等にデンマーク農業の海外依存性が高まつたのである。即ち、右のやうな農産物の輸出はこの國の輸出總額の約七〇%を占めてゐるが、他方に於て飼料穀物六十萬乃至七〇萬廳及び油粕、油種八十萬廳を輸入せねばならぬ。これら主要農産物の輸出は次のやうになつてゐる。

デンマーク農産物輸出(單位應)

	一九三九年	一九三八年	輸出中の割合 イギリス	一九三九年 ドイツ
バター	一四九、〇〇〇	一五八、〇四七	六九・一	二九・一
チーズ	九、六〇〇	九、一一〇	一一・五	五五・八
卵(二十個)	八五、〇〇〇	七七、〇九三	六八・八	二七・四
家禽	三、一〇〇	二、九七二	〇・六五	九六・七
ベーコン	一八七、〇〇〇	一七八、五四一	九六・八	二・九九
生豚(頭)	一三七、五〇〇	一一三、九〇五	—	九九
屠牛(頭)	七七、八〇〇	六五、六九二	—	四六・三
生牛(頭)	一六三、〇〇〇	一三三、九七二	—	九二

(Allgemeine Zeitung, 24 Juli 1940)

この場合注目すべきことは、とりわけイギリスに對する依存度の極めて高いことである。前表に明らかやうにイギリスへの輸出は總輸出額中、バターでは六九・一%、卵では六八・八%、ベーコンでは九六・八%の高率を占めてゐる。しかもこのことは決してデンマーク經濟に幸しなかつた。といふのは、かゝる特定の海外市場への高い依存は、デンマーク農業を常に不安定な地位に置いてゐるからである。一例を對英輸出品中數量に於てもその割合に於ても最大のベーコンについてみれば、一九三〇年の世界經濟恐慌の初期までは、ベーコン生産は増加の一路を辿り、飼料價格の低廉と相俟つて、デンマークの豚飼育數は増加した。その結果一九三一

年には豚保有量は五百五十萬頭となり、前大戰前の殆んど二倍になつてゐたし、ベーコンの輸出高も三十八萬四千頭と戦前の三倍に達した。しかるにこの頃からイギリスはベーコン輸入に統制を加へ、國內生産増加に注意を向け始めた。このことは當然デンマークのベーコン生産に對する壓迫となり、極めて短期間に豚飼育數は三百萬頭に激減すると共に、ベーコン輸出は一九三八年には十七萬四千頭にしか過ぎなかつた(Allgemeine Zeitung, 1 Aug. 1940)。

しかもベーコンの輸出價格はイギリスの一方的な政策によつて決定せられ、とりわけ一九四〇年春の如きにあつては、イギリスはデンマークの生産條件を全く無視してその最高價格及び輸入割當量を決定した。このことの結果デンマーク生産者はその生産費を償ふことにさへ困難を感じたのである。かゝる事情は他の輸出農産物一般にも見られるところであり、デンマーク一般の農家収入の減退をも伴つた。次はこれに對する一つの資料である。

デンマーク農業収入(ヘクタール當り、單位クローネ)

	一九三六―三七年	一九三七―三八年	一九三八―三九年
投資額(記帳價額)	二、〇七六	二、一九七	二、二〇九
總收入	六一六	六九七	六九九
耕作	六七	九〇	八三
牛	二八一	三〇四	三一七

第二章 デンマークの經濟及び經濟工作

豚	一七六	一九八	一八八
其他の家畜	六四	七四	八〇
諸収入	二八	三一	三一
農業支出	五六四	五九八	六〇七
勞銀	一七九	一九六	二二二
管理費	六〇	六〇	六一
飼料	一二五	一三〇	一一四
肥料	二四	二七	二九
其他の商品	五五	五五	五五
其他支出	一一一	一三〇	一三六
純益	五一	九九	七二
投資に對する純益の割合	二・五%	四・五%	四・二%

(International Institute of Agriculture, The World Agricultural Situation in 1938-39)

しかもこの傾向は開戦後益々甚だしくなり、例へば一九三九年八月のデンマーク輸入品価格指数は一一三であつたが、一九四〇年三月末には二〇四に上つたにも拘らず、輸出品価格は同期中に一一二から一一七に上つたに過ぎない。かゝる兩者の喰違ひは殆んど専ら對英取引に基くものである。このことにより、つまりデンマーク人はロンドン市場に於て運賃騰貴をもこめて六〇%だけ多くを支拂はねばならなかつたのに對して、自己

の商品については一五%しか餘計に得ることが出来なかつた。かくして全體としての價格機構が混亂した。卸賣物價は一〇九から一六六に騰貴したが、この混亂は労働組合運動により、賃銀を物價騰貴に追隨して引上げたことによつて激化された。

かゝる時期にドイツ軍の進駐を見たのである。そしてこのことは間もなくデンマーク經濟に取つて好影響となつて現れ始めた。先づ貿易についてみれば爾後次のやうな發展を示してゐる。

デンマークの外國貿易(百萬クローネ)

	一九四〇年	一九三九年	八月	一九	四〇	五月
	一月-八月	一月-八月	七月	六月	五月	
輸出	一、〇〇八・〇	一、〇三一・七	一五五・〇	一三五・一	一一七・七	一二三・五
輸入	九二二・八	一、二二八・九	一〇二・二	八六・八	七九・一	九六・八
差引	(+) 八五・二	(-) 一九七・二	(+) 五二・八	(+) 四九・三	(+) 三八・六	(+) 二六・七

くぎりをよくする爲に八月までを限つて之をみる。この際最も注目すべき事實は、輸出の増加であり、占領以降のデンマーク輸出額は、開戦直前の月たる一九三九年八月のそれを超えてゐることである。即ち、一九四〇年八月の輸出額は一五五百萬クローネであつたが、一九三九年八月のそれは一三二百萬クローネ弱である。恰もこの當時イギリスが戦争に備へてデンマークから多量の輸入をした時期であることに注目すべきである。更に大體に於てこれまでデンマークの外國貿易は入超になつてゐたのであるが、一九四〇年五月以降出超に轉じた。即ち、一九三九年一月乃至八月には月平均一一・九百萬クローネの輸入超過であるのに對して、一九四

○年五月乃至八月の四ヶ月間の平均では四一・六百萬クローネの出超に轉じてゐる。このことは明らかに輸出増加の結果であるが、更に輸入減退にも基く。例へば之を八月のみの數字に之を限つてみれば、一九三九年八月のそれは一七二百萬クローネであるのに對して一九四〇年八月には一〇二百萬クローネに激減した。合計に於て一九四〇年一月乃至八月に於けるデンマークの輸出は一、〇〇八百萬クローネであるに對して前年同期のそれは一、〇三二百萬クローネであつた。他方輸入は前年の一、一二九百萬クローネに對して、九二三百萬クローネである。このことは一九四〇年の一月から八月までに約八五百萬クローネの輸出超過を意味する。デンマークの占領以降の四月から八月迄をとれば、前年同期の八〇百萬クローネの入超に對して一六六百萬クローネの出超である。しかもこゝに附言すべきは、占領以降輸出増加の原因になつたものは、農業生産物、即ち、ベーコン、バター、卵等の如きものであつた。

平時にデンマーク輸出總額の半分以上を輸入してゐたイギリスその他の海外諸國からのデンマークの離隔してゐる事實から判断すれば、デンマークからの生活必需品の輸出を高めたのはドイツの輸入であることがわかる。但しこの場合注目すべきは輸出價額の増加が必ずしも輸出量の増加と一致してゐないことである。即ち、その一部は一昨年以降の價格騰貴によるものである。しかし農産物の價格騰貴が三五%であつたとしても、眞の輸出増加部分のあることは否定出来ぬ。そして正にこの部分だけがドイツの食糧經濟を豊かにしたことになり、同時に嘗てのデンマーク輸出市場たるイギリスの食糧供給を低下せしめたことになるのである。他方に於てかゝるデンマークの輸出増加は、同時に輸入増加を伴はず、却つて輸入を減退せしめてゐる事實

は、ドイツとデンマーク間の清算取引がデンマーク側に取り有利になつてゐることの裏書である。一九四〇年十月のデンマーク側公式の發表によれば、四月のドイツ軍進駐以降三億六千七百萬クローネがデンマーク農業生産に取り追加的所得になつたといふ。

しかも農業生産費騰貴に伴ふドイツ市場に於けるデンマーク産バター輸出價格の引上げは農業利潤を増加せしめた。十月四日から實施されたキログラム當り七十七エールのデンマーク産バターの輸出價格引上げは、二十エールの騰貴にしか過ぎないが、その國內價格に比すれば三倍以上の騰貴である。この輸出價格引上げによる利益に、あらゆる生産者をして均等に與らしめる爲、國內價格を超えた輸出手取金をあらゆる生産者間に分配することになつた。つまりデンマークのバター生産者は嘗てのイギリスにバターを供給してゐた時よりも有利になつたのである。

このことの結果は最近のデンマーク國立銀行の營業報告にも現れてゐる。ドイツ軍進駐當時デンマークはドイツに對して約五千萬クローネの爲替負債を負つてゐたのであるが、その五ヶ月後の九月には清算勘定に於ける外國負債(大部分ドイツの)はデンマークの九百九十萬クローネに對して、實に二億九千二百萬クローネに達した。これは明らかにドイツがデンマーク農業のよき顧客となつたことの證左である。

但しデンマークの一部ではかゝる無制限な輸出超過は、とりわけ起り得べきインフレ的結果を考へるならば、憂慮すべきだとされてゐる。その著名な代表の一人は商務大臣クリスマス・メラーである。事實デンマークはドイツの負ふに至つた負債に當るだけの石炭、鐵、石油、飼料等を得ることが出来ず、しかもデンマーク對獨

輸出業者の受取る輸出代金は国立銀行の發行するデンマーク通貨であるから、物價騰貴の傾向は不可避である。このことは国立銀行券流通高の上に現れてゐる。即ち、一九三九年七月の四億五千二百萬クローネに對して、その一年後の一九四〇年七月には六億六千五百萬クローネに膨脹して居り、卸賣物價は同期中に一一一から一六五に騰貴してゐる (Economist, 21 Sep. 1940)。

かゝるインフレ的傾向の防止には、價格の公定と物資の配給統制とは必至であり、危機法規によつて労働組合の賃金計算法を無効にすると共に、他方配當制限を行ひ、商品價格を統制した。

割當制は先づ一九四〇年七月一日に燃料について適用されたが、次いでパンの價格騰貴が顯著になるに及び、九月二日からその割當制が實施されるに至つた。公式の聲明によれば、この割當は收穫が例年に比し稍、悪かつたし、外國からの輸入見込薄によるものである。而して白パンの一人當り一ヶ月割當は二千四百グラムであり、しかも小麦粉やパンの新規公定價格は従前の約二倍になつた (Economist, 21 Sep. 1940)。同時にパン用穀物貯藏の消費を抑制する爲に、燕麥粉に對して二〇%の小麥粉強制混用を行ふことになつた。といふのはこの國では小麦の貯藏が比較的多量だつたからである。更に十月一日にはバターの主要産地たるこの國に於てさへ、バターの割當が實施されることになり、一ヶ月一人當り二百五十グラムと決定された。しかしこれはデンマーク人の平時消費の四分の一にしか過ぎぬ程度のものである。同時に砂糖、コーヒ及び茶の如き諸商品も亦、割當品目に加へられた (The Nation, 5 Oct. 1940)。

かゝる割當制の實施がドイツの「科學的掠奪」の結果であるとすることは、ドイツを誣むるものである。そののみか、却つてドイツはデンマーク國民に對する供給の爲にあらゆる考慮を拂つてゐるのである。例へばドイツ駐屯軍はコーヒ、砂糖、茶の如き割當品の購入を禁止されてゐる。又デンマーク國務大臣スタウニングは最近のラジオ放送に於て次のやうな樂觀的意見を述べた。即ち、デンマークはドイツと行つた協定に満足することが出来る、といふのはこの國の經濟に協力せんとするドイツの用意は、既に日常生活をば破局的な消費制限なしに營むことを可能ならしめたからである。又六月八日にはバターの生産はその一週間前よりも五%高まつたし、養鶏に於ても寧ろ好轉を示したと傳へられ、四月には早くもデンマーク漁業船はドイツの掩護の下に出漁し始めた。

工業生産も四月には五%だけ低下したが、その後上昇した。繊維工業はドイツからの代用原料輸入及び羊毛や棉花のストックによつて原料不足をある程度凌ぎ得るだらうと見られてゐる (Der deutsche Volkswirt, 21 Juni 1940)。

しかしながら海外市場からの離隔は當然にデンマーク國民經濟の全面的轉換を要求する。先づ農業についてみれば、差當りドイツはイギリスに輸出されてゐたバター、卵、生畜等を購入するのに何らの困難を感じないであらうが、長い將來に互り幾何の家畜を維持し得るかはその飼料の供給力にかゝつてゐる。豚は現在の飼育數を維持することは困難である。といふのは、屠殺された豚の八〇%までがベーコンの形でイギリスに輸出されてゐるのであるが、將來のドイツその他の需要は約三分の一に減するだらうと豫想されてゐるからである。家禽の現飼育高は三千二百四十萬羽であるが、その維持には一ヶ年一羽當り二〇乃至三〇キログラムの穀物を要

するが故に、右のうち約五百萬羽は殺さねばならぬ。しかし一羽當り一ケ年平均百四十個の産卵があるから、デンマーク人一人當り百二十個を消費するとしても、充分に輸出し得る筈である。牛の飼育高は現在三百二十萬頭であり、うち約半分は搾乳用であるから、經營技術上の見地からすれば、屠殺は最小限度に止めねばならないとしても、牧場の範圍を出来る丈制限する必要がある。この故にデンマーク政府は一九四〇年七月に命令を公布して、原則として屠殺數を農民の自由に任せ、配給された飼料と牧牛との數を調和せしめることにした。現在ではイギリスへのバター輸出が既に減少してゐる關係と、長期の乾燥との爲に、屠殺數は一週間當り四千乃至五千頭から約倍加した (Allgemeine Zeitung, 24 Juli 1940)。

かやうにして主として國內に飼料を求むべき事態に立ち至つた結果として、ある程度の家畜數制限は不可避免であると同時に、デンマーク農業は從來の耕作計畫の根本的變革に迫られるに至つた。即ち有蛋白質植物及び青草飼料の耕作擴張により、飼料の海外依存を免れることが企圖されてゐる。

人口の三〇%が従事してゐる工業の重要性も亦、見落してはならぬ。この場合何よりも重要なものは原料の供給であるが、纖維代用原料その他のドイツからの協力は既述の如くである。更にこの點に於て一九四〇年十月初めに成立したデンマーク・ソ聯通商協定の成立はデンマーク工業の振興に資するところが少くない。即ちこの協定は一九四一年三月十八日迄、デンマークの對ソ輸出を七百二十萬クローネとし、その大部分は機械類であつたが、之に對してソ聯はデンマークに鑛油、棉花、粗磷酸鹽、木材、ベンゼン、その他種々の化學製品を供給せんとするものである。ブルガリアとの間にも清算協定及びバター協定が成立し、ブルガリアの煙草

の代りに工業製品や皮革を輸出することになつてゐる。

工業の轉換につき注目すべき一例は、資本金九百五十萬クローネ (内政府の持分二百五十萬クローネ) のデンマーク鋼材會社の創設である。この會社は約四百萬噸の鋼材を生産し、之により國內需要の一一%を充し得る豫定である。原料關係にあつては、從來主として輸出されてゐたスクラップ及び年額二百萬噸の輸入炭が期待されてゐる。

ドイツ軍進駐當時の一時的な經濟的混亂及び爾後の急激な經濟的轉換は暫時失業者の續出を促した。これらの失業救済に關しては、先づ一九四〇年八月にデンマーク荒野開拓會社が排水、築堤、荒蕪地開墾、等々による授職計畫を立て、この目的の爲に約四十萬クローネを支出することとした。

ドイツ軍進駐後いち早く労働時間を八時間に制限して國內に於ける就業の機會を多からしめることにした。この労働時間短縮の爲に生ずる非經濟については、新税を設けて一切の貸銀受領者が負擔すべきものとされた。尤も獨り労働者のみがこの新税を負擔するのではなくて、官吏、年金受領者の如きも從來よりも五〇%だけ多くの租税を負擔することになつた。最後に一億クローネの貸付資金が設定され、労働金庫が資金缺乏を招いた場合には、社會大臣は之が救助の爲に貸付を爲すことを任務とするに至つた。

他方に於てドイツはコペンハーゲンに職業紹介所を開設してドイツ國內への労働者の吸収に努力するに至つた。これによつて最初一萬四千人のデンマーク労働者がドイツに求職に赴いたが、一九四〇年九月にこれらに獨りデンマーク労働者は約百五十萬クローネを母國に送金した事實がある (Economist, 21 Sept. 1940)。

第三章 ノルウェー経済及び経済工作

ノルウェーは周知のやうに總面積約三十萬平方杆、人口は約三百三十萬人の小國であり、一平方杆當り人口十人にしか當らない。しかし耕作及び牧畜地は土地の3%弱にしか過ぎず、二三%以上は山林であり、約七三%は氷河、岩石、沼澤等に覆はれた荒蕪地である。農民は漸次減少したが、今日なほ人口の約三分の一は農業及び林業に依存してゐる。農耕地の狭小に比し、森林は廣大であつて、木材蓄積量は三億二千三百萬立方米と云はれてゐる關係上、木材及びパルプの生産に富むが、之に反して農産物は僅少であり、大體に於て國民を扶養するに足りない。農民の大多數は北極圏に近い地方で小經營を營んでゐるが、これは該地方の短期ではあるが、夏期の酷しい暑熱によつて、農作物が急速に稔り、牧畜に有利だからである。たゞ飼料を輸入せずしては、ノルウェー農業は國民に充分なバター、ミルク、肉類等を供給することは出来ぬ。

ノルウェー工業は比較的によく發達して居り、總人口の二八%が工業人口に當る。而も生産手段生産が高い地位を占めてゐることが明瞭な特徴を爲して居り、一九三三—三八年の平均では全工業使用労働時間中五一・六%を占め、加ふるに一般にこの種工業に對する投下資本が大である。このことは特に、鑛業、金屬工業、化學工業、電機工業、木工具等について云へる。即ち最近のノルウェー工業の構成をみれば、次の如くになつてゐる。

ノルウェーの主要工業

業	従業者數(一,〇〇〇人)		労働時間(百萬時間)		純生産額(百萬クローネ)	
	一九三七年	一九三八年	一九三七年	一九三八年	一九三七年	一九三八年
鑛業	一一・五	一二・四	二六・六	二八・八	一〇二・三	一一一・八
鐵及金屬工業	三六・六	三七・五	八二・七	八四・〇	二二二・四	二三八・〇
化學工業	四・三	四・二	九・八	九・九	六七・四	七六・七
木材工業	一一・六	一二・七	二七・五	二七・三	五三・九	四九・三
木材製品及製紙工業	一六・二	一五・〇	三九・三	三三・五	一一一・二	九五・三
纖維及被服工業	二六・五	二六・五	五七・二	五五・二	一一〇・二	一一〇・一
食糧及嗜好品工業	一六・二	一六・〇	三一・八	三一・三	二二六・八	二二五・二
其他	一九・六	一九・八	四四・二	四三・二	一三一・七	一三七・三
總計	一四三・五	一四四・一	三一九・二	三三三・二	一〇一五・九	一〇四三・七

(Wirtschaftsdienst, 18 Okt. 1940)

一九三八年には金屬工業はノルウェー全工業の殆んど三分の一を占め、之に次ぐものが木材工業であり、この兩者を合すれば、純工業生産類の五四・七%に當る。

ノルウェー工業に於ける、かゝる生産財生産工業の地位の高さは、この國が鑛物資源に恵まれてゐることの結果である。鐵鑛石を初め、銅、鉛、亜鉛、タングステン、モリブデン、カドミウム等に富むが、今その主要

鑛産物の生産高を示せば次の如くである。

ノルウェー主要鑛産物生産高(一、〇〇〇觔 一九三七年)

鐵鑛石	七二八	錫	〇・二
銅鑛	二〇・七	硫鑛	四六三
鉛鑛	八・三	クローム	〇・一
亜鉛鑛	〇・四	タンゲステン	二觔
鉛	〇・二	カドミウム	一五四觔
黄鐵鑛	一、〇四九	モリブデン	三四四觔

加ふるに石炭資源こそ乏しいが、之に代るに豊富な水力がある。之は隣邦のスウェーデンよりも豊富であり、包蔵水力は一千二百萬馬力と推定され、利用水力は二百四十萬馬力である。

豊かな國內資源に恵まれた工業は、かゝる生産財生産部門の外に、鑛詰その他の魚介類の加工業がある。周知のやうにノルウェーは年額平均九十萬觔の魚獲があり、近年漁業者の生活條件悪化と共に轉業者が多くなつたと云へ、なほ總就業者数の七％は漁業關係であり、ノルウェー國民經濟上重要であるのみならず、世界でも有数の漁業國である。しかもその漁獲物の多くはその儘の形で、或は鑛詰、魚粉その他に加工されて輸出に向けられて來たのである。

ノルウェー工業の第二の特徴は、輸出向に重心が置かれてゐることである。一九三六年乃至三八年の平均では、全工業労働時間の二七・二％及び純工業生産の三二・三％が輸出工業であつた。更に一九三八年には全工

業株式資本の五八・五％が輸出工業によつて占められてゐたのである。このことは國內市場の狭小に基くものであり、他の諸工業と雖も、多かれ少かれ輸出に依存してゐる。

このことの結果、ノルウェーの全國民經濟は一般的景氣變動に對して敏感であり、世界の景氣によつて常に左右されてゐる。

ノルウェー工業の海外依存度の高いことは、輸出商品の構成からも明らかである。

ノルウェー重要輸出品(總額中の割合)

	一九二六―三〇年	一九三一―三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
木 工 具 及 紙	二六・八	二三・六	二二・一	二四・三	二一・八
鑛石及未加工金屬	四・六	五・六	七・一	六・五	七・五
金 屬 加 工 品	一一・八	一七・三	一八・三	一九・二	一九・四
漁 業 生 産 物	二五・六	二二・五	二二・五	一九・三	一八・九

(Wirtschaftsdienst, 18 Okt. 1940)

この四種の輸出品がノルウェー全輸出の殆んど七〇％を占めてゐる。なほ以上のノルウェー工業の海外依存性を個別的な商品について示せば次の如くである。

(U. S. Department of Commerce, Foreign Commerce Yearbook; 1938)

かやうなノルウェー産業の海外への高い依存性は、この國の經濟を極めて脆弱なものたらしめる。一例を魚類罐詰にとつてみれば、一九三九年には輸出市場に於ける他の競争國からの壓迫によつてその賣行が悪化し、その爲に罐詰価格は下落して、國內漁業は不況に陥つたのである。この場合イギリスへの輸出を高めんとする努力も餘り効果はなかつた。といふのはノルウェーの最大の顧客たるイギリスは、一方的に價格を決定し、しかもそれはノルウェー漁業者に充分生産費を償はしめるものではなかつたからである。それは恰もデンマークの豚飼育者が國家的補助によつてのみ、イギリスへの輸出を維持したのと同様な事情の下にあつたのである。さて以上のやうなノルウェー産業構成の下に、全體としてこの國の貿易收支は輸入超過になつてゐる。即ち、一九三七年のそれをみても、輸出八億一千萬クローネに對して、輸入十二億九千二百萬クローネとなつて居り、差引四億八千二百萬クローネの入超である。これは久しい間のノルウェー外國貿易の傾向であるが、之をカバーして來たものこそ海運收入なのである。

その所有船舶噸數は約四百八十萬噸であり、英米日に次いで世界の第四位にあり、この海運收入によつて、ノルウェーの國民の生活水準は高められてゐるのである。近年の輸入超過に對する海運收入の割當をみれば、次の如くである。

一九一九—二八年	四七・二*	一九三五—三六年	一〇〇・五*
一九二九—三一年	五五・八	一九三七年	九三・七

一九三二—三四年 一四六・六

以上概観したやうなノルウェー經濟は、ドイツ軍による占領と共に、全面的な編成替を行はねばならなくなつた。そして何よりもその努力は國民扶養の爲の食糧經濟の確立の上に集中されたのである。

第一に家畜についてみるに、その従來の飼育數の維持は、ノルウェー國民に對する、肉類、ベーコン、バター、ミルク、卵等の最小限の保證であるが、それさへ既述のやうに海外飼料の輸入に俟たねばならなかつた。然るに最早これの輸入の途は斷られたから、何らかの新しい方法を見出さねばならぬ。此處に於てさきに年額十萬噸にも達してゐた木材纖維に着眼され、今やその大部分が特殊の工場で有效な飼料に變質せしめられることになつた。

勿論従來から纖維飼料があるにはあつたが、その生産は非採算的で海外輸入の飼料との競争に耐へ得なかつた。オスローからの報告によれば、八百噸の纖維飼料が適當り百クローネで提供されたといふが、木材價格及び賃銀の高い爲に、その生産費は實際には二百五十クローネである。それ故に此處で爲さるべき努力は生産費引下げである。このことが可能になれば、ノルウェーの通常の纖維生産が年額四十乃至四十五萬噸にのぼつてゐる事實を顧みるならば、他の歐洲大陸諸國に對してさへ飼料の供給が可能になるだらうといはれる。

この纖維飼料は工場生産の外に、現在では農民に對して原價約六百クローネの裝置を交付し、これを以て鋸屑から纖維飼料を生産せしめ得るやうになつた。

纖維飼料のみでなく、従來大規模に工場で生産されてゐた海藻粉の供給も可能になつた。といふのは、原料

を海濱で蒐集し、之を工場に送るから原料不足がなくなつたからである。最後にドイツの協力によつて漁撈が再開された爲に、大量の魚粉が再び農村の手にはいるやうになつた。

これらの諸努力によつて、ノルウェーでは不足ながら肉類、ミルク、バター、卵の自給の見透しがつけられるに至つた。勿論、過渡的な諸現象や、断続的な困難は不可避であらう。

次に穀物についてみるに、パン用穀物消費の極めて多くの部分を海外に仰ぐべき状態にあつたことは既述の通りである。一九三九年の秋冬の間にはなほ、アメリカ大陸からその不足分を購入することが出来た。しかるに今やその途が絶えたとし、ストックは消費され盡したので、來るべき冬の爲の手當を爲すべきことが、差當り食糧當局の任務とされた。かくしてドイツと同じやうにパンに切符制を實施し、小麦粉購入には割當制を行ひ、穀物及び馬鈴薯の耕地が擴張された。他方では又スカンデナヴィア諸隣邦との間に通商協定が開始され、その一部は既に成立をみたのである。他方では又ノルウェーの二大信用機關たる農民貸付金庫及び小農經營信用金庫は、最近農業復興貸付金として、二百萬クローネを計上した。貸付期限は三ヶ年、無利子であり、これは先づ馬、トラクター(馬鈴薯栽培用の)、農業機械器具、什器、用畜の調達に充てられ、次には土地改良、肥料等に支出さるべきものとされてゐる。

砂糖も亦、平時から輸入によつて居り、それは年額十萬噸以上のほるが、現在では切符制で支障なく行はれてゐる。また熱帯産物、例へばコーヒ、茶、コ、ア、香料等の如き商品の供給は、早くも昨冬からイギリスの封鎖によつて困難にされた結果、現貯蔵は割當制の下に配給されてゐる。

ノルウェーの野菜類及び果實については一般的に云ふことは出來ぬ。勿論野菜耕地は一九二九年の五倍であり、大豆の收穫は二倍、甜菜のそれは三倍に高まつてゐるが、約二百萬本の林檎樹の果實では、冬季貯蓄果實の半分にしか過ぎぬ。廣い森林地帯に野生する各種の葡萄は、之まで充分に利用されなかつたが、一九四〇年の夏に至つてよりよく利用する爲に、主として青葡萄を中心に日々七千キログラムを蒐集して、果汁をしぼつた。

ノルウェー海濱、その沿海、内海、及び河川の魚貝の豊富さは、戦時下の今日全く天與の恩恵である。海魚の如きは年平均約九十萬噸に達したが、就中嘗て數百萬キログラムも南西歐に輸出された奴鯛は、これまでノルウェーで消費されず、したがつて調理法もわからなかつたが、今や國內の食卓にのほることになつた。この一例でみるやうに、魚類の國內消費が著しく高まり、それは獨り鮮魚についてのみでなく、鹽干魚についても云へることである。この故に最近魚類輸送の簡易化及び促進が企てられ、規則的に再び大量の魚獲が可能になると共に、鮮魚の近代的な冷凍が爲されるやうになつた。又鮮季節には一日平均二千五百樽の鯡が鹽漬にされ、國內供給のみでなく、外國、殊にドイツに輸送される。

一九四〇年四月九日以前には、なほ約一千二百の團はゆる魚類輸出業者があつたが、彼らは外國市場とも魚業者とも密接な聯絡なく、全く無計畫に商品を購入し、一部は手数料を取つて外國に送出してゐた。そして當時魚類は何人でも自由に扱ひ得る商品であつた。だが今日では事情は一變した。即ち魚類は最早取引人や投機業者によつて、なほなしに、公定價格で統制下にある知名の商會を通じて魚業者から國內消費に行渡るのであつて、

これらの國內消費は従前よりも魚類をより多く食用に消費するに至つたのである。

殆んど専ら輸出用に營業してゐた二百二十の魚類罐詰工場も亦、將來食糧品供給に於て重要な役割を持ち、既に一部では再び運轉されて居る。但し罐詰用のブリキやオーブ油その他の附屬原料の調達が特殊な困難をなげかけてゐる。しかしながら前者についてはブリキ代用としてアルミニウムの使用が可能になり、オーブ油の代用としては精製鯨油が使用されることになつた。

罐詰業の販路に關しては、既に一九四〇年半ばに、ノルウェー罐詰業者とドイツ罐詰輸入組合との間に大口取引の契約が成立し、小型鯖の全貯蔵高及び小型鯛の一九四〇年度全漁獲を引取ることになつたが、その價額は二千五百乃至三萬クローネに達し、ノルウェー罐詰業に取つて未曾有の大口取引であるといふ。このことは一九三九年の最初九ヶ月間のノルウェー魚類罐詰の總額が三千五百萬クローネに過ぎなかつたことから知られる。

魚類の乾燥及び鹽漬も、より大規模に行はれてゐる。この關係に於て指摘さるべきは、鯨肝油等の生産である。これは平時では約二萬クローネの生産を持つてゐたが、南極洋の捕鯨事業が不可能になつた爲に、現在ではこの原料は鱈及びその他の海魚に轉換せしめられたのである。

かやうにノルウェーの食糧自給の目的は、多角的な計畫によつて達成されんとしてゐるが、更にそれは「自發的勞働率仕」の確立によつて促進されつゝある事實を指摘せねばならぬ。この「勞働率仕」の旗の下に、既に五千人のノルウェー人は街頭や都市の復舊のみでなく、沼澤、荒蕪地を開墾し、久しく勞働力不足に悩み來

つた農民を援助してゐる。

これらの諸努力の下に、ノルウェーの生活必需品は不充分ではあるとしても、國民を飢餓線上に追ひ込むこともなくして済み、したがつて價格統制官廳は激しい價格騰貴の危険を防ぐことが出來た。ノルウェー中央統計局の發表によれば、一九四〇年四月から七月迄の間に、生計費は僅かに一・八%しか上昇してゐないのである(Wirtschaftsdienst, 18 Okt. 1940)。

ノルウェー諸産業中で、最も重大な轉換の岐路に立つてゐるもの、一つは材木業である。といふのは、從來未加工木材の七六%、加工木材の七九・一%、木工具の六五%、木材纖維の二九%、紙の一二・一%がイギリス向けだつたからである。イギリスに代つてドイツはこれらの木材及び木材製品の大量需要者になるであらうが、それでもなほ且つ過剰であらう。したがつて一部はドイツ以外の歐洲大陸諸國に販路を求めねばならないし、木材そのもの、一部はノルウェー復興事業に使用されるであらう。

ノルウェー重工業の中心地帯たる西北部では既に諸工業の多くは運轉を再開した。例へばノルクス電氣會社の窒素肥料工場が操業を開始した外、レーロス採銅及びヘヤンガーのアルミニウム工場、鐵鑛採掘業も活動を始めた。これらは何れも勞資間の勞働平和の確立によつて達せられるものであり、したがつて行政委員會は命令を交付して、爾後一切の賃銀協定には社會局の許可を要することにした。

ところで電氣資金及び電氣化學工業にあつては、一部外國産原料の輸入に俟つものがあり、ドイツその他の歐大陸からの供給が期せられぬ限り、その一部の轉換は不可能とされてゐる。だが、ノルウェーの鑛業及び重

工業製品は、木材、魚類、農産物並にそれらの加工生産物と共に、その販路をドイツに求めることが出来る。このことは最近のノルウェー外國貿易の發展の上に現れてゐる。

ノルウェー外國貿易(百萬クローネ)

	八月	七月	六月	五月	四月					
輸出	一九三九年 六四・一	一九四〇年 四五・五	一九三九年 五二・四	一九四〇年 三二・二	一九三九年 六八・五	一九四〇年 二九・二	一九三九年 二九・二	一九四〇年 一一・四	一九三九年 二二・四	一九四〇年 二二・六
輸入	一九三九年 九七・四	一九四〇年 五三・四	一九三九年 九六・四	一九四〇年 三四・一	一九三九年 一一三・七	一九四〇年 三二・二	一九三九年 一一三・七	一九四〇年 三二・二	一九三九年 二七・七	一九四〇年 一〇一・四
差引	一九三九年 二二・三	一九四〇年 八・一	一九三九年 二二・三	一九四〇年 二・一	一九三九年 二二・三	一九四〇年 二・一	一九三九年 二二・三	一九四〇年 二・一	一九三九年 二二・三	一九四〇年 二・一

(Wirtschaftsdienst, 18 Okt. 1940)

ドイツ占領の四月から八月迄のノルウェー貿易に於ける入超額は、前年同期の二億九百萬クローネに對して一億クローネにも達してゐない。八月に至つては入超額は僅かに八百萬クローネにしか過ぎず、七月の如きは輸出超過にさへ轉じてゐる。このことは勿論、この五ヶ月間に於ける五二%にも達する輸入の減退によるものであり、輸出も減少してはゐるが、その絶對的減少は輸入のそれに比し遙かに少いことに注目すべきである。このことはドイツがノルウェーの殆んど獨占的顧客になつたことの證明であり、同時にノルウェーに對して可能な限り、商品の供給を行つてゐる。最近に於てもノルウェーに對し、石炭、人絹、機械類、化學製品、電

氣器具等を供給したのであつた。

かくの如くドイツとノルウェーとの兩國間に緊密な經濟關係の齎されるに伴ひ、これをめぐつて生ずべき各種の營業問題管理の任務を負つて、一九四〇年九月一日、在ノルウェー・ドイツ商業會議所事業部がその活動を開始するに至つた。もとのノルウェー所在ドイツ商業會議所は兩國關係に新しい秩序を齎すことを任務としたものであり、占領地域ドイツ委員長の獎勵とドイツ官憲との支持によつて設置されたものであるが、今やその事業部の開設と同時に、各々三名宛のドイツ人及びノルウェー人による専門委員會が設けられた。之によつて今や商業會議所設置に關する必要な前提が急速に出來た。

この商業會議所の内部機構はドイツのそれに合致せしめられたものであり、その目的は兩國間の經濟取引の促進並に兩國の經濟生活關係者の個人的つながりを涵養することにある。あらゆるドイツ官憲及び經濟組織の密接な協力の外に、ノルウェー官憲及び經濟組織との密接な接觸を生ぜしめ、かくして兩國間の正しい經濟的利益を有效な方法で代表することを以て任務とする。

會議所の責任ある指導と管理とは理事會にあり、之はドイツ人理事長、一名のノルウェー人副理事長、ドイツ人書記長、ドイツ人及びノルウェー人各一名宛の副書記長から構成される。

一般經濟的任務(市況の觀察及びその利用、新經濟的結合準備に對する協力及びその影響に關する報告、相互商品取引の強化に向けられたあらゆる努力の適當な手段による促進等)の外に、商業會議所は日々書類又は口頭で會議所に提出される多數個々人の希望を良心的に處理することを特殊の目標とする。

ドイツの、努力に當り、ノルウェー經濟は歐洲經濟圏の新秩序に於ける重要な一部として考ふべきであつて、久しくノルウェーがイギリス及びアメリカ經濟との鞏固な紐帯によつて結ばれてゐたことに拘泥してはならぬ。視野の廣いノルウェー商人は既にドイツへの依存の下に大ヨーロッパ經濟圏の新秩序に参加すべき必要を認識してゐるが、彼らの中には内心では舊紐帯から離れないと考へて居る者が多い。しかしドイツ商人の手腕と同化力、彼らによつて代表される生産物の優秀であることは、ノルウェーの取引業者をして大ドイツとの協力の必要を痛感せしめるに至るであらうと期待されてゐる。

ドイツとノルウェーとの、經濟關係の建設に當り、代理關係、注文先案内、特殊な市況觀察、關稅その他の輸出入權、廣告、商法その他多くの取扱ふべき問題につき、商業會議所はその助力が要求される時には常に之に協力を惜しまないことになる。

なほ占領地域ライヒ委員長は商業會議所に對して從來自己の保有した機能の一部を移管せんとしてゐる。即ち、ドイツ及びノルウェー市場に關係ある諸企業をして出来るだけ急速に密接な結合關係に置き、有效な橋渡しならしめんとすることがこれである。更にノルウェー經濟再建に資すべく、デンマークに於けると同じく、「ドイツ職業紹介所」が設けられたが、この國では寧ろ勞働力が不足して居り、この事業は差當り大きい意味を持つてゐない。

次に金融組織の秩序についてみれば、占領地域行政委員會は、ノルウェー銀行、ノルウェー銀行組合、ノルウェー貯蓄金庫中央組合と協力して聲明を發した。これによれば、割引率引下げ（五月十一日實施、銀行利率四

分半から三分へ）と共に、負債及び貸付利子が引下げられた。休止せる諸經營の再開、生産並に取引の再建、轉換を目的とするものである。農業信用に關する措置についてはさきに述べた。かくして各種の信用機關は信用關係恢復による該事業復興に資すべき任務を課せられたのである。

オスロー證券取引所も再開され、證券相場の暴落を防ぐ爲に、最低相場を決定したが、五月二十一日に初めて相場が定つたとき、右の最低相場を超えたものが少くなかつた。公社債類の如きは一〇%の下落が豫想されたにも拘らず、例へばノルウェー五分利公債の如きは五%の下落に止つた。工業株や海運株は最低相場を前後したが、それでも豫想されたよりは高かつたのである。次いでベルゲン取引所も再開された。

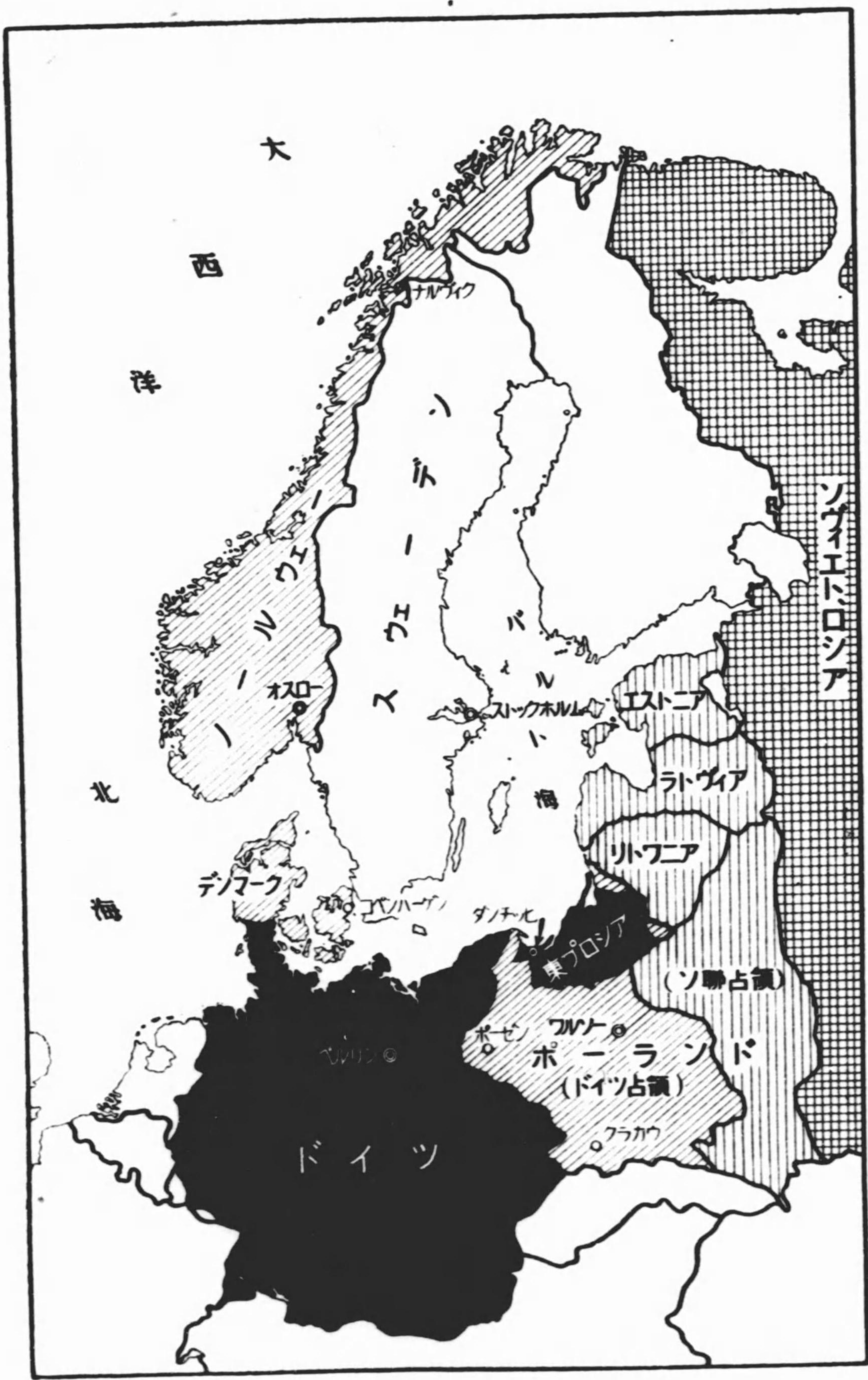
支拂取引の範圍内に於けるあらゆる命令や諸規則によつて、ノルウェー經濟生活は常態に歸りつゝある。とりわけ交通は漸次復舊し、沿岸航行については最早原則的な禁止は解かれ、オスロー・ベルゲン間の人及び貨物の交通は再開された。殊に五月初旬にはオスロー・ベルゲン鐵道は復舊し、やがてトロントハイム線（トロンバースト・トロントハイム間）に及んだ。更にノルウェーとスウェーデン間、並にその他の中立國諸港との間の海上交通についても恢復の爲の協定が急がれた。

ノルウェー及びスウェーデン間並にその他の中立諸港との海上交通も漸次恢復の爲に協定が行はれた。五月初旬に既にオスロー・ベルゲン鐵道は自由になり、まもなくトロントハイム線に及んだ。

ノルウェー船主組合は重要問題對策の爲に會議を開いたが、之に關聯して重要なことは、南極洋から歸航中のノルウェー捕鯨船を拿捕せんとするイギリスの努力が失敗したることである。

ノルウェー國民所得の三分の一(約十億クローネ)を齎す海運の將來について答へることは困難である。勿論その一部は北海及び東海(東海)の海運に充當されるであらう。

第二圖 ドイツの東・北方占領諸國



第四章 オランダ経済及び経済工作

オランダの國土は三萬四千平方杆であり、この地域に八百六十萬人の住民が居住し、したがって人口密度は一平方杆當り二百五十人に當る。しかし植民地を加へるときは、總面積二百四萬六千平方杆、人口六千五百萬人にのぼる。

この國の經濟構造全體をみれば、工業國とも云ひ切れないし、又農業國とも云ひ切ることも出来ない。ライン河の支配者として古くから商業が最も大きい役割を演じて來たのであるが、このことは、ドイツ一國のみでも過去數年間に於て、年平均一億五千萬ライヒスマルクをば、ロッテルダムを通過する商取引について入港税又は通過税として支拂つて來た事實から明らかである。アムステルダムでは商業中心地として取引所が榮え、この地の相場はニューヨークと共に重要な役割を演じて來た。

工業は最近十年間に目覚ましい飛躍をなした。造船所及び機械工場は一九一三年の三から一九三九年の二に増加し、同じ期間に化學工場は九から一五に、コーリン工場は一から四に、建築會社は五から六に、その他の諸工場は二三から八一になつた。アムステルダム取引所で上場される工業企業は一九一三年の四三から一九三九年の一三一にのぼり、またその株式資本は七千四百萬フローリンから六億六千七百萬フローリンに高まつた。オランダ諸企業の總投下資本中、工業は實にその三〇%を占めてゐる。とりわけオランダ人絹工業 (AS)

〔及びブレダ〕は世界的であり、ウニレファー・コンツェルンは數多くマルガリン及びそれに類似の諸企業を支配することを以て世界に知られ、フィリップスはラデオ界で國際的意味を持つて居る。ゴム及び製糖業の盛んなことも亦、オランダの植民地帝國的性格を示すものとして見落すことは出来ぬ。諸工業原料として必要な石炭はリンブルガー地帯に於て自給される。即ちオランダは多量の石炭を輸入してゐるが、他方に於ては同額の輸出をしてゐるのである。しかしイムイデンの大鉄鐵工場では原料鑛石を外國に仰がねばならないし、その他諸原料も外國の供給に俟たねばならぬ。加ふるにこの國の國內市場狭小の故に、大部分の工業は輸出向である。

オランダ工業の國民經濟上持つ地位を従業者數によつて判斷すれば、約百二十萬人、即ち全従業者數の三九%が工業であり、之に對して農業では六十五萬人、即ち二二%、商業その他の流通關係が七十五萬人といふことになつてゐる (Der deutsche Volkswirt, 7 Mai 1940)。

農業用地は二百三十萬ヘクタール中百三十萬ヘクタールが牧場である。つまりこの國の農業に於ては牧畜業が支配的であるといふことが出来る。豊かな家畜飼育者と共に、ミルク、バター、チーズ等の生産に富み、バターの如きは約十萬噸に達し、國內消費を遙かに超えて居り、チーズも亦、輸出の方が上である。家禽は二千八百萬羽、これによる卵生産は二十億個にのほり、その輸出額はチーズのそれよりも多い。牧畜業に次いで園耕業も亦、高度に發達してゐる。このことはオランダの地味や水利の關係がそれに好適であるのみでなく、溫和な海洋的氣候に幸されてゐることに基くものである。かやうにして耕地の上でも總耕

地面積二十三萬五千ヘクタール中で十三萬五千ヘクタールは園耕地である。しかも特徴的なことは、五ヘクタールの小經營が支配的だといふことである。しかもこれらの園耕作物の極めて多くの部分は、第一にイギリス、第二にドイツに輸出されてゐることに注目せねばならぬ (Allgemeine Zeitung, 25 Juni 1940)。しかるに他方に於て穀物、とりわけ小麦、玉蜀黍、大麥、等の輸入が多額にのほつてゐる。試みに農産物のオランダ輸出入額をみれば左の如き關係になつてゐる。

オランダ農産物の輸出入額	
輸 入	輸 出
動物性脂肪(一〇〇〇封度)	五五、五一五
小 麥(一〇〇〇ブッシュル)	三一、五一三
ら い 麥)	五七、六三三
大 麥)	一七、五七七
雜 穀)	五三一、八三二
種 株)	一三一、五四七
糖(一〇〇〇封度)	一四七、四八二
砂	一六七、九〇二
	二二五、六九八
	一四二、六七四
	一七、〇三六
	三〇四、九六二
	一二、六一五
	一〇三

類の耕地も供給増加を防ぐ爲に制限されたが、それだけでは不充分であり、時としては恐慌前と同じやうに、作物の腐るのを傍觀せねばならなかつた。かやうにして此處數年間その生産費を償ふに困難を感じて來た園耕は、とりわけ一九三八年十二月の嚴寒の爲に三千萬乃至四千萬フロリンの損害となつたのである (International Institute of Agriculture, The World Agricultural Situation in 1938—39 pp.287)。

この事實は戦争の危機が切迫と共に、オランダ政府をして大規模の貯藏政策に向はしめた。これは既にチエッコの危機に着手され、一九三九年九月にその努力が倍加された。そして開戦による貿易の打撃の後に、價格と運送費との騰貴にも拘らず、輸入は増加し輸出は減少を示してゐるが、このことは貯藏の擴大によること明らかである。

加ふるに農業の轉換計畫が企てられた。これはある種の不足商品の生産を擴張し、牧場を破壊し、球莖の栽培を縮少すること等を目的とするものであり、國內供給を出来るだけ長期間確保する爲に、貯藏政策と相俟つて、國內生産を擴張せんとするものであつた (Der Deutsche Volkswirt, 17 Mai 1940)。

かやうな經濟構造はドイツ占領後の新事態に可及的急速に合致する爲に、全面的な經濟轉換を促した。そしてこの目的の爲にオランダの各當局はドイツの指導下に懸命な努力を拂つてゐる。

先づ農業についてみると、オランダ農業中新事態に最も容易に適合し得たもの、一つは園耕である。といふのは、ドイツはオランダ農業生産物の重要な顧客になり得たからである。この點に於てオランダ農民は大ドイツ經濟圏内に於て今や新しい生活の基礎を見出したと共に、他方ではドイツ食糧經濟の爲の好ましい補充にな

り得た。オランダ生産者は今日では最早、多大の勞苦によつて栽培した甜菜類が腐つて行くのを傍觀する必要はない。一九四〇年の春、馬鈴薯出廻期にドイツは四萬二千噸の春季馬鈴薯を輸入したが、之は一九三九年一ケ年間の輸入額一萬五千噸に比すれば、非常な増加である。且つその上に日々二百二十乃至二百五十噸積貨車が野菜をドイツに搬入してゐる。一九三九年に於ける春季馬鈴薯の對英輸出額は僅かに九千噸に過ぎなかつたことからみれば、これは極めて大量である。一九四〇年八月一日迄に、ドイツは既に二百萬キログラムの野菜をオランダで買付けた。之に對して各年一ケ年間に於けるドイツの輸入は三千八百萬キログラム、その他の諸國へは二千萬キログラムにしか過ぎなかつたのである (Wirtschaftslehre, 22 Nov. 1940)。又さきごろ無電は誇つて云ふ、ハーグとフックとの間にある有名なウエストランドの農産物の賣上は一九三九年のそれと比較して五〇%方も高まつたと (Economist, 12 Oct. 1940)。

この點に於て全體委員 Generalkommission フィッシュベック博士及び縣農民指導者グラフ・グロテがオランダ農業の轉換に關する報告中で、次のやうに指摘してゐる。即ち、大ドイツ圏へのオランダの依存によつて占領後早くも數週間以内に、さきにイギリスに輸出されてゐた園耕作物の全數量はドイツ市場によつて引受けられたのみでなく、さきに無駄に歸してゐた大量がドイツに輸出されたのだと。加ふるに大ドイツ國は之に對して適正價格を保證し、その結果オランダ産野菜に支拂つた平均價格は、前年の價格に比し、二〇乃至二五%高かつたのである。かくしてオランダ園耕業の基礎は最早輸出に依存することなく、販路が安定するに至つた

(Allgemeine Zeitung, 25 Juli 1940)。

牧畜業は海外からの飼料輸入が不可能になつた爲に、その轉換はより困難である。この場合飼料の國內生産可能な範圍までの家畜飼育高の制限が不可避である。この制限の範圍は、牛の數量は可及的に維持すべく、殊に優良種は保存すべきであるが、之に反して家禽や豚の制限は可なりの程度にのぼるであらう。一説では家禽の如きは既に九月迄に六百萬羽、即ち現在の約三分の一にまで減少せねばならぬと云ふ(Times, 29 July 1940)。農業がオランダ國民經濟に取つてかくの如き重要性を持つてゐたにしても、國民經濟全體に取つての工業の地位は既述のやうに大である。しかしこのことはオランダの自然的條件に基くものではなくて、この國の有利な地理的利用、多くの船舶所有及び巨大な富の蓄積によるものである。それ故に又この國の工業も亦、原料關係に於ても、その販路に於ても海外への依存度が極めて大なることが特徴である。即ち、例へば纖維工業のみについてみても、一九三七年に於て原棉の輸入は一億三千八百五十萬封度、羊毛のそれは一千九百四十萬封度にのぼつてゐる。又工業生産物中の重要な部分、即ち、機械、船舶、交通機關、白熱燈、ラヂオ機器、人絹、航空機、電信機械器具等凡そ五七%は輸出向である。それ故に外國から原料輸入が制限され、原料不足が現れるに至つたことは必然である。

かくしてオランダ經濟の轉換に當り、工業に課せられた任務は、全歐大陸の需要するが如きもの、生産への轉換である。オランダは海外からの離隔によつて、その輸出市場の約三〇乃至三五%を失つたし、したがつてその工業は歐洲廣域經濟圏に合致するものたらしめられねばならぬ。この目的の爲に最近アムステルダム銀行は新事態に適合する爲の調査を開始した。ドイツの外に東歐、南歐及び東南歐がオランダ工業製品の購入者たるに至つたことは必然である。

るには充分の可能性があり、ライン・ドナウ樞軸は北西歐の工業地域と東南歐との農業諸國とを結び、北海、黒海、東海と黒海との水路による結合は、オランダの航行業及び商品取引を極めて活潑ならしめるであらう。勿論原料の不足は一部工場の操短を不可避ならしめるが、ドイツその他の歐洲諸國からの原料供給については、ドイツと同一條件の下に提供されることになつたといふ。

だが、この場合復興の努力には各種の困難の伴ふことは當然である。この場合最大の困難として現れたものは何よりも交通である。八月に行政長官ザイス・インクワートは生産を出来るだけスピード・アップすべきことを述べたが、しかもこの際交通の困難を無視すべからざることを強調してゐる。かゝる交通上の諸困難は、第一に交通機關の破壊と石油の不足とに基く。橋梁は徐々に復舊されてゐるが、石油の缺乏は漸次困難になつて來た。ガソリンは極めて乏しく、最近千臺の木炭ガス發生爐がトラック用としてオランダに搬入されたといふ。その間多數の貨物自動車は馬車によつて牽引されねばならぬ。六百隻以上の大型發動機船が繋船されてゐる。オランダの國內運送用船舶總噸數は、三百八十萬噸に達してゐるが、使用されてゐるものは大部分内燃機關によらざる小型船のみである (Economist, 24 Aug. 1940)。

かゝる諸困難にも拘らず、一部の工業は、再び運轉を開始したし、鑛山はその生産増加に努力してゐる。ロッテルダムでは「ロッテルダム纖維工業組合」が新設され、戰爭によつて破壊された纖維工業の復興に努力してゐるし、政府も亦、この爲に二百五十萬フロリンの貸付を行つた。とりわけ海外原料に依存せず、且つ操短を命ぜられた以外の諸工場では數ヶ月以來、盛んに生産が行はれてゐる。多數の造船所、殊に比較的小

規模のそれらは既に久しくその操業を開始した。建築業も好轉の見返しを示したし、運輸業、就中國内航行は自動車や貨車交通の制限に伴つて好轉の徴を示して來た。

ところで大口取引たるドイツとのそれにあつては、とりわけ價格の調整が必要であり、全體委員フィッシュベックの報告によれば、オランダの物價水準は、先づ五月九日價格停止令によつて確定された。例外には許可を要するが、ドイツの價格水準を超えることは許されない。しかしオランダの價格水準をドイツのそれに等しからしめる爲には、對獨輸出關稅率の修正が行はるべきであり、これは既にオランダに對するドイツの引渡獎勵策によつて部分的に實施されてゐるところである。

關稅收入への變化及び特別支出から考へて、租稅改革が要求される。オランダ國民一人當り納稅額はドイツの約半分にしか過ぎぬ。

それ故に八月三日に至つて最初の新稅が賦課されたが、その詳細は未だ明らかではなからぬ(Economist, 24 Aug. 1940)。

かゝる前提の下に、ドイツではオランダとの支拂取引に關する規定が爲され、ドイツ經濟大臣は占領地域たるオランダとの支拂取引緩和の爲に、一九四〇年十一月一日以降、特殊な爲替法上の許可なくして占領地域への旅行に當り、常に一千ライヒスマルク又は七百五十フローリンを持參することが出来ることになつた。國境取引にあつては、一日百ライヒスマルク又は七十五フローリンを限度とするが、月額一萬ライヒスマルク又は七千五百フローリンを超えることを得ない。

その他占領地域たるオランダに對する支拂については、月額五千ライヒスマルクを限度とする自由取引が許される。然しオランダからの商品注文に關しては、この額を超えて無制限に支拂を爲すことが出来る。しかしながら一定の商品、例へば一部の食糧品の如きにあつては、爲替證券を要し、これは従前と同じくライヒ爲替券によつて商品取引上の監視及び統制を受ける。爲替證券のみで注文される商品は五千ライヒスマルク以内の場合にのみ許可を要しないことになつてゐる(Der deutsche Volkswirt, 8 Dez. 1940)。

根本的な經濟組織の問題に關しては、オランダの従來の經濟機構がドイツの如き段階的組織に慣れてゐない爲に、何よりもドイツのイニシヤチーフが要求される。それ故にザイスロインクワートはドイツ専門家から成る顧問團をハーグに招いて居り、その指導下にオランダ人をして各種の委員會を構成せしめた。かくして先づ一九四〇年六月にウトレヒト商業會議所長たるフェンテナー・ヴリシゲン博士の指導下に、「經濟的協力委員會」を設けた。これはオランダ經濟生活とドイツ當局との一種の橋渡しを爲すものである。この委員會の外に、ドイツ官憲のイニシヤチーフに基き、専門委員會が設けられた。これはロッテルダム銀行協會長フォルターソンの指導下に置かれ、必要な對策を爲し得る爲に緊急の場合に直ちに報告を爲すことを以て任務とする。

最後に今一つアルバルダなる特別委員會がある。之は金融問題に關するものであり、オランダ經濟界とドイツ官憲との橋渡しとなり、オランダ經濟を立て直す爲に活動すべきものである。この點に於て重要なのは、この轉換過程に於てドイツ商業會議所がハーグにその支所を置き、その活動範圍を擴張したることである。これによりドイツ占領地域委員會の任務とオランダ官憲との直接的な連絡が可能になつたのである(Wirtschaftsdienst,

22 Nov. 1940)。

これより組織の下にドイツの各官廳の活動システムに匹敵する機構を設けるのに努力してゐる。現在、オランダの官廳事務は、石油及び同製品、窯業及びそれに類する事業、織物配給羊毛、海上運輸、戦時食糧、煙草、廢品利用及び廢品の諸部門に分けられてゐる。

また、ドイツは、農業の分野において特に積極的であつたオランダ政府の統制機關を採り上げてゐるが、オランダの官廳は、ドイツにおける如く、極めて重要な作用をもつてゐるものである。それは原料の分配及び政府命令の傳達に利用されてゐる。

次いで金融問題についてみるのに、オランダ銀行の報告によれば占領後も何ら本質的な變化を示してはゐない。グルデン貨の對米相場はドイツ進駐前の調整資金によつて一・八八である。中央銀行の金保有高は一九四〇年四月二十二日の十一億一千七百萬フロリンから六月二十四日には十一億一千五百萬フロリンに減少してはゐるが、ドイツ占領以前の四月中に少くとも五、六百萬フロリンの減少があつたのである。唯一の重大な變化は、國內爲替の割引増加と紙幣流通額の増大とであるが、これは不當に限度を超えたものではない。即ち、オランダ銀行に對する割引要求は四月から六月迄に九百八十萬フロリンから三千八百三十萬フロリンに、紙幣流通額は百十二萬フロリンから百二十一萬九千フロリンに増加したのみである。

然しこゝで看過すべからざるは、既に戦前及び戦争繼續中に舊オランダ政府がその所有高をば、外國、とりわけロンドン及びニューヨークの中央銀行に移管したことである。それ故にオランダ銀行報告に於ける保有金

は、最早オランダ信用機構の上で何らの基礎になるものではない。このことは極めて重要である。オランダの通貨は今やこれの金準備を失つて、全く紙幣化したものと云へる。かやうな状態にも拘らず、グルデン相場が安定してゐる所以は、オランダが外國爲替市場から完全に切り離されてゐるといふ事情に基くものである。即ち、この場合平衡資金の如きは一切の意味を失ひ、グルデン貨はライヒスマルクと全く同様に純粹な「勞働通貨 Arbeitswährung」化し、ドイツの範に倣つて爲替統制制度によつて支へられてゐるのである。

又通貨の流通額に關する數字も眞正のものではない。といふのは、グルデン紙幣の外にライヒ信用金庫證券がドイツ占領軍の商品購入その他の支拂の爲に流通してゐるからである。このライヒ信用金庫證券とグルデン貨幣との間の換算率は、最初は國際的相場たる一フロリン＝一・三三ライヒスマルクによらず、一・五〇ライヒスマルクとされたが、七月下旬に至つてこのライヒ信用金庫證券はドイツ及びオランダ間の支拂手段たる性質を附與されるに及び、換算相場も變更されて從來の獨逸爲替相場にしたがひ一・三三ライヒスマルクとされたのである (Währung und Wirtschaft, Juni 1940)。

だがかやうに全面的な經濟再編成の過程に於て、オランダが直面せねばならぬ極めて大きい問題が二つあつた。一つは失業問題であり、他は食糧不足の問題である。

勿論オランダの失業問題が重大化したのは今次の戦争の直接的影響のみではなく、それは夙に一九三〇年の經濟恐慌時に遡る。即ち、一九二九年には失業者数は三十六萬四千人であつたのが、一九三〇年には四十二萬人、三二年には五十七萬人、三三年には六十萬四千人と激増したのである (Department of Overseas Trade, Ec-

onomic Conditions in the Netherlands, London 1939)。このことは云ふまでもなく、オランダ國民經濟の海外依存度の甚だ高いこと、及びそれに伴ふ輸出貿易、海運業不振の故であつた。加ふるに戦争はオランダ經濟に好ましからざる影響を與へた。主要港に於ける貿易は三分の一に減じ、したがつて一九四〇年二月末には、前年八月の約四十萬人の壯丁の動員にも拘らず、なほ三十三萬人の失業者があつたのである。加ふるに戦争の破壊による未復舊の工場、原料不足の爲の操短、等々の爲に失業者の増加は不可避であつた。

この故にドイツ占領軍當局はオランダ政府と協力して失業の克服に懸命の努力をして居り、この結果としてオランダの失業数は六月十五日にはなほ約三十萬人であつたが、七月六日には早くも二十五萬六千七百人に減少した (Der deutsche Volkswirt, 2 Aug. 1940)。更に最近の報告によれば、オランダの失業は最早週期的現象に歸つたとさへ云はれてゐる。

このことは、一部は國內復興計畫への吸収の努力によることは云ふまでもないが、ドイツ國內で職業を與へんとするドイツ當局に負ふところが少くない。ドイツ委員會社會部長ヤコブが十二月に發表したところによれば、當時ドイツで就業せるオランダ人は十二月には四千人であつたが、なほ増加の傾向にあり、しかも賃銀その他の労働條件に於ては、ドイツ人と同様に取扱はれてゐると。しかもこれが賃銀所得を母國の家族に送金する場合には、爲替上の困難は除かれてゐる。それでもなほ現在約十六萬人の失業者があり、之に對しては総合的な授職計畫が進められてゐるのである (Frankfurter Zeitung, 17 Dez. 1940)。

なほこの點に於て重大な意味を持つのは、ウーデンスベルグを最大のオランダ労働組合聯合會の委員長に任

命したことであり、これによつてこの團體はオランダ労働戦線の指導下に置かれることになつたのである。同時にロスト・ヴァン・トニンゲンを従來の社會主義的労働黨の委員に任命し、何よりも労働組織の資産と社會的諸施設とを労働者の利益の爲に保護することを以てその任務たらしめた。

この指導の下に、オランダ經濟生活の轉換に對する國民の自發的な協力が期待されるのであり、これはライヒ委員ザイスラインクワートの言葉によれば、ヨーロッパの再建に當り、オランダは平等な権利を持ち、極めて有效な協力者として協力することを目的とするものである。同時に彼は確言して云ふ、「オランダは全面的に何ら縮少するところはない」と (Der deutsche Volkswirt, 2 Aug. 1940)。

第二の食糧問題につき、オランダは疑ひもなく著しい不足を示してゐる。戦前からのストックのある部分がドイツ軍に徵發されたとの報告も傳へられてゐる。即ち、タイムズによれば、ドイツ占領の最初の一週間に、例へば、バター八百萬キログラム、即ち總生産の約九〇%が運び去られたといふ (Times, 13 Aug. 1940)。さなぐとも海外輸入の止つたオランダでは食糧不足は必至であり、この結果として割當制が實施された。これが若干の實例をあげると、一ヶ月割當はコーヒ二五〇グラム、茶五〇グラム、砂糖一、〇〇〇グラム、バター二五〇グラム、マルガリン及び油脂二五〇グラム、大麥三三〇グラム、玉蜀黍六六グラム、小麥粉五〇〇グラムであり、パンの週割當は二、〇〇〇グラムでドイツの割當二、四〇〇グラムよりも稍、少い。

だが物資の缺乏は獨り食糧品や飼料に於てのみではない。八月四日から一切のストックの目録が作成され、同月十二日にはドイツと同じやうな衣類切符制が百品目について實施された (Economist, 31 Aug. 1940)。

第五章 ベルギー經濟及び經濟工作

云ふまでもなくベルギーは世界で最も人口稠密な工業國である。即ち僅かに三萬五千平方杆の狭小な土地に約八百三十萬人が居住し、したがつて一平方杆當り人口は二百七十三人に當る。しかし他方には二百三十九萬一千平方杆の植民地がある。

この國には石炭を除けば、みるべき礦物資源が無く、したがつて關稅同盟下にあるルクセンブルグと共に、自國工業の基礎として各種の原料品を海外に仰がねばならぬ。之に反して耕地は著しく富み、耕地單位當り收穫はオランダのそれと共に世界最高にあるが、同時にこのことは施肥の多いことをも意味する。しかしそれにも拘らず、國土の狭小の故に農産物の絶對量は大ではなく、多くの食糧品を輸入せねばならぬ。かゝる原料及び食糧品の海外依存の上に、この國の工業は著しく發達して來た。主たる工業生産の近年の發展をみれば次掲の如くである。

ベルギー工業生産高

	一九三一年—三五年平均	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年
石炭 (一、〇〇〇噸)	二五、三一四	二六、三六五	二六、四八四	二七、八七六	二九、六八一
鉄塊 ()	二、九四四	二、九〇七	三、〇六〇	三、二〇七	三、八四三
鋼塊 ()	二、九一一	二、九〇〇	三、〇二六	三、一〇四	三、七七七

鋼材 (一、〇〇〇平)	ガラス類 (一、〇〇〇封)	紙類 (一、〇〇〇封)	綿絲 (一、〇〇〇封)	毛織絲 (一、〇〇〇封)	人絹 (一、〇〇〇封)
二、一七四	三三、五二九	一六三、七六二	一一四、三九二	五四、四八一	一〇、四一〇
二、一七四	二六、〇九七	一六二、四〇〇	九四、七九八	三四、五五〇	一〇、八〇〇
二、三〇三	三六、七四七	一八〇、四〇〇	一三五、〇三二	五九、〇〇〇	一一、五〇〇
二、四四四	四三、八六〇	二二五、〇〇〇	一四六、一六五	七二、五一四	一四、五〇〇
二、七七一	四七、四八〇	二四〇、六〇〇	一五九、九六六	六六、四二九	一六、五〇〇

最大の工業は云ふまでもなく鐵鋼業を中心とする一聯の重工業である。その生産額はルクセンブルグのそれをこめて一九三八年には鉄鋼四百萬噸強、鋼三百七十二萬噸を生産して、世界第五位にある。これは勿論合衆國やドイツのそれに比すれば著しく少いやうにみえるかも知れぬ。だがベルギー—ルクセンブルグ關稅同盟は右の生産された鐵鋼の大部分を直接に壓延鋼の形に於てのみならず、機械及び器具の形に加工して海外に輸出してゐるのである。ベルギー鐵鋼業が世界鐵市場に於て極めて重要な地位を占めてゐることの一例として、アントワープの棒鋼價格は世界鐵價格の形成に大きい影響を與へて來た事實を指摘することが出来る。又ブリュッセルの鐵取引所はそれに關係ある各方面から注視されてゐるのである。たゞベルギー鐵鋼業はその大規模の鐵工場、壓延工場、加工工場等の優れた最新式の諸設備にも拘らず、原料たる鐵鑛石への全部を輸入に俟たねばならない點に缺陷がある。普通にはベルギーは年額約一千萬噸の鐵鑛石を輸入するのを常として居り、そのうち九百萬噸はフランスから、殘餘をスウェーデンに求めてゐる。之に反してルクセンブルグでは國內に鐵石産地を持ち、その需要を充し得るのみでなく、約百萬噸をドイツに提供することが出来た。他方に於てベル

ギーは石炭及び冶金用コークスを自給して餘りがあつたが、ルクセンブルグはドイツにその原料を求めてゐた。かゝる事情の下にこの兩地域は例へば一九三七年には約四百三十萬噸の鐵鋼輸出を持つて居り、しかもその極めて多くがイギリスに輸出される。かくイギリスがベルギー及びルクセンブルグを鋼生産工場として利用し得る可能性は、最近の經濟協定に於てイギリスがこの兩國に對して各種商品の輸入を許容してゐた動機でもあつた。

ところでベルギー鐵鋼業は大體に於て次の三群に分たれる。第一はソシエテ・ゼネラル・ド・ベルヂックによつて率ゐられるものであり、第一にサンブル・モーゼル、アングルー・ル・アチュス、コワケリル縣が之に屬する。此處では一銀行を通じて資本的に結合された諸工場がベルギー全生産の約半分を占めてゐる。第二に自發的企業聯合としてのウーグレ・マリエ・コンツェルンがあげられる。これの持株會社はコンフィマンデュであり、各種の企業を支配してゐる。石炭及び鑛石の生産から製鋼及びその加工、精鍊兵器、化學製品にまで擴がつた垂直的の一大コンツェルンであつて、その利害關係はフランス及びルクセンブルグにまで延びてゐる。かくしてウーグレ・マリエはベルギー最大の重工業企業であり、その總裁はブリュッセル銀行總裁を兼ねてゐる。第三は隨時各種の獨立企業によつて構成されるものである。

右の組織化され、發達した鐵鋼業の基礎に各種の機械工業が發達してゐるが、就中その中心地は「ベルギーのバーミンガム」と稱せられるリエージュであり、此處では兵器その他の機械類が生産される。

これらの鐵鋼業や重工業に従事する労働者數は二十五萬人に達し、その生産の六〇％が輸出向であり、この

國の輸出總額に對する參加率は約三三％である。又機關車や貨車工場の如きも輸出の基礎に立たずしては存續出来ぬところのものである。

重工業に次ぐ重要工業は纖維工業である。一九三〇年にはこの企業數は四千六百で、八千が被服業、従業者は二十五萬七千人で全工業従業者數の一三％に當り、被服工業をも含めれば實に二〇％にのぼつた。しかし十人以上の従業者を使用する企業は三千にしか過ぎず、この部門にあつては小規模企業が支配的であり、これらの纖維工業は主としてフランドルに集中してゐる。

ベルギー纖維工業を大別すれば、綿業、毛織業、麻織業であり、綿業部門では錘數は約九十萬で世界の三％、織機數は七千五百臺で世界の一・六％に當る。これらの生産設備をみれば次掲の如くである。

生産部門	錘 數	織 機 數
綿 業 (一九三五年)	二、〇九〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
毛 織 業 (一九三六年)	約九〇〇、〇〇〇	七、五〇〇
亞麻織業 (一九三六年)	二五〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
廣麻織業 (一九三五年)	七二、〇〇〇	三、〇〇〇

(Wirtschaftsdienst, 8 Nov. 1940)

ところでこの際重要なことは、ベルギー纖維工業が原料關係に於ても、その製品についても海外に依存してゐることである。即ち、原料は殆んどその全部を輸入に俟たねばならず、例へば一九三八年には次の如く約十二億フランの原料を輸入せねばならなかつた。

原料輸入額(一九三八年)		
原料	數量(噸)	價額(百萬フラン)
原毛	九六,〇〇〇	一,〇四八
原棉	一三八,〇〇〇	八二七
亞麻原乾	一六八,〇〇〇	二〇〇
亞麻粗纖維	四,〇〇〇	三六
亞麻梳纖維	一,〇〇〇	九
原黃麻	五二,〇〇〇	一二八

しかもその製品の大部分が輸出向であり、とりわけ綿織物の如きはその僅かに一部分が国内で消費されるに止る。

織物の輸出入の額				
織物	輸入		輸出	
	數量(一,〇〇〇噸)	價額(百萬フラン)	數量(一,〇〇〇噸)	價額(百萬フラン)
綿織物	〇・八	五四・六	一八・九	五二〇・二
毛織物	〇・六	七五・九	二・七	一〇七・八
亞麻織物	〇・〇	〇・九	三・四	一一一・四

加ふるに原料供給地は遠隔であり、例へば棉花は合衆國、英領印度、白領コンゴ等から、羊毛はアルゼンチン、オーストラリア、南アフリカ等から輸入されるのである。

以上の諸工業に次いでガラス工業も亦、極めて盛んであり、謂はゆるフランス板硝子と云はれてゐるものは、實はベルギーを原産地とする。

かゝる工業の旺盛に反して、農業はベルギーでは副次的な役割しか持ち得なかつた。だがこの百七十一萬ヘクタールにしか過ぎない狭小な耕作によつて食糧品需要の約八〇乃至八五%を充すことが出来るが、たゞ小麦に至つては總消費の七〇%しか供給することが出来ない (International Institute of Agriculture, The World Agricultural Situation in 1938-39)。このことは従來ベルギー農業の重心が牧畜及び畜類生産物に置かれてゐたことに基くものであつて、過去數年間に於ける農業用地の配分の如きも、七六%が飼料耕作、二二%が食糧品耕作、二%が工業原料(亞麻等)といふことになつてゐた (Der deutsche Volkswirt, Mai 1940)。したがつて生産額についても牧畜業によるそれは、穀物及び工業用原料植物のその約三倍であつた。このことから、例へば一九三八年は異常な豊作であつたにも拘らず、小麦は国内生産の二倍、ライ麦はその半分、大麦に至つてはその五倍を輸入せねばならなかつた。たゞ甜菜及び代用コーヒ用原料たるきぐちさの生産のみは国内消費を超え、又燕麥及び馬鈴薯の輸入も僅少に止つた。卵は輸入に俟たねばならないが、肉類、ミルク、バター及び脂肪はほゞ国内需要を充すことが出来る。しかるにこれらの重要農産物は玉蜀黍、油粕、苜蓿等、年額約十億フランに達する飼料の輸入によつて支へられてゐるのである (Frankfurter Zeitung, 13 Sep. 1940)。かくしてベルギーの食料及び飼料の海外依存度は次の如く高いものになつてゐるのである。

食糧		飼料	
小麥 (一,〇〇〇ブッシェル)	四四,八四七	大麥 (一,〇〇〇ブッシェル)	二一,二六九
ライ麦 ()	一,九一四	雜穀 ()	三六,〇〇二

ベルギーの食糧及飼料輸入高(一九三七年) (ルクセンブルグを含む)

馬鈴薯 () 三、二九六
 (半ば飼料)

穀、林 () 四五六、八八九
 油粕 () 三五五、三七三

果 實 (一、〇〇〇封度) 三七八、四一九
 (Foreign Commerce Year-Book)

以上を端的に表現すれば、ベルギーは工業原料並に穀物及び飼料を海外に依存しつゝ、工業生産物や畜産物を輸出しつゝあつたのである。かゝるベルギー経済の特徴はそのまゝに缺點であり、やがてこのことはベルギー経済の轉換に對する要請となつて現れたのであるが、之は後に述べるであらう。

ところでベルギーは戦争によつて最も甚だしい被害を蒙つた國の一つであり、したがつてその復興も極めて困難であつた。大體に於てベルギーが戦争から蒙つた影響は三つに分たれる。第一に擧げらるべきは、建物、橋梁、運河、鐵道、電信、電話、道路、及び外國との交通路たる海岸の破壊である。最も激甚であつたのは、數多の河川及び運河網の存在する地方であつて、應急的な橋梁の修復の後にも、なほ航行が屢々妨げられてゐる。第二は住民の減少である。その多數は避難、或は捕虜によるものであり、一部はドイツに、一部はフランスに移つてゐる。その正確な數は不明であるとしても、恐らく百萬人内外と見られて居り、このことは経済的には二重の損失を意味する。即ち、一方では、それは勞働力の不足を招くものであるが、とりわけこのことは工業、農業、及び官廳に於て著しい。ベルギー有識階級の殆んど全部が國外に逃亡したのであるが、これらの分子の多くは政治關係に活動してゐたものであり、今なほ歸還してゐない。他方ではこれらの避難者と共に巨額の資本が失はれた。多くの場合重役や支配人と共に、銀行、商工業企業はもとより、國家や地方團體を初

め、各種の組合等の如きに至るまで、その金庫や動産がフランスその他の國外に持ち去られたのである。

第三に注目すべきは、ヨーロッパの新しい政治的地理的狀態が、ベルギー經濟構造を一變せしめたことである。今や従來の市場と供給者とが失はれ、新しいそれが之に取つて代りつゝあるのである。

かゝる事情の下で、ベルギーに於て到るところに現れた困難と缺乏との克服について、あらゆる努力が拂はれ、大體に於て復興事業は著しく進捗しつゝあるといふことが出来る。以下これについて概観しよう。

第一の戦争の直接的破壊からの復興についてみれば、最も困難を極めたものは、運河の修復である。だが最早現在ではその段階は過ぎた。先づアルバート運河は一九四〇年八月に早くもアントワープ及びツェーリング間が修復されたが、クリスマスにリュッチヒまで航行が可能になつた (Frankfurter Zeitung, 28 Dez. 1940)。このことは同時に石炭問題解決の一助ともなるものである。といふのは、アルバート運河は石炭産地たるリュッチヒとアントワープとを直接に結ぶものだからである。これと共に九月末のマース河の復舊はギフェット及びリュッチヒ間を連絡することになり、ブリー盆地からワロンの熔鑛爐に鐵鑛石の運搬を容易ならしめることになる筈である。この輸送路恢復の最大の障礙はルクセンブルグのナムール橋梁の爆破である。セダンに於て同地方の復舊工事が行はれてゐる爲に、鐵鑛石を積替へねばならぬことも現在では大きい障礙の一つになつてゐる。サンブル河の航行は十月に恢復された。

鐵道の復舊も亦、進んではあるが、この場合の最大の困難は機關車や貨車の大部分が國外に運轉し去られたことである。同様な運搬車の不足は通常の場合最も恢復の早い筈の道路に於て甚だしい。更にブリュッセルや

その他の大部分の都市にあつては、電話の復舊も未だ充分ではない。

だがかやうな不完全ながらも漸次的な交通關係の改善によつて、他の經濟總部門復舊の努力も亦、促進された。勞働力不足が最も顯著に現れてゐる農業部門に於ては、運送機關不足の故に生産物の出廻りは依然として悪いが、さなくとも乏しい供給しか受け得ぬ住民にとつて、生産物が掠奪されるやうな危険は去つた。農民の性質として、農業は戰鬪行為の停止と共に最も早く歸還した部門である。

工業部門にあつては、破局的な大量失業の危険があつたが、これは一應戰鬪區域の整理事業によつて救済に着手された。復興委員會が述べてゐるやうに、ベルギー・ルクセンブルグの炭坑は戦争による直接的被害が僅少で済んだ爲に、再開が容易であり(Wirtschaftsdienst, 19 Juli 1940)。既に出炭高は漸次高まつた。既述のやうにベルギーの石炭は平時にあつては國內需要を超えて輸出されて居り、したがつて冬季の接近と共に益々その増産が急がれた。その結果として、現在では最早、石炭問題は出炭の問題ではなくて、輸送と配給との問題に化したのである。それ故にこの問題解決の爲に、早くも一九四〇年八月初めに石炭中央配給局 (Office Belge de Charbon) がアントワープに設けられた。

より復舊の困難なのは纖維工業に於てである。一部の工業は戦争によつて破壊されたが、それよりも此處では原料不足に悩まねばならぬ。鐵鋼業の復舊も目覚ましく、シベラックの設立によつてベルギー鐵鋼業は嚴に計画的な生産及び配給指導下に置かれることになつた。八月初め、ウーグレ・マリエ工場の熔鑪爐が操業を再開した最初のものである。それを端緒として既に十五基の熔鑪爐が操業を開始したと云ふ (Der deutsche Vol-

kszeit, 30 Aug. 1940)。ルクセンブルグでも鐵鋼業は徐々に恢復しつゝある。此處でも戦争による直接の被害は少かつたが、勞働力の不足及び鐵道の運輸能力によつて制約を受けねばならない。

交通の漸次的な復舊と共に、避難民も徐々に歸還し始めた。しかし支配人や技師は依然として不足してゐるし、又高級官吏や、各種企業幹部連によつて持ち去られた金は決して歸つては來ない。このことによる支拂手段の不足こそ、ベルギー經濟再建のぶつかつた最大の障礙なのである。

ベルギー發券銀行の保有金はもとより、現金在高及び印刷機までも前ベルギー政府によつてイギリスに持ち去られたのみでなく、當時の爲政者は振替爲替局の金庫、三十億フランに達する四十萬人の取引の手形を全部國外に搬出し、帳簿を破棄した。失業救済資金までも外國に持ち出され、したがつて六月の救済はほんの一部しか行はれなかつた。同様な無責任は前アントワープ市長フィスマンの場合にもみられる。即ち彼は既に開戦の際、二、三の市會議員と共に、一萬人の失業者を放置したまゝ、市金庫を持つて逃亡したのである (Wirtschaftsdienst, 19 Juli 1940)。

かゝるベルギーからの金の持ち出しは、ベルギー通貨をば純粹に紙幣化してしまつた。この外國に搬出された金及び爲替が幾何に達するかは、一九四〇年八月中旬に開催された舊發券銀行の最後の總會に於ける討議によつて推定される。これによればドイツ軍進入前には、ベルギー國立銀行の金及び爲替保有高は二百三十二億フランであつたが、その大部分は外國諸銀行に預入れられてあつた。しかし六月十五日になほ金五十億即ち十七億フランがイギリスに輸送された。六月二十五日の發券銀行營業報告によれば、丁度この時二百十六億五千

萬フランの金と三億二千八百萬フランの爲替とが外國に預入れられてゐた。そして五月八日乃至六月二十五日迄に二百九十八億フランから三百三十五億フランに膨脹した紙幣の發行準備は、法律上では約百三十九億五千萬フランの金準備を要するにも拘らず、僅かに十六萬フランの金と約五百萬フランの爲替とが残つてゐたに過ぎなす (Währung und Wirtschaft, Juli 1940)。それ故にベルギー經濟再建には、何よりもこの問題の急速な解決が要請されたのである。

かくして九つのベルギー大銀行及びコンツェルンの協力によつて、六月二十七日に兎も角も形式的に新發券銀行が創設せられ、七月十五日に營業を開始した。新發券銀行の資本金は差當り五年間は一億五千萬フランとし、その營業範圍は舊ベルギー銀行のそれと同様であり、この際四ヶ月期限爲替の割引は六ヶ月爲替にまで擴張せられた。而してその主たる任務は、國家、地方團體、等に對して復舊資金を供給するにあり、配當を四分に制限し、ベルギー財界人二十名からなる管理委員會によつて、金融操作上、一般の利益を保證することにした。

新發券銀行券の發行準備は、通常の取引に基く銀行資産、割引爲替手形、貸付金、外國爲替、ライヒ信用金庫證券をも含む保有ライヒスマルク、及びドイツ清算金庫所有の新銀行資産等である。此處でライヒ信用金庫證券を以て發券準備にしたことは、それを事實上爲替と同じ地位に置いたものであり、これによりライヒ信用金庫は發券銀行の中央銀行たる地位にあるもので、したがつてベルギーは差當り二つの發券銀行を持つことになる譯である。

信用及び金融取引の應急機關として設けられたライヒ信用金庫は、遠からず廢止されて、通貨が統一さるべき筈であるが、とも角もライヒ信用金庫證券及びライヒスマルク貨がベルギー通貨の發行準備たる性質を失はぬ限り、それは恰もスターリング・ブロック内部に於て、イギリスとブロック諸國との間に存在したやうな依存關係をば、ドイツとベルギーとの間に生ぜしめるものとされてゐる。

ライヒ信用金庫證券が何時回收されるかは將來の問題であり、差當りは、ドイツ當局は國家的な俸給及び貸銀支拂に必要な通貨と右の信用金庫證券の發行によつて造出し、大規模の貸付によつて地方團體や國家機關に對して、失業救済資金の調達に協力してゐるのである。

かやうに差當りベルギー通貨とライヒ信用金庫證券とが併行的に流通してゐる事實は、少くとも占領地域に於ける現金支拂について當然兩者の交換比率の決定を必要とするが、暫時一ベルギー・フラン \parallel 一〇・プエニヒとされた。これはフランス・フランの二倍に當る。しかるに八月初めにフランス・フランを八プエニヒに引下げた結果として變更を加へ、一ライヒスマルク \parallel 一二・五ベルギー・フラン \parallel 一〇・七五グルデン \parallel 一〇ルクセンブルグ・フラン \parallel 二〇フランス・フランとした (Währung und Wirtschaft, Juli 1940)。

第三の問題は歐大陸以外の海外市場及び原料供給國から離隔されたことに基く、ベルギー經濟轉換に對する要求である。このことは既述のやうに、ベルギーが工業國であること、及びその生産物の多くは輸出向であり、しかしこれら諸工業の原料品の多くは海外に求めねばならぬこと等、ベルギー經濟それ自體の構造が當然に生ずる要求である。

ベルギー重工業の基礎としての石炭及び鐵鑛石の補給にはこと缺かぬであらう。前者はベルギーの豊富な炭田から得られるし、戦前と同じくドイツからコークス供給も期待することが出来る。鐵鑛石はルクセンブルグから、又フランス産鑛石の輸入も可能であらう。この場合交通路の恢復が前提条件になることは云ふまでもない。かくしてこの兩地方では月産十萬噸の鋼塊が生産されてゐる。だがこの十萬噸の生産額はこの地域の生産設備からみれば、決して過大なものではない。周知のやうにルクセンブルグのアルベット一工場のみで、此の設備の利用されるときには、これの二倍が生産されたのである。しかし専門家の見解では差當り右の數量が生産し得る最大限であり、各種の困難が除去されたときに初めて従前のやうな大量生産が恢復されるであらう。この外製鋼及び壓延工場に於ても逃避労働者の大部分の復歸、及び鉄鑛生産の増加に伴ひ、運轉が再開された。同時にこの際ベルギー及びルクセンブルグ鐵鑛業のドイツへの依存が高まるに従ひ、生産諸条件をドイツのそれに合致せしめることが必要となる。それ故に例へば貨銀は舊率の四五%まで引上げられることになるが、これにより生産費が急速に高まり、關係諸企業はこの事情に對應する爲の金融上その他の考慮を要することになるだらう(Der deutsche Volkswirt, 25 Okt. 1940)。

ベルギー鐵鑛業の再出發と共に、その生産及び配給の計畫的統制も亦、企てられた。從來も獨り鐵鑛業部門のみに止らず、ベルギー工業部門にあつては、自發的な統制團體は存在した。例へば、鋼シンデケート、鑄鐵シンデケート、非鐵金屬、鑄物組合、ベルギー鋼及び眞鍮シンデケート、鉛加工組合、亞鉛壓延組合、ベルギー・アルミニウム・シンデケート、工作機械シンデケート、ベルギー・エナメル・シンデケート、硫安シンデ

ケート、ベルギー・ベンゾール局、等々は之に屬する。これらは稍、ドイツの經濟團體に似た職能組織たると共に、他方ではカルテルの性質を持つて居り、無視し得ぬものであるが、結局一切の鐵鑛業は新にベルギー鐵鑛業シンデケート Syndicat Belge des Fondeurs の下に統合された。かくして今やベルギー重工業の歴史に於て新しい頁が始まつたのである(Der deutsche Volkswirt, 30 Aug. 1940)。

ところで轉換のより困難なのは纖維工業である。既述のやうにベルギー纖維工業原料は遠隔の海外諸國から供給されて居り、差當り輸入し得るストックのない限り、原料、とりわけ棉花の不足に悩まねばならぬ。クルトレの報告によれば、原料不足の爲に纖維工業労働者の三分の一は失業せねばならぬと云ふ(Der deutsche Volkswirt, 16 Aug. 1940)。

この故に今やベルギーの全纖維工業は新しい基礎の上に置かれ、生産制限及び原料の割當が實施されることになつた。即ち、あらゆる一切の纖維工場は六つの地域に分たれ、新設の専門團體に加入せしめられ、その上に最高機關としての中央委員會があり、生産制限と原料割當との任務が課せられるに至つた。この中央委員會は綿業に對しては、その生産をば一九三八年平均生産數量の三〇%にまで引下げると共に、綿半製品及び綿織物にも同率の操短を行はしめた。亞麻工業にあつては、生産割當は生産能力の七〇%とされてゐるが、この部門のみはやがて全能力の運轉が期待されてゐる。更にベルギー麻織物工業組合を通じて、獨佛白委員會が組織され、この三國の業者間に於ける亞麻原料の分配が行はれることになつた。毛織物業にあつては、今日までのところ未だ生産割當は明らかにされてゐない。しかし原料不足は不可避であり、生産制限のみでなく、廣汎な

生産の轉換が計畫されてゐる。將來に於ては最早從來の如き各種の纖維生産は困難であり、これによる纖維諸工業の遊休設備は、やがて人絹及び麻紡織工場に轉換せしめられるだらうと豫想されてゐる。

かやうな原料獲得の困難に對して、販路の轉換についてはそれ程悲觀的ではない。といふのは、絲類や織物類は從來も大部分が歐洲向だつたからである。Wirtschaftsdienst, 18 Nov. 1940。

海外依存度の極めて高いベルギー農業も亦、新事態に適合すべく、その全面的な轉換が要求される。この要求は既に開戦以前から起り、ベルギー農業經營の集約化及び飼料耕作に代へるに穀物耕作を以てせんとする傾向が顯著に現れて來た。

この故にベルギー政府は一八三九年九月二十三日に法律を公布し、一定の地帯で小麦、ライ麥、甜菜、馬鈴薯の耕地擴張を命じた。しかしこの法律は好ましい結果を伴ひ得なかつた。といふのは、冬季の異常な嚴寒と、農業組合の反對並にベルギー軍の無反省な勞働力及び馬匹の動員によつて増収が妨げられたのである。政府が集めてゐたストックも五月の戰闘中に無くなつてしまつた。收穫は平均以下になつてしまつた。

これ故にベルギー當局は極めて嚴重な割當計畫を立てたが、之は次の四點に集中されてゐる。

1. パン用穀物消費の約五〇%の減少及びライ麥の一般的混用並に大量ストックを持つ北フランスからの輸入。
2. 肉類消費の減少並にフェット、ミルク、卵の消費の制限。家畜所有高は二〇%の減少が豫定されてゐる。若し飼料の入手が充分でない時には三〇乃至四〇% (家禽については六〇%) まで制限せねばならぬ。

3. 馬鈴薯の人間食料としての使用と飼料としての使用との上に調節をはかる。

一九四〇—四一年の暫定的食糧供給計畫 (一、〇〇〇萬)

品名	消費		生産		不足
	通常年度	一九四〇—四一年	通常年度	一九四〇—四一年	
小麥	一、三〇〇	四六三	四五〇	三〇〇	二一四
ライ麥及ドイツ小麥	一	一九八	四一〇	三三九	二一四
パン用穀物	一、三〇〇	六六一	八六〇	六三九	一〇〇
馬鈴薯	一、六八〇	一、五二九	三、二六〇	二、一六〇	一〇〇
コーヒ用きくぢさ	二五・九	二五・九	四七	四七	〇
砂糖	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	〇
肉類	三三六	二六〇	三一〇	二四〇	二〇
脂肪及フェット	二〇	二〇	一五	一〇	〇
マルガリン	六二	六二	六二	三〇	〇
バター	六五	六五	六五	四〇	〇
食料フェット合計	一四七	九八	一四二	八〇	一八
チーズ	二六	二六	四・五	四・五	〇
卵 (百萬個)	三五〇	七〇〇	一、五〇〇	七〇〇	〇
ミルク (一、〇〇〇リットル)	六五〇	六五〇	六五〇	四二〇	二三〇

(二) 飼料

料(一、〇〇〇噸) 飼料生産の不足なる場合

消費	生産		不足
	通常年度 一九四〇—四一年	通常年度 一九四〇—四一年	
ラ	五九〇	九〇	第一表参照
イ	六五〇	五一一	第一表参照
燕	四六五	一五五	一〇〇
大	一、六〇〇	四七六	第二表参照
馬	四一〇	二六九	第一表参照
首	七四〇	四五〇	一五〇
玉	一、〇四〇	二六〇	四五〇
油料植物及油粕			二六〇

右の割當計畫は確定的のものではなくて、ドイツ當局との協力によつて最終的協定が爲される (Frankfurter Zeitung, 13 Sep. 1940)。

かくの如くベルギー國民經濟はベルギー政府の懸命の努力とベルギー及び北佛ドイツ駐屯軍との協力の下に、全面的な編成替を行ひ、その再出發が企圖されてゐる。にも拘らず、從來イギリス及びフランスの強い影響力の下に、比較的自由に營利主義の下に營まれてゐたこの國の經濟は、新事態に急速に即應すべきあらゆる社會的經濟的前提が缺けてゐた。これによる最も好ましからざる結果の一つは、ベルギー參戰と共に始まり、爾後益々鋭く現れて來た物價騰貴である。即ち、卸賣物價指數は一九三九年八月には五九四であつたが、十二月迄に早くも七九三に騰貴し、一九四〇年四月には八四〇にまで昂騰した。

五月三十日から實施された價格停止令も差當り多くの注意を拂はれず、多くの場合關係當局は嚴罰を以て之に向はねばならなかつた。例へばミルク法に對する違反により一千十九名が一時に處刑された事實がある。それ故に經濟秩序及び價格監視に關する有效な機關の設置が必要であり、結局これは一九四〇年十月に至つて實現された。

ベルギー經濟新秩序建設に對するより大なる礎石は、ドイツの商品管理局に相當する、謂はゆる商品局の設置である。一九四〇年九月四日の命令によれば、經濟及び中間階級省次官はその指定にかゝる一定商品の生産、分配及び消費統制の任務を負ふことになつてゐる。第一次施行規則によつて、差當り新設された商品局は次の如くである。即ち、石炭局、鐵鋼局、金屬局、化學製品局、工業用油脂局、纖維局、皮革局、煙草局、故品及び廢物局。

この組織の結成後、經濟及び中間階級大臣V・レーマンズは商品局長連に對して、時局を認識し、率先してヨーロッパ新秩序に積極的に協力すべきことを要求した。そして彼は最も迅速にベルギー經濟の編成替を爲し、新しい經濟秩序が遲滞なく齎されるべきことを強調して云ふ、「この經濟秩序に於て何よりも知らるべきは、それが何人の利害の爲に齎されるかと云ふことである。資本主義的努力及び利潤獲得者の爲でもなければ、あらゆる種のカルテルや金融組織の爲でもなくて、國民の福祉とヨーロッパ諸國民の家族關係の恢復の爲である。飽くまでも合理的な經濟秩序、協同體への懸命な奉仕、これこそが我々の標語なのである」(Der deutsche Volks-

Wirt, 1 Nov. 1940)。

戦時中の混乱により失業者は續出したが、爾後捕虜や避難民の歸還により失業は益々激化した上に、前述の如き急激な經濟轉換は愈々この勢に拍車をかける結果になつた。例へば商業部門關係者の如きはこのことから甚だ憂慮すべき状態の下に置かれてゐる。小賣商は生活必需品切符制の實施によつて、辛じて事業繼續の保證を與へられてはゐるが、勿論自己の賣上げの如きものは得られないし、卸賣商、殊に海外取引關係者は全く業務の對象を失はねばならなかつた。

失業救済の爲の公共事業計畫も立てられた。例へばアントワープのドイツ駐屯軍當局の公共事業計畫にあつては、病院の擴張、屠殺場の建設、防空壕の新建、港灣の修理等が豫定されたし、又各地方の緊急計畫によつて三萬人以上を雇傭することが出来た。リュッチヒに於ても破壊された運河、家屋、道路の復舊工事並に病院の新設が失業救済の對象として取り上げられた。だが、國家及び地方諸團體はその財政難の爲に、餘り多くの資金を支出することが出来ず、したがつて公共事業に多くを期待することは出来ぬ。國家も公共諸團體も國營並に半國營事業も、經常收入不足及び特別収入増加に對する限界の故に、労働雇傭をミニマムに止めねばならない。この際注目すべきは、最近労働奉仕に倣ひ、「ヴァラム労働奉仕 Vlaamsche Arbeidsdienst」が實施されたことである。此處から出發してベルギー國民の労働と生計との新たな形態にまで發展するものと期待される。この際見落してはならぬことは、大ざつばな推定によれば、約百萬人の逃避ベルギー人がフランスで生計を營んでゐることである (Der deutsche Volkswirt, Aug. 1940)。

第六章 エルザス・ロートリンゲンの經濟及び經濟工作

エルザス及びロートリンゲンの經濟的地位は、フランス統治下の二十年間に著しく低下した。總面積約一萬四千五百平方軒、人口百九十萬人を含むこの地域は、農業についても、工業についても著しくその自然的諸條件に恵まれてゐた。

先づ農業について云ふならば、その地味は豊かに、氣候は良好で夙に耕作や牧畜に好適であり、したがつて一八五〇年迄は優れた農業地帯であつた。だがこの頃から工業が急速に勃興し、大きい經濟構造の變化を見なければならなかつた。一八八二年にはなほ人口の四八%が農業に従事してゐたが、一九一三年には既に三〇%に低下してゐた。

一九三六年には百四十五萬二千ヘクタールの平原中、約八十八萬七千ヘクタール、即ち六一%が農業用地であり、そのうち耕地は五十八萬五千ヘクタール、草原が二十二萬ヘクタール、牧場が五萬七千ヘクタール、葡萄園が二萬一千ヘクタールとなつてゐる。耕地の大部分は穀物に當てられて居り、殊に小麦が最も多く、ライ麦、大麥、燕麥は少い。馬鈴薯は可なり栽培されて居り、收穫量は最も多く、

エルザス・ロートリンゲン主要農作物 (一九三七年 産)			
小 麥	大 麥	燕 麥	馬 鈴 薯
一六七、三五一	四〇、五四三	六五、九五七	一五三、八三五
			一、一一六、四三九

第六章 エルザス・ロートリンゲンの經濟及び經濟工作

(Wirtschaftsdienst, 26 Juli 1940)

ところで集約度はドイツの大抵の地方よりも低い。例へば、エルザス・ロートリンゲンに於ける主要農作物のヘクタール當り平均收穫は一九三七年に於て、小麦一四・六ドッベルツェントナー、ライ麦一四・二ドッベルツェントナー、大麦一五・七ドッベルツェントナー、燕麥一六・四ドッベルツェントナー、馬鈴薯一三二・九ドッベルツェントナーに對して、ドイツでは小麦二二・六ドッベルツェントナー、ライ麦一六・六ドッベルツェントナー、大麦二一・二ドッベルツェントナー、燕麥二〇・八ドッベルツェントナー、馬鈴薯一九一・五ドッベルツェントナーとなつてゐる。

この地域の野菜栽培は極めて重要であり、これはとりわけ都市の近郊に發達した。その他煙草、ホップの耕作も行はれてゐるが、葡萄の栽培はより重要である。だが終りに述べるやうに、これらの農業はフランスの競争によつて漸次衰へざるを得なかつたのである。

牧畜にあつては、牛が最も多く、一九三七年には約四十六萬五千頭が飼育され、次いで豚が約四十萬四千頭、馬は九萬三千頭、羊七萬頭、山羊五萬七千頭となつてゐた。

だが、右に述べたやうな農業よりも、この地域に取つての經濟的重要性はその豊かな礦物資源であり、一九三七年に於ける主要礦物の生産は次の如くであつた。

エルザス・ロートリンゲン重要礦物生産高(一九三七年)			
鐵 鐵 石	石 炭	カ ー リ	石 油
一五、六二八、〇〇〇	六、一四三、〇〇〇	四八九、七八一	七〇、二五〇

(Wirtschaftsdienst, 26 Juli 1940)

ロートリンゲンの鐵鑛床はロートリンゲン・ルクセンブルグのミネッテ鑛區の一部を形成するものであり、稼行可能埋藏量は前大戰以前には約十八億噸と推定されてゐた。

石炭はロートリンゲンに賦存し、これはザール炭層の延長である。前大戰以前の推定では約四十億噸とみられてゐた。

上部エルザスの加里は極めて豊富である。その發見は全く偶然であり、一九〇三年ウィッテルシュタイン附近に於ける石油ボーリングの際に加里鑛床にぶつかつたのである。而してその埋藏量は二億五千萬乃至五億噸と推定されて居り、一九一〇年からその稼行が開始された。ドイツからの割讓後フランスは國家管理の下に置き、Mines Domaniales de Potasse d'Alsace をして稼行せしめてゐる。

ペシュブロン油田は地表面積約四萬四千ヘクタールにしか過ぎぬ。前に獨領に歸してゐた時代には合同ペシュブロン石油會社によつて經營されてゐたが、フランス治下では Pechelbronner Société anonyme d'exploitation minière が四千五百萬フランの資本金を以て經營してゐた。

加ふるに、エルザス・ロートリンゲンは歐洲大陸の交通上の要衝に當るといふ利益を持つてゐた。ドイツとイタリア、北フランス、ルクセンブルグ、ベルギー、ドナウ諸國を結ぶ鐵道の交叉點に當つてゐると共に、千噸以下の船舶はシュトラースブルグまでライン河を通航することが出來た。この國內航行のこの地域の經濟に對して持つ重要性は極めて大であり、航行距離は約六百七十軒に達し、その商品運搬の割合は鐵道の五五%に

對して四五%を占めた。ライン河の外に無數の運河があり、とりわけライン・ローヌ運河及びライン・マルヌ運河は極めて重要な意義を持つ。前者は延長百三十二軒、シュトラースブルグに於てライン河に、リヨンに於てローヌ河に連絡する。後者は延長百七軒、等しくシュトラースブルグに於てライン河に注ぐ。

かやうな恵まれた物的基礎の上に、優れたドイツ人の企業精神によつてこの地域の工業は發達した。例へば、ドイツ治下にあつた一八七九年から一九一三年までの間に、ロートリンゲンのネミツテ鐵の生産は八十三萬噸から二百萬噸へと實に二十五倍に増加したし、之に伴つて北部ロートリンゲンには熔鐵爐や製鋼工場が建設された。更にロートリンゲンにはソーダ工業やガラス工業が生れたし、ペシェブロンでは石油の採取及び精油事業が發達した。エルザスでは一九一〇年から加里の採掘が開始されると共に、それを基礎にする化學工業が起された。販路の狹隘化の爲に休止してゐたエルザスの纖維工業さへも再建されたのである。

とりわけこの地域に何よりも發達したのは鐵鋼業であつた。一八九五年までは鉄鐵の生産も僅少であつたが、漸次發達して鋼及び壓延鋼の大規模の生産が開始され、その豊かな鐵礦原料は與へられて、ドイツでも最も近代的な製鐵工場が建設されたのである。かくしてロートリンゲンの鐵鋼業は前大戰勃發の直前までは極めて花らしい發展期を経験した。即ち、一八九五年から一九一三年迄に鉄鐵生産は八十二萬九千噸から三百八十六萬四千噸へと四倍になり、鋼生産の如きは十九萬一千噸から二百二十八萬噸へと十二倍にもなつたのである。ベルサイユ條約によつてフランスはこの高度に發達した鐵鋼業をば勞せずしてその手に收めたのであるが、フランスはその生産力を充分に伸し得ず、戦後の最好況期の一九二八年でさへも一九一三年の三百九十萬噸に對し

て三百八十萬噸であつた。

之に次ぐものは纖維工業である。この工業は主として上部エルザスに發達し、ミュールハウゼンがその中心地を形成してゐる。エルザスの纖維工業は夙に中世紀に於て大きい役割を持ち、シュトラースブルグの繁榮した織匠組合の名は經濟史の上に止められてゐる。一八七一年にエルザスが獨領に歸した時も、全ドイツの鍾數が三百萬錠、織機が五萬臺にしか過ぎなかつたのに對して、エルザスでは鍾數百五十萬錠、織機三萬臺にのぼつた。

豊富な農産物に並んで食糧品及び嗜好品工業も發達した。例へばビール醸造業、罐詰業、製粉業、煙草製造業、製糖業等の如きは、この地域の農業の基礎の上に建てられたものである (Wirtschaftsdienst, 26 Juli 1940)。しかるに一九一九年以降フランス治下に於て、國防的見地からこの地方の工業は荒廢してしまつた。即ち、フランスはこの國境地帯の諸工業をフランスの中央部に移す政策を取つたのである。例へば一九一九年に二十五あつた皮革工場は一九三二年には九つに減少したし、機械工業は著しく衰頹した。ボン・フロンリーにあつた二つの熔鐵爐は破壊されたし、フルアールの二つの熔鐵爐は火を消した。ツールとダンとの間に多數の小規模工場があつたが、これらは前大戰に破壊された儘、遂に再建されず、この地方にゐた労働者はバリ、南アフリカ、イギリス等に移住せねばならなかつた。高度に工業化されてゐたナンシーでさへも、工業都市としての將來は悲觀的であつた。既に一九二二年にこの地方にあつた鉄鐵工場中九つは閉鎖してゐた。ロートリンゲンには合計六十五基の熔鐵爐があつたが、操業したものは三十七基にしか過ぎない。その結果この地帯の全工業

が衰微した。このことはメッツ、フォルバツハ、ザールゲミュンド、シュトラースブルグ等の都市の無氣力な状態をみれば明らかである。とりわけシュトラースブルグは甚だしく、この工業都市が一九一八年以降はフランスの一地方都市になつてしまつたのである。ミュールハウゼンでは一九三〇年から一九三六年迄に四つの大織維工場が閉鎖の運命に陥り、右の期間にこの都市のみで織維労働者は一萬二千人から六千七百人に減少した。上部エルザス全體では、一九三〇年にはなほ五萬六千五百人の織維労働者がゐたが、その六年後には三萬五千人に激減してしまつた。

かやうなこの地域の多數の諸工業の没落は、フランスが計画的に舊ドイツ式の經營方法を廢止した爲に、その過程を早めたのであつた。一九三七年五月二十日のエルザス・ロートリンゲン新聞はこの工場の移轉によるエルザス及びロートリンゲンの運命について「華やかな工業地帯が、死の村落に化した」と述べてゐる。しかも一九三八年九月の歐洲危機に際してエルザス・ロートリンゲンでは避難が始まり、シュトラースブルグのみで十九萬の市民中約十一萬人が逃避した。かくしてなほ残存してゐた諸工場は閉鎖して、フランスの中央部に移つたのである (Zeitschrift für Geopolitik, XVII Jg. 1940)。

ところでこの地域の衰微は獨り前記のやうに工業に於てのみでなく、農業の上にも現れてゐる。フランス領に回復されると共に、エルザス及びロートリンゲンの果實や野菜の栽培は急速に衰へた。例へば、エルザスの野菜は、北アフリカや南フランスのそれに比し高かつたから、エルザス自身の市場でさへ、南フランス、北アフリカの野菜によつて驅逐されたのである。之に對してフランス政府は何らの對策も講じなかつたので、野菜

の耕地は激減した。果實も同様な運命にあり、果樹の如きは一九一三年の七百萬本から一九三九年には約五百萬本に減少し、果樹園の數は一九一〇年の二萬一千七百から一九三七年には一萬六百になつた。またフランス葡萄酒の競争によつて、エルザス及びロートリンゲンの葡萄酒園は一九一二年から三七年までに二萬八千ヘクタールから一萬九千ヘクタールに減少した。加ふるにフォゲーゼン地方のバターやチーズ生産はフランスの競争に壓倒されねばならなかつた。

しかもフランス政府は何ら調整を行はなかつた。一九一三年には獨領下のロートリンゲンの農民はドッペルツェントナーの小麥賣上代金で一千キログラムの石炭を購入することが出来たが、フランス治下の一九三七年には同量の賣上代金を以て五百キログラムしか買へなかつた。バターの價格は久しく五フランであつたが、之はリットル當り三ペンニヒのミルクの價格に當る。かゝる事實は、ロートリンゲンで常に經驗する多くの事例の一つである。

かく収入が少く、したがつて經營費に多くを支出し得ないために、肥料代の如きも出来るだけ節約される。その結果として地味が良好であるにも拘らず、重要作物の收穫がドイツのそれより劣つてゐることは次掲の隣接農地ザールプアルツのそれとの比較から明らかである。

ヘクタール當り收穫(ドッペルツェントナー)			
	冬季小麥	冬季燕麥	大麥
ロートリンゲン	一三・五	一四・九	一六・六
ザールプアルツ	二二・八	二〇・〇	二二・一
亞麻			
	馬鈴薯		
ロートリンゲン	一五・三	一一三・五	
ザールプアルツ	二〇・七	一八三・三	

(Wirtschaftsdiens, 22 Nov. 1940, Heft 47)

フランスの誤つた農業政策と生産費の乏しさとの故にロートリンゲンの農業は漸次衰へざるを得なかつた。かやうな農業の一般的な衰微に加へて、マヂノ線の構築はこの地域の農業を徹底的に荒廢せしめた。六十五の村落の家屋、田畑全部が破壊され、四萬人の住民がこの地域を退去せねばならなかつたのである。かゝる事情の下に於て一九三八年の歐洲政治的危機に伴ふ動員は、この地方に對して破局的な影響を與へた。マヂノ線の内外にある耕地は耕作のまゝに放置されたが、このことはドイツの西部要塞地帯にあつては、ドイツ前線農民との入替によつて耕作され、刈取られてゐる事實と著しい對照を爲すものである。

戦時中の收穫貯蔵の喪失は、ロートリンゲン側では、穀物十萬ドッペルツェントナー、馬鈴薯百萬ドッペルツェントナー、蕪菁二百萬ドッペルツェントナー、乾草及び藁は二百萬ドッペルツェントナーと推定される。戦闘が終つた後には、家畜の保有數は八〇%も失はれてゐた。

この間の事情につき、ロートリンゲン國民新聞は十月六日に次のやうに述べてゐる。

「フランスの如何なる地方も、この地方ほど動員によつて苦惱にさらされたところはない。この地方ほど激しく、人員、家畜及び物資を徵發されたところはなかつた。僅々數時間のうちに、我々の村落は荒廢してしまひ、田畑は放置され、我々の故郷は一大兵站地と化した。」

かゝる事情の下にエルザス・ロートリンゲンはドイツ軍の占領するところとなつたのである。エルザス・ロートリンゲン經濟の再建には先づ、戰爭の混亂からの恢復が要求された。この爲には何よりも

逃避した住民の歸還を必要とするが、未だ充分ではない。例へばシュトラースブルグでは、戦前の人口は約二十萬人であつたが、七月末に至つてもなほ二萬位しか歸還してゐないと報告されてゐる(New York Times, 31 Juli 1940)。

破壊された橋梁、商店その他の建物の復舊は急を要するが、完全な復舊はなほ、可なり長期を要するやうに思はれる。多くの商店の飾窓は閉ざされ、生活必需品諸企業的大部分は運轉を再開してゐない。この故に、ドイツ當局は之が救済に努力して居り、建築材料、家畜、馬は勿論、資金をさへ供給してゐる。避難民の歸還に より充分の勞働力が確保せられるに至るまでは、近接ドイツ人の使用が必要とされ、又トッド組織(Todd Organisation)、技術的緊急救助團(國防團と國防經濟組織との結合)、及び捕虜が經濟復興の爲に配置された。ある報告によれば、現に二百萬人のフランス軍捕虜が、ドイツ及びフランス農園や工場で、各能力に應じて勞働せしめられてゐるが、ロートリンゲン方面に於ける雇傭數も少くはないやうに思はれる。而してこれらの捕虜もドイツ勞働者と等しい賃銀を支給され、ドイツ兵士と等しい食糧を供給されてゐる(Times, 22 Nov. 1940)。

これらの各種の勞働者の雇傭は必然的に給與の調整を要求する。それ故に既にこの理由からドイツとの給與の調整を計る爲に、一九三九年九月一日の水準に對して、一九四〇年八月十一日に一切の賃銀、俸給、等を八〇%方引上げること、し、四十時間以上の勞働に對しては四〇%の割増を與へた。同時に、物價が低過ぎた爲にドイツからの物資の供給が困難であり、したがつて各種商品の價格は多少とも引上げられたが、ドイツの價格水準よりは低いと云はれてゐる。フランス軍によつて徵發された貯蔵の一部も恢復されたし、商工會議所は

ドイツ當局の指導下に再開され、石炭の供給はドイツ本國に於けると同一の扱ひを受けてゐる。ドイツとの物資の流通が頻繁になるにしたがひ、貨幣の換算相場を決定し、一ライヒスマルクⅡ二〇フランとした。

都市の住民を飢餓から防ぐ爲に、著しく高い價格で變動してゐた肉類、バターを供給し、小麦粉六萬ドッペルツェントナー、砂糖一萬ドッペルツェントナー、麵類三千ドッペルツェントナー、其の他の食糧品、麥芽製コーヒ等、三千ドッペルツェントナーをドイツから提供した。更に食糧品その他の生活必需品の分配を公正ならしめる爲に、一九四〇年六月に早くも最高價格を採用し、加工業、販賣業の新設は許可制とした。

だが、國民扶養の根本的な対策は、國內生産力を伸ばすことであるが、この點に於て歸農者は氣力を失つて居り、彼等のイニシヤチーヴに任すことが不可能であつた爲、ドイツ當局の指導が不可避であつた。

それ故にドイツ當局は、先づメッツ及びシュトラースブルグの市長をして扶養農業局を設けしめて、農業生産を可及的に速やかに恢復する任務を負はしめた。しかしこれには殆んどあらゆる補助手段が缺けてゐた。馬はフランス軍によつて徴發されてゐたから、ドイツ軍が持つてゐた鹵獲馬によつて徐々に置き代へられた。種子及び人造肥料も不足だし、機械や器具もドイツから供給せねばならなかつた。

七月一日に至つてバーデン地區農民指導者がワイゼンブルグの農業指導を命ぜられた外、他の地區の農民指導者及びライヒ食糧團體の所屬者は、エルザスⅡロートリンゲンに於て各種の緊急対策を講じ九月初めには荒蕪地の開墾にまで着手した。その僅か四ヶ月後には早くも誇るべき業績があげられた。既に第一回目のドイツ

からの農業經營手段供給に、馬二千頭、牛四千二百頭、豚二千頭、牝豚二百頭、雞二萬羽、及び驢並に熊手二萬、大鎌一萬、鋤二千、耙五百、耕作車一千、馬具一千五百、等をこの地區のみで交付された。又荒蕪地の開墾によつてエルザスだけで今日までに既に三萬ヘクタールの土地が最良の耕作地に變り、この土地で種子用穀物一萬六千ドッペルツェントナーを耕作せしめ、エルザス全土ではこの一九四〇年の秋に十五萬ドッペルツェントナーのトーマス・ミール、二萬四千ドッペルツェントナーの加里及び八千ドッペルツェントナーの窒素肥料が消費されたのである。

他方に於てパン用穀物の供給を確保する爲に、農民に對して收穫の引渡義務を課し、之を飼料に充てることを禁止した。ミルク業にあつては引渡組合が設けられ、供給區域の決定をみたし、バターにあつてはバターやクリームの自由市場での取引を禁止した。馬鈴薯については比較的廣汎な地域に互り、馬鈴薯調整所が設けられた (Wirtschaftsdienst, 22 Nov. 1940, Der deutsche Volkswirt, 30 Aug. u. 11 Okt. 1940)。

とりわけドイツ當局がその復興に全力をあげてゐるのは、「完全な破壊そのものだ」と云はれてゐるロートリンゲンである。ドイツはこの地域の完全なナチス化を企て、居り、これが再建を如何に重視してゐるかは、ザールランド及びオーストリアのドイツ併合後その行政に當つたエクスパートたるヨゼフ・ハー・プフェルを行政長官に任命したことから推測される。かくて今やプフェルはドイツ占領軍の手からこの地域に「新秩序」を齎すべき任務を引繼いだのである。ザールプアルツから多數の行政家を招くと共に、ドイツの各地から多くの技術専門家を招致し、爾後ロートリンゲン經濟の再建事業は、彼の下に「指導者原則」によつて遂行される

ことになった。ドイツからの材料の供給によつて完全に破壊された鐵道は再建され、諸工場は急スピードを以て修復されつゝあり、一部熔鑛爐は操業を開始し、水浸しにされた鑛山は排水工事を施されて、再び生産を開始した。

特に注目されてゐるのは農業であり、プウルケルの代表者の言によれば、ロートリンゲンは今後「人口密集せる工業地帯ザールランドの農業背後地たる嘗ての役割を演ず」べきことゝされてゐるのである (New York Times, 6 Aug. 1940)。

第七章 フランス經濟及び經濟工作

コンピエーニュの休戦はフランスを截然と二つの地域に分ち、ベタン政府は兎も角もヴィシーに於てこの國の名目的な政治的管理權を保持してゐる。しかしドイツ軍占領下にある約五分の三の地域に於けるフランス政府の權威は南部の非占領地域のそれよりも著しく制限されたものである。

ところで我々の對象となるのは後者であるが、便宜上非占領地域をもこめてフランスが如何に立ち直らんとしつゝあるかの問題をも併せて述べよう。

第二回コンピエーニュ會議の後に、フランスが再生の意志を示したとき、何よりも解決すべき問題は物資の不足であつた。元來フランスは一方には近代的な工業を持つてゐるが、他方に於て地味、氣候等の自然諸條件は農業に好適であり、全體の比重から云へばフランスは依然として農業國である。一九三八年に於て主要食糧だけでも次掲のやうに輸入超過になつてゐるが、小麦や砂糖の如きは平年作に於ても、外國からの價格上の壓迫を阻止すれば自給が可能である。

フランス主要食糧品の輸出入高 (一、〇〇〇萬)

	輸入	輸出
バター	〇・六	一・九
卵	一・三	一・三

第七章 フランス經濟及び經濟工作

小 麥	四七二・〇	三二・二
小 麥 粉	四一・三	
玉 蜀 黍	七〇八・〇	
砂 糖	三一七・〇	一五八・八

(League of Nations, International Trade in Certain Raw Materials and Foodstuffs, 1938)

とりわけ開戦の前年たる一九三八年は極めて豊作であつた。殊に小麦の收穫は極めて良好であつて約四百六十萬噸に達し、その他の作物及び飼料の收穫も好ましいものであつた。これはフランスの平生消費からみれば、明らかに過剰生産を意味するものであつた (International Institute of Agriculture, The World Agricultural Situation in 1938-39, p. 204)。にも拘らず、主要農産物には高い價格が維持せられ、一九三九年七月のそれは一九三八年八月と同一水準に置かれた。このこと、前記の如き輸入超過とは、明らかに戦争の危機に備へての貯蔵を推定せしめるものである。

他方に於て、石炭、石油、棉花、羊毛等の諸原料品はその多くを海外に求めねばならなかつた。それ故に海外からの輸送が断ち切られたとき、これらの諸原料の多くはストック以外に求める途を失つた。これのみならず、豊かではないとしても國民の扶養可能な筈の食糧品さへ不足するに至つたのである。

戦時中フランスは既述のやうな戦前からの貯蔵政策によつて、新規收穫まで一日一人當り一・二五ポンドのパン割當が保證されてゐた。しかるに戦争はこの期待を全く覆してしまつた。占領地域中北部及び北東部フランスの食糧供給の基礎はその根柢から揺り動かされた。この地方の穀物や馬鈴薯生産の全部又は一部が戦争の

直接的被害によつて駄目になつたことは、非占領地域をもこめて、フランス全土の食糧供給を危険ならしめるに至つたことは當然である。報告によれば、砂糖の如きは全国的に著しく缺乏してゐるが、之は甜菜類の八〇%が北部の戦闘地域から供給されてゐたからである (Times, 16 Aug. 1940)。ドイツ當局の發表によれば、この戦闘地域に於ける收穫の不良は戦闘による直接的被害のみでなく、基本的な原因は開戦直後にフランス政府が北フランスの住民を引揚げしめたことにある。その總數は八百萬乃至一千萬人に達するが、そのうち農民は三百萬乃至四百萬人にのぼつた。その結果として五月初めに植付けられた穀物は放置されたのである。かくしてこの北部地方の甜菜の收穫は平常年度の二〇乃至二五%にしか過ぎず、占領地域の穀物は辛じて平常の七〇%を維持することが出来たのである (New York Times, 11 Sep. 1940)。

しかも非占領地域の農業生産力も亦、平時と同様ではあり得なかつたのである。このことは農民が動員の結果激減した爲に、平時の生産力は餘程削減されねばならなかつたといふ事實から明らかである。

この場合とだけだけの收穫が問題になるかをみる爲に、直接に戦争区域にはいつた地方の、通常年度の生産平均を示せば次の如くである。

通常年度平均收穫 (一、〇〇〇トッヘルツェントナー)							
小麥耕作面積 (ヘクタール)	小 麥	ライ麥	大 麥	燕 麥	玉 蜀 黍	馬 鈴 薯	
バ・ド・カレ	一三七・九	二、八九〇	九 九	一三五	二、二七七	—	三、一七〇
ノール	一〇三・〇	二、八〇九	七 〇	一四三	一、二二四	—	七、四四〇
アルデンス	四五・六	八八〇	五 二	六 三	五九八	—	一、〇四四

ム	54.6	68.0	31	61	71.4	61.4
モ	61.2	70.0	20.0	7.5	1.004	3.867
パ	35.5	50.0	15.7	40.3	27.4	5.859
オ	20.3	21.4	1.0	20.7	1.63	2.135
ヴ	22.3	27.5	8.8	1.5	3.68	1.856
ム	44.1	60.7	5.0	3.9	5.91	1.044
オ	48.4	59.2	1.1	3.3	5.66	6.68
マ	100.2	172.3	26.6	4.5	1.253	9.77
オ	74.6	115.0	2.9	2.83	7.98	6.27
セ	110.9	242.7	2.6	2.18	1.531	1.009
セ	78.3	171.4	4.9	2.45	9.17	2.491
エ	125.2	272.5	8.3	1.55	1.407	2.499
オ	105.9	219.9	3.9	1.49	1.489	1.662
ソ	126.2	255.4	8.5	1.17	1.408	2.340
約	130.0	246.0	14.5	2.75	1.660	3.930
全	215	366	20	28	36	27

全フランス生産に對する割合(%) (Wirtschaftsdienst, 26 Juli 1940)

以上が戦争による直接的被害を受けたと考へられる地方の、通常年度の平均農産物である。之に對して占領地域中、戦鬪の直接的被害がなく、收穫可能な生産を示せば次の如くである。しかもこの地方は一九三八年六月十七日の貯藏令によつて大量の貯藏が爲された地域である。

フランス占領地域中被害なき地域の農業生産
通常年度平均收穫 (一、〇〇〇ドッペルツェントナー)

小麥耕地面積 (ヘクタール)	小麥	ライ麥	大麥	燕麥	玉蜀黍	馬鈴薯
カルヴァドス	29.7	47.0	1.9	22.9	44.4	37.1
シヤラント(一部)	81.1	80.0	2.4	13.7	40.9	93
シヤラント(一部)	72.7	94.6	8	33.1	59.0	92.2
シヤラント(一部)	79.7	85.0	4.6	14.5	86.5	98.6
シヤラント(一部)	82.0	87.5	3.6	14.0	88.4	91.9
コート・ドール	110.0	132.0	7.5	33.2	100.2	204.1
コート・デュ・ノール	170.0	188	5	3.9	24.5	54.2
ドゥー	78.1	136.2	3.7	1.1	10.49	54.5
ウー	118.0	235.9	2.9	4.73	17.10	206.9
ウー	88.0	127.6	1.0	3.82	39.5	385.0
フィニステール	120.0	129.5	1.3	2.30	6.03	366.9
イル・ド・ヴイレーヌ	83.2	107.7	2.2	7.7	7.05	106.3
アンドル(一部)	69.2	108.6	6.8	1.62	1.003	102.7
ロワール(一部)	104.0	125.0	3.1	8.4	27.6	43.96
ロワール(一部)	87.2	162.1	1.34	4.53	17.4	21.8
ロワール(一部)	102.7	120.0	4.1	20.9	54.5	25.37
マニエ	80.7	122.0	1.0	19.3	17.2	66.5
マニエ	112.0	122.0	1.0	49.7	26.6	153.1

モルビアン	五九・三	五八六	三八一	三九	四三八	一	四、八九七
コエーヴル	五五・六	五六〇	三九	九六	五七一	二	一、二九八
オールヌ	三一・四	三九三	二八	一四三	五〇七	一	六三一
サルトル	五七・三	八五五	四七	一八八	三六四	一	二、一五八
セーヌ・アン・フェリユール	八一・四	一、五三一	三三	四二	一、二四五	一	四九二
デュイー・セーヴル	九四・六	一、一〇九	三九	一四三	四四六	二五	一、六七一
ヴァンデ	一一三・〇	一、二四六	一七	七五	一六八	五	一、〇〇五
ヴァンヌ(一部)	一一四・四	一、三〇三	二七	一三五	五五四	八	一、九七三
ヨンス	九一・四	一、三〇一	二二	一七七	一、〇五〇	一	一、〇四〇
デロンド(一部)	二八・三	一六〇	九四	一	一	一三二	二、〇五〇
サント	三一・〇	一九六	一三六	一	一	七〇五	二五八
約	二二〇〇	二八、七〇〇	一、六〇〇	五、三〇〇	一七、七〇〇	一、〇〇〇	四九、三〇〇
全フランス生産	四二	四二	二二	五三	三九	二〇	三四
に対する割合(%)							

(Wirtschaftsdienst, 26 Juli 1940)

之に反して非占領地域をみるに、この地域でも過剰の食糧品のないことは明らかである。平常時に於てはこの地域の人口は約一千五百万人であるが、現在では恐らく一千八百万人と算せられる。したがってそれだけ供給が困難にされてゐるのである。それ故に平常時に辛じて自給に近い供給量を維持し得たパン用穀物の不足は明らかであり、よし北アフリカからの補給が可能だとしても國民を扶養することは出来ぬ。馬鈴薯、野菜、果物及び葡萄の供給は之に比すれば稍々良好であるが、著しい不足は飼料の上に現れてゐる。この飼料の不足と相俟つてフランス軍による用畜の徴發は耕作を困難にしたし、肉類、バター、脂肪類の不足を招いた。

加ふるにフランス食糧經濟に取つて大きい負擔になつたのは、休戦協定による「占領軍の維持」及び二百万人の捕虜の扶養である。更に英米側の宣傳によれば、かゝるフランスの食糧缺乏を招いたものは、非占領地域の物資五八%の引渡に對するドイツの要求だとしてゐる。だが、この風説はドイツ側によつて嚴に否定されてゐるし(New York Times, 13 Sep. 1940)。駐米フランス大使ガストン・アンリ・ヘイさへもその虚報であることを斷言してゐる(New York Times, 17 Sep. 1940)。

ヴィシー政府農業大臣カチオはフランスの食糧不足は一般に云はれてゐる如くひどいものではないと述べ、「基本的な食糧は充分にあるが、輸送の困難が充分な供給を妨げてゐるのだ」と聲明した(Times, 16 Aug. 1940)。かやうな食糧品の不足は、何よりも割當制の強化に赴かしめた。その割當までは嚴しい統制の行はれてゐたのは砂糖のみであり、割當は一ヶ月七百五十グラムであつたが、八月に至つて他の食糧品にも及ぼされ、砂糖五百グラム、麵類七百五十グラム、米百グラム、マルガリン二百グラム、食用フェット二百グラム、石鹼一個パンは一日當り大人三百グラムとなつた。特にミルクについては切符制が採用され、大量のミルクが市中から引揚げられて乾酪工場で加工されるのを防止する爲に、チーズの販賣を二種類とし、且つバターの含有量は一五%以下に制限した。

バターが充分に供給されるのは、ノルマンチーのみであるが、輸送機關の不足の故に全土に配給することが出来ない。更にフランス軍退却の際に軍の在庫品を掠奪した者は處罰され、リオンだけでも約百人がこの爲に逮捕されたと云ふ(Frankfurter Zeitung, 6, 8 Aug. 1940)。

だが、より根本的な解決は、結局農産物の増産にあつたが、この場合農業の根本的な變革が要求された。といふのは、従來のフランス農業は種々の經營上の缺陷を含んでゐたからである。即ち、土地の零細化、機械利用の缺陷、勞働力の不足、等々が之である。例へば、第一の點につき最近の統計の示すところによれば、約百万人の農民が一ヘクタール以下の土地を所有して自作して居り、その約二倍が一〇ヘクタール以下、九十萬人が一〇乃至五〇ヘクタール、八萬一千人が五〇乃至一〇〇ヘクタールの土地所有者であり、一〇〇ヘクタール以上の土地を有するものは、三萬二千人にしか過ぎぬ。又勞働力の不足については、従來からフランス産業おしなべて一般にその不足に悩んで居り、イタリア人、ポーランド人等の外國勞働者を多く雇傭し來つたのであるが、しかも一方では農村から離散して都市に蟬集する傾向が顯著であり、このことが一九三六年以降の失業問題を激化せしめたのである。

この故に農業改革の目標も、これらの諸點に集中されねばならなかつた。即ち、(イ) 荒廢地に於ける新耕地の創設と土地細分化に對する反對闘争、(ロ) 歸農の促進と復員された兵士の勞働配置、(ハ) 農業機械生産の増大、(ニ) 農業過重課税の緩和、等々が之である(Wirtschaftsdienst, 19 Juli 1940)。この目的達成の爲には協同組合の存在を有効と認め、これが前提として、政府は各地方に命じて生産及び勞働の統計的調査を行はしめた。南フランスに於てはドルドニエ河の兩岸が、この農業改革に關する新しい經濟のモデルたらしめられることになつてゐる。即ち、嘗て豊かに恵まれたこの地方の田畑には、先づ一萬の北佛からの避難家族を移住せしめ、次いで五萬家族を追加する豫定である。この世紀の初めから放置されてゐたこの土地の田園が、移住民に對し

て三ヶ年間は小作料なしで、次の六ヶ年間は殘餘の小作料の半分だけ支拂へば好いのである。

フランス政府の計畫では小麦よりも寧ろ、野菜及び家畜の増産に留意してゐるが、しかし一九四〇年度のみは例外的に小麦耕作地を前年に比し二五%の擴大を企圖してゐる。これは勿論この年の著しい穀物不足の影響を免れる目的から出たものである(Wirtschaftsdienst, 1 Nov. 1940)。

その他村落協同體の電化、灌漑及び排水の施設、家宅の設備等々の諸計畫が盛られ、この目的の爲に總額百六十億フランの支出が計上されて居り、この廣汎な農業プログラムこそ、ベタン政府によつてその經濟政策の支柱と呼稱されてゐるところのものである。

ところで商品の不足は勿論食糧品のみについて、はない。各種の原料品も不足だし、被服品その他の生活必需品の缺乏がある。而してそれは、何よりも石炭不足に顯著に現れてゐる。周知のやうにフランスの重要な石炭産地は戰爭地域にはいつた二縣ノール及びパ・ド・カレであるが、一部は戰爭による破壊、一部は勞働力の不足、一部は輸送困難の故に、今やフランス全土は石炭の不足に悩んでゐる。如何に石炭が不足してゐるかは、パリで一九四〇年冬季の家庭用炭の配給がクリスマスに至つて漸く開始されたとの一例が雄辯に物語る。又ガソリンの不足から自動車の交通は九〇%方制限され、家用車、バス、トラックは一瞬にして路上から姿を消した。平常の一ヶ月當りガソリン消費は二十萬噸であるが、之に對して現貯油量が二十四萬噸しかないことがその原因である。ガソリンの消費が許されるのは公用の場合に限定される。パリでは地下鐵の混雑緩和の爲に、バス線の一部が恢復されたのは漸くクリスマス以前であり、又一部では木炭ガスによる自動車の運轉も

開始された。かやうな木炭ガスや天然ガスによる自動車の運轉は差支なく、リモージュの國營航空機工場の如きも、木炭ガス發動機の製作に轉換せしめられた(Frankfurter Zeitung, 6 Aug. u. 19 Dez. 1940)。

繊維工業の中心地たるリール、ルーベ、ツールコアン等の諸都市でも戦争による直接の被害は比較的僅少であつたが、原料の不足が現れてゐる。現在では在庫品によつて、操業時間短縮その他の手段によつて、辛じて約百五十萬人に達する労働者の大部分に職を與へてゐるに過ぎない(Frankfurter Zeitung, 19 Dez. 1940)。

かゝる不足を激化せしめるものは既述のやうに、輸送の困難である。フランス交通大臣ベルトロの發表によれば、鐵道關係のみでも、五百十八以上の橋梁とトンネルとが破壊され、五千二百軒の水路が使用不可能になり、道路では二千三百の橋梁が破壊されたのである(Frankfurter Zeitung, 17 Dez. 1940)。

しかし七月十日以降フランス鐵道關係の全従業員は再びその職場に歸り、交通の恢復は徐々に進んだ。この際何よりも避難者の復歸が重要であり、非占領地では一週間に二百乃至三百の列車が二十萬乃至五十萬人を運んだといふ(Frankfurter Zeitung, 13 Aug. 1940)。十月になつて戰場化した地域の交通設備や家屋の復舊は法律によつて融資上及び建築技術上、交通省に新設の委員會によつて統制されることになつた。最初の財政命令によれば、復舊費の政府貸付は五〇%乃至最高五萬フランとなつてゐたが、右の法律は大部分の建築物に適用されることになつた(Frankfurter Zeitung, 1 Nov 1940)。これによる復舊費總額は、破壊された諸施設に對して約五十四億フラン、既存諸施設の改良に九十億フランとなつてゐる。この他ドイツの水先人とトッド組織との協力がロース及びローアル河の復舊に重要な役割を演じたことも見落してはならぬ(Frankfurter Zeitung, 17

Dez. 1940)。

他方に於てフランス工業再建に關する國家的干渉は農業の場合よりも徹底的である。自由競争は全く廢除され、とりわけ企業家の機能に對して根本的變化が要求された。勿論、個人的企業家は存続するし、經濟的イニシヤチーヴの擔當者としての、彼の重要性は認められてはゐるが、しかしそれは「全體的經濟」の一部として、國家の權威によつて配せられた任務として行ふものである。このことは一九四〇年八月中旬に公布された、フランス經濟組織に關する法律の上に現れて居り、ベタン政府は之を以て經濟復興の前提たらしめんとしてゐる。この目的を達する爲に、謂はゆる組織委員會が各種の經濟部門について、國家の經濟計畫遂行の機關として設けられた。この委員會の任務は、何よりもフランスに存在する生産手段を一覽し、これにより諸企業に對する原料割當の決定、並に消費の指導を爲すにある。この任務の外に、法律は組織委員會の重要な任務として、商品取引の監視及び價格形成に對する干渉を課してゐる。特に重要なものは生産物の品質引上げに關する任務であり、これはフランス輸出品の品質低下が近年現れてゐた事情に基くものである。

この委員會はしかしながら、直接に諸企業に干渉を加へるのではなくて、労働者及び生産者に對する訓令の公布に限られて居り、この範圍内の生産統制は戰時中から既に實施されて來たところである。しかしこの委員會の權限はかゝる生産、原料調達、労働配置、取引の監視についてのみでなく、怠業氣分であつたり、反抗したりする企業家に對する制裁にも及び、委員會の提案によりこの種の企業は一時的又は永久に閉鎖を命ぜられることがあり得る。

又命令によつて將來は一切の企業家及び労働者の組合又は團體を解散せしめることが出来る。フランス労働組合の中心組織たる労働總同盟 *Confédération Générale du Travail* や中央企業家諸團體の如きは眞先にされる運命にあり、一八六四年に組織されたフランスの有力な製鐵業者組織たる *Comité des Forges* の如きも之に屬する。

カルテルやシンチケートの協力については、法律は明言してゐないが、經濟再建上その服従を強制することは明らかであり、この經濟組織の新しい形態、國家の強力な經濟的イニシャチーフ、及び團體精神によつて、勞資間の協調を可能ならしめ、かくしてフランス經濟の復興が期待されてゐるのである。(Wirtschaftsdienst, 6 Sept. 1940)。

かゝる經濟的理念の變質の一例をば株式法改正に見ることが出来る。勿論これの内容は今日までのところ、株式會社の取締役會長の責任の擴張に止つてゐる。これによれば、取締役會長は株式會社破産の際に、自己の個人財産全額を以て會社に對して責任を取るのみでなく、この責任は裁判所の決定によつて監査役は勿論、重役の全員にも及ぶ場合がある。このことは、個人的責任を高めると共に、整理に際しこの經濟倫理を加味するものである。フランス經濟組織委員會の創設と相俟つて、この株式法改正の中には、機宜を得た、即ち非自由主義的な經濟思想の組織的輪廓が現れてゐるといふことが出来る(Wirtschaftsdienst, 1 Nov. 1940)。

ところでこれらの復興プログラムの遂行に緊急なものは、何よりも失業の救済であり、したがつて龐大な計畫が立てられた。この最近の失業救済計畫に關する布告によれば、前記の交通施設及び諸建築の復舊費をも含

み、四百六十億フランがこの目的の爲に支出されることになつてゐる。既述のやうに、その一部は交通諸施設、即ち、道路、橋梁、鐵道、電信、電話、その他の諸建築の復舊に充てられるが、比較的小規模ながら新規投資も亦、認められ、六十億フランが水力のより高度の利用を目的としてフランス電氣事業の爲に用意された。

又五十億フランはパリの復興に振向けられ、實質上パリの救恤及び失業救済貸付として使用される。パリ區に於ける失業は最近減少して約百萬人から六十萬人になつたが、サン・ドニ及びソニーを含む戦前のパリの人口は約五百萬人であつたから、失業率は極めて高いのである。しかも現在ではパリの人口は三百五十萬人と推定されてゐる。パリの諸工業は開戦後、他の何れの地方よりも強力に軍需品生産に轉換せしめられ、その結果として、戦後その失業問題が尖鋭化したのであるが、この傾向は避難民の歸還にしたがつて益々激化の勢にある。

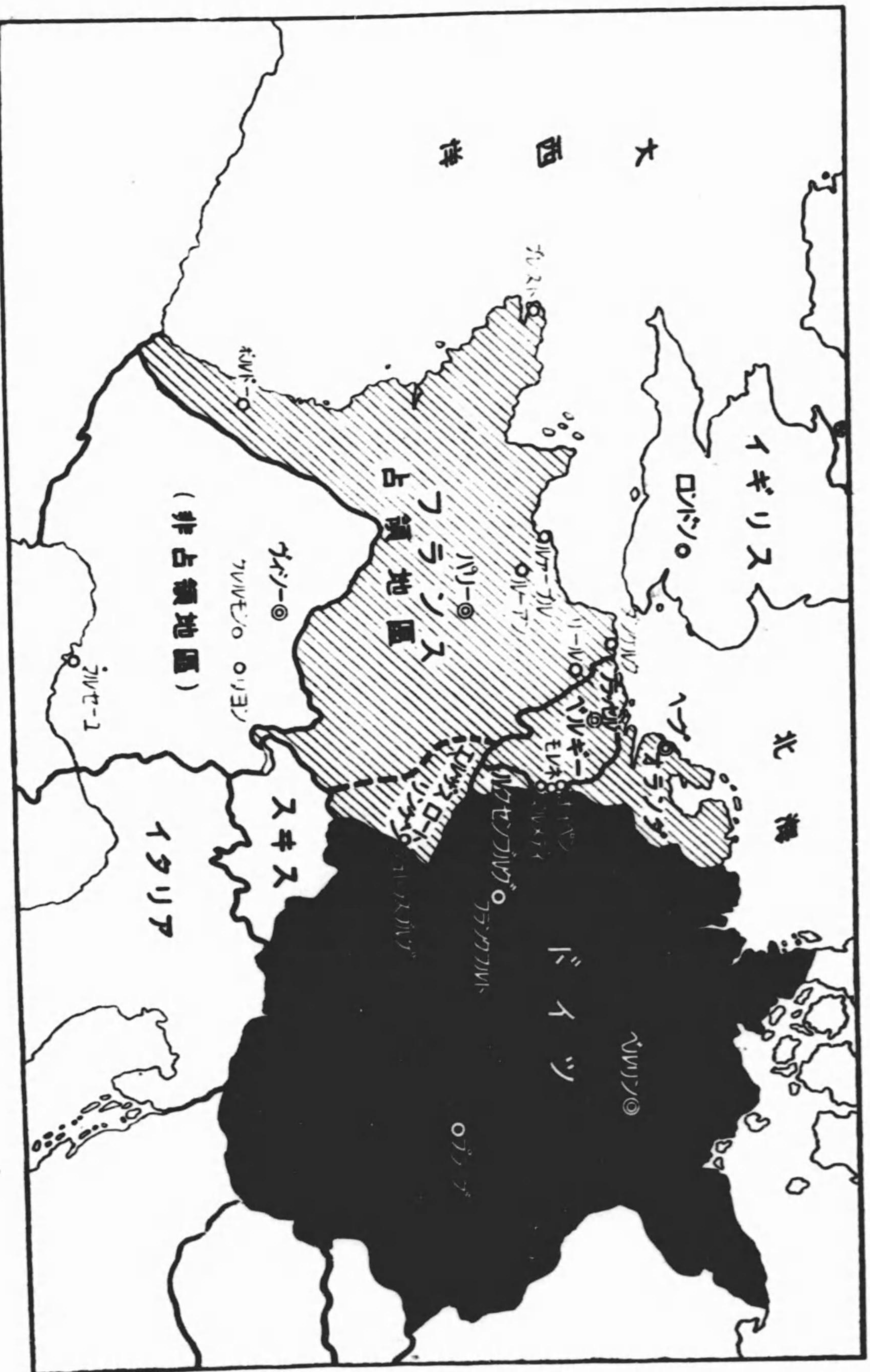
ところで右の失業救済プログラムに含まれる資金調達は、それに對する一切の基礎が缺けてゐる爲に、極めて困難な問題になつてゐる。フランス銀行は最早營業報告を發表しないし、國家收支の動きも不明である。しかし復員費及びフランス産業の軍需生産から平時生産への轉換の爲の費用は、最終の戦時豫算二千五百億フランよりも少いとしても、國家收入の激減があることは明らかである。恐らく收入の減少は支出の減少よりも大であらう。

復興資金の調達のみでなく、フランス政府はドイツ占領軍に對して守備費を一日當り四億フラン支拂はねばならぬ。この目的を以てフランス政府は、さきにフランス銀行から五百億フランを借入れたが、之は既に一九

四〇年十月に使用果されてしまった。通貨の造出こそが、現下のフランスの経済的政治的情勢下にあつては、最も重要な財源であるが、インフレの結果を回避する爲に、政府はあらゆる努力をせねばならぬ。重要食糧品の割當、價格統制及び生産減退及びこれに伴ふ購買力減退の爲に、差當りインフレ的影響は現れてゐないし、とりわけフランス通貨は外國との支拂取引及び外國貿易の停止の結果、當分は純粹な國內通貨と化してゐる。それ故にフランス銀行はフランの對外價值を對米四三・七五フランに維持することが出來た。これの將來の發展は、一部は合衆國及びイギリスに抑留されてゐるフランス在外資産の解放に絡んで、興味ある問題となつてゐる(Wirtschaftslehre, 1 Nov. 1940)。差當り合衆國との取引が全く斷ち切られてゐる現在にあつて、右の相

場は合衆國大藏省の聲明してゐるやうに「極めて限定された意味しか持つてゐない」。但し歐洲大陸諸國との取引は、新しい基礎の下に徐々に恢復しつゝある。第一にそれはスイスとの間に恢復されたし、スイス・フランとベルギー・フランとの間の相場は七二二〥五〇〇と新に決定された。フラン貨のポンドからの離脱前に於けるチューリッヒ公定相場は八一九・五ヌイス・フラン〥一〇〇フランス・フランであつたが、八月下旬には一〇ヌイス・フラン〥一〇〇フランス・フランに恢復した。しかし對外取引が著しく制限されてゐる場合に、かゝるフラン貨の安定は擬制的なものにしか過ぎぬ。このことは他の場合にも現れてゐる。

フランス銀行は帳簿上では約八百億フラン以上の金(これは最終のフラン切下によつてもつと多額に評價される筈である)を持つてゐるが、この大部分の金及び貸付金は英米にあり、そのうち國內にあるものは僅少である。同



第三圖 フランスの占領諸國

時に六月初めに百億フランに達してゐた金準備は戦争末期に消費し盡された。かくしてフラン貨は今日では最早ベルギー・フラン等と同じく純粹な紙幣にしか過ぎぬ。フランス銀行の主要業務の一つたる爲替取引は最早殆んど行はれることなく、その主たる業務は、國民大衆が通貨獲得の爲に手離す國防公債や大藏省證券の償還にあり、かくして通貨は膨脹したが、加ふるにそれはフランス國內への逃避者の持参した現金によつてより増加したのである。そのみでなく、占領地域内に於てはドイツの通貨たるライヒスマルクが並び流通してゐる。しかしこれらの額が幾何になつてゐるかは全然不明である。しかしそれらの流通高がどれだけであらうとも、購買力が商品の現在高によつて規定される限界以下にあるときは、インフレ的影響はそれ程さし迫つたものでなからず (Währung und Wirtschaft, 9 Jg. Heft 8, New York Times, 2 Sep. 1940)。

第八章 東南歐諸國の經濟及び經濟工作

この地域は勿論謂ふところのドイツ占領地域ではない。しかしこれに含まれる諸國、特にハンガリー、ルーマニア及びブルガリアはドイツ軍の通過乃至進駐を許してゐる上に、經濟的にも歐洲新秩序建設に参加してゐるし、ユーゴスラヴィアは獨伊樞軸への協力の意志を示してゐる。それ故にこの地域は歐洲廣域經濟形成の極めて重要な要素である。

前大戰この方、英佛兩國は或は國際聯盟を武器として東南歐諸國を政治的に支配し、或は黄金の魅力によつて自國側に引入れ、ドイツとの接近を妨げるべく常に努力して來たのである。英佛支配の残滓は今なほこれらの地域に對する投下資本の上に現れてゐる。例へば後にみるやうにルーマニアの石油事業經營に於ても英佛系資本によるものが壓倒的である。にも拘らず、ドイツとの地理的接近及びドイツとの經濟的依存關係は、何よりも兩者の取引關係を高めた。東南歐諸國はその諸産業の近代化の爲にドイツの機械類や化學製品を購入せねばならぬし、ドイツはこの地域に豊かに生産される農産物を必要とする。かくしてこの兩者の經濟的結び付きは必然的運命だつたのである。このことはこれら東南歐諸國の貿易上ドイツの占める地位が次のやうに壓倒的だといふことから明らかである。

東南歐諸國の貿易割合(一九三八年)

國名	ドイツ*	イタリヤ	イギリス	フランス
ルーマニア	51%	5%	18%	8%
ブルガリア	37%	6%	11%	5%
ユーゴスラヴィア	63%	5%	11%	4%
ハンガリー	69%	8%	5%	2%
オーストリア、チエッコ、スロヴァキヤ、ポーランドを含む	51%	6%	9%	1%
オーストリア	50%	6%	6%	2%

(Wirtschaftsdiensst, 22 Dez. 1939)

とりわけイギリス海軍による地中海交通の阻害は、歐洲大陸以外の諸國との取引を困難ならしめ、樞軸國への依存を益々強めるであらう。一九三八年の實例に徴すれば、ルーマニア及びブルガリアの取引経路は次の如くであつた。

取引経路	ルーマニア	ブルガリア
輸入	45.0%	40.7%
輸出	15.7%	44.3%
海上	41.5%	38.5%
ドナウ河	13.5%	20.6%

(Wirtschaftsdienst, 31 Mai 1940)

アドリア海經由による取引の如きを除き、右の海上による大部分の取引は困難にされ、したがって東南欧諸國の貿易はヨーロッパ大陸により多く依存することになるであらう。それ故にこれらの諸國が樞軸側に参加したことは、正にその選擇を誤らなかつたものと云へる。以下に於て個別的に各國の經濟及び經濟工作を概観しよう。

一、ハンガリー 前大戰に同盟國側に立つて戦つたとき、この國は三十四萬五千平方杆の國土と約二千萬の人口とを有してゐたのであるが、トリアノン條約の結果、面積九萬一千平方杆、人口八百七十萬人(一九三一年の調査)のバルカンの上弱小國に墮されてしまつた。しかし一九三八年十一月二日ハンガリーはチェッコから面積一萬二千平方杆、人口百萬人を含む失地を恢復し、次いでチェッコ・スロヴァキア解體の一九三九年三月には面積一萬二千平方杆、人口六十萬人のルテニアを獲得し、更に一九四〇年八月にはいつて、ルーマニアから面積四萬五千平方杆、人口二百四十萬人を含むトランシルヴァニアの一部を恢復した。この結果合計面積は十六萬平方杆、人口は一千參百萬人になつた。

ところでこの國の産業をみれば、一方には石炭、鐵礦、ボーキサイト等の礦物原料の生産があり、その基礎の上に金屬工業、機械工業の如き一九二四年以降發達するに至つた謂はゆる新興工業、他方には食糧品工業、纖維工業等の謂はゆる舊工業があるが、三百八十三萬人の全就業者數中、農林業に従事するものは約五三%を占め(一九三〇年の調査)、農業が壓倒的である。事實その輸出品をみても小麦と家畜とが壓倒的に多い。

一九三八年についてみれば、耕地の四分の三は穀物であり、次掲の如くそのうちの二九%が小麦耕作に充てられてゐる。

耕作地(ハクタール)	小麦	其他穀物	其他食糧品	飼料	油料及纖維植物	其他工業原料用植物	休耕地
五、五一	一、六一	二、三九	三九三	八四八	七二	四五	一三五
割合 一〇〇%	二八・八	四四・五	七・〇	一五・一	一・三	〇・八	二・四

(Frankfurter Zeitung, 24 Aug. 1940)

しかし農業人口は過剰であり、大部分零細地の所有者であつて、單位當り收穫度は低い。加ふるにこの國の主要農産物たる小麦は嘗て世界恐慌時に於ける外國小麦の競争による打撃から收穫は減退したし、嘗ては大臣テレキの如きは農村救済上小麦減産の必要をさへ説いたのである。しかし今やハンガリーの獨伊樞軸への参加によつてこの國の農産物に對する販路が保證されることになり、その増産が要求されるに至つたのである。勿論從來に於てもこの國の經濟はドイツに依存することの頗る大であつたことは次掲によつても明らかである。

ハンガリーの外國貿易(百萬ベング 上半期)	
輸出	輸入
一九三八年	一九三九年
總計	一九三八年
二五・六三	二八・七八
二〇〇・三二	二四三・八一
一〇七・六一	八一・六三
一〇八・一七	一〇八・一七
一七・二七	一二・八六
一四・二〇	一四・五八
一二・二七	一二・八六
一〇・三九	一九・五一
一〇・三四	一六・九五
八・九一	一二・三七
七・二一	九・四五

ポ ロ ラ ン ド	二・五三	三・〇二	三・〇七	五・二六
イ ギ リ ス	二一・五一	一七・五七	一二・三六	一五・二四
ア メ リ カ	五・七三	七・五八	九・一九	一三・五七
ス イ ス	九・一五	六・三六	四・〇二	六・七〇
オ ス タ リ ヤ	三・六九	四・五八	六・二七	八・七七
フ ラ ン ス	四・八二	四・三六	二・〇五	四・六三
ベ ル ギ ー	一・九七	一・三九	一・四三	二・九一
ス ウ エ ー デン	四・八二	三・八五	一・五一	三・〇一

(Wirtschaftsdienst, 6 Okt. 1940)

かやうにハンガリーはドイツと密接な経済關係に立つてゐるが、戦後益々この關係は緊密化すべき運命に置かれることになつたのである。といふのは、西歐諸國との取引が困難にされたからである。即ち開戦直後の四ヶ月間に英佛への輸出は半減してしまつた。それ故にハンガリーはこれらの喪失した市場の代りに、ドイツに より大きい需要を求めねばならぬ。

ハンガリーの對英佛貿易(百萬ペング 下半年)

	輸 出	輸 入
イ ギ リ ス	一九三九年 一三・七 一九三八年 二〇・七	一九三九年 八・五 一九三八年 一三・三
フ ラ ン ス	一九三九年 二・六 一九三八年 五・〇	一九三九年 二・〇 一九三八年 四・一

(Wirtschaftsdienst, 22 März 1940)

かやうなハンガリー經濟のドイツ經濟への連繫の必然性に加ふるに、ヴェルサイユ條約に對する現状打破派

として獨伊と利害を共通にするものであり、獨伊の仲介によつてトランシルヴァニアの失地を恢復した後、日獨伊三國同盟にいち早く加盟した。そしてそれと同時に歐洲新秩序への體制を整へ始めたのである。

勿論この國の經濟復興運動は開戦前、一九三八年六月三十日の五ヶ年計畫によつて着手された。これによれば、再軍備の爲に六億ペング、交通制度改善の目的で四億ペングが支出されることになつてゐた。しかるにハンガリーの新秩序への参加、とりわけドイツとの間に成立した農業協定の結果、ハンガリー經濟はこれに即應する爲の編成替が要求されるに至つたのである。といふのはこの協定は單に「戦争にのみ備へたものではなくてその重要性はドイツ及びハンガリー兩國の將來に互る長期の協力にある」(Wirtschaftsdienst, 15 Nov. 1940) かくしてハンガリー經濟はドイツの需要に應ずべく計畫的な對策が爲されることになつた。しかるに先づ農産物について、最近の收穫をみれば次の如くになつてゐる。

	耕地面積(一、〇〇〇ヘクタール)	收 穫 高(百萬トナール)	平均收穫(一ヘクタール)
小 麥	一九四〇年 一九三九年	一九四〇年 一九三九年	一九四〇年 一九三九年
ライ 麥	三、〇三三 三、二五二	二〇・六七 三〇・七八	六・八一 九・四六
玉 蜀 黍	一、一四一 一、二〇八	七・二四 八・六四	六・三五 七・一五
馬 鈴 薯	二、三三八 二、一八八	二九・六四 二二・三五	一一・六八 一〇・六七
甜 菜	六〇三 五三八	三四・四〇 二二・九三	五六・九四 四二・五七
一カクタス	二六 九一	一七・五八 一一・六一	一三八・六一 一二七・二八

(Wirtschaftsdienst, 15 Nov. 1940)

右のやうに一九四〇年の收穫は前年に比し著しく悪いが、しかもこの場合チェッコから恢復したカルパチアの收穫が含まれてゐることを見落してはならぬ。これらから判断すれば、この收穫年度の小麥收穫は前年のその約六〇%にしか過ぎず、辛じて耕作物が幾分良好であつたに止る。平年作に於てさへハンガリーの收穫は他の諸國のそれに比し著しく不良であり、このことは對獨輸出を高める爲に、極めて廣汎な改善の餘地が残されてゐることを示すものである。

單位當り小麥收穫(ヘクタール當り)

	オランダ	フィンランド	オーストリア	フランス	ドイツ
一九〇九—一九一三年	二二・五	一一・二	一三・七	一三・一	一二・六
一九二九—一九三三年	二八・七	一七・三	一五・八	一五・五	一三・四
増 收 率 %	二二・二	五五・二	一五・四	一八・二	六・五

(wirtschaftsdiensst, 6 Okt. 1940)

かゝるハンガリー農業の低位性は大部分極端な土地の零細化に起因し、それ故に前大戰後から土地問題が農業改革の中心を爲して來たのであるが、充分の成績をあげ得なかつた。例へば一九三六年半ばから一九三九年半ばまでの三年間に、ハンガリーの全耕地一千六百萬カストラールヨッホ中で土地分割の行はれたのは八萬八千三百ヨッホにしか過ぎぬ。この點に於て一九三九年九月十一日のユダヤ人法施行令によるユダヤ人所有地の分割は土地改革上影響するところが頗る多いであらう。

ともあれかゝる土地改革の進展と相俟つて、ハンガリー農業經營の改善が期待され、それによる増産の廣汎な餘地が残されてゐる。

さきの獨汎農業協定も、廣汎な増産計畫遂行の前提の上にとり結ばれたものである。これによれば、先づ向日葵、亞麻種子、苧麻等の耕作は八萬カストラールヨッホから二十萬カストラールヨッホに擴張されねばならぬ。又經濟協定は苜蓿、その他の飼料植物の輸出増加を豫定してゐるが、これは當然にこの種の増産を要求する。かゝる飼料増産の基礎に牧畜業の振興も亦、期待されてゐる。これらの事實は一面にはハンガリー農業が穀物耕作に偏し過ぎてゐた弊を匡正する効果を持つものである。

他方に於て西歐諸國からの輸入の斷絶によつて、原料品の國內増産が計られねばならぬ。そしてハンガリーはこの場合二つの利益を得た。一はチェッコからの失地の恢復により、上部ハンガリーの鐵鑛石を採掘し得るに至つたし、カルパト・ウクライナの森林及び岩鹽を獲得したことであり、他は國內、特にリスベ附近に石油の産出を見るに至つたことである。一九三九年の七月に既に産油量は一萬噸にのぼつたが、之は國內需要の半分を充すものであり、今日既に四分の三の需要は確保されることになつた。

しかし原料供給につきより大きい問題は纖維原料である。この點から綿業にあつては、人造纖維の強制混用を一〇%から一六%に高める企てが爲されると共に、スフ輸入税を撤廢したが、このことはドイツからの供給に期待した爲である。又國內生産計畫も立てられてゐる。毛織業にあつては、毛絲七〇%、梳毛絲五〇%に消費が制限され、麻織業では麻屑の消費は四〇%になつた。

かやうな原料品の一部の不足や前年の飼料用植物の不作による豚肉やミルクの不足、そしてそれらに起因する物價騰貴並に經濟再編期に當然起るべき一部の經濟的混亂等も現れてゐる。しかしドイツの協力によつてこ

の國の經濟もやがて安定するに至るであらう。

二、ルーマニア この國の總面積は三十一萬六千方方、人口は一千九百萬に達し、バルカン第一の大國であつた。近年工業化が進んではゐるが、依然として農業國であり、その總面積の四七・三％は耕地であり、とりわけ穀物の耕作が盛んで、歐洲の穀倉と稱せられる。一九三八年には主要穀物たる小麦は四百九十二萬噸、玉蜀黍は四百八十萬噸の收穫があり、前者は七十九萬噸、後者は二十一萬八千噸が輸出された(League of Nations, International Trade in Certain Raw Materials and Foodstuffs 1938)。

戦争が始まつて以來、ルーマニアはベッサラビア及び北部ブコヴィナをソ聯に奪はれ、ハンガリーにはトランシルバニア、ブルガリアにはドブルジャを割讓するの餘儀なきに至り、それだけ耕地の減少をみたが、なほこの國に残された耕地は豊かである。しかし農業經營の集約度が低く、平均收穫はドイツのそれに比し五〇％も劣つて居り、此處に農業改革及びそれによる増産の餘地が多分に残されてゐる。

農業と並んで、或ひはそれ以上にこの國を經濟的に價値付けてゐるものは、石油業である。ソ聯を除けばルーマニアは歐洲最大の石油産國であり、一九三八年には六百八十七萬噸の産額があり、約四百五十萬噸を輸出したのである。しかもその經營の七〇％以上は資本的に英佛系企業に支配されて居り、且つ産油の最大の輸入國はドイツである。

かやうな經濟事情は開戦と共にこの國をば極めて困難な立場に追込んだ。北部でベッサラヴィアの奪取を覗ふソ聯、失地恢復を企及するハンガリー及びブルガリアに備へて大軍を動員せねばならなかつたし、内政的に

は親英佛派の國王カールにカリネスコ首相とルーマニア・ナチス派たる鐵衛團との抗争が尖鋭化した。政治的騷擾と經濟的混亂とが之に續いた。しかしフランスの敗退とイギリスの孤立化とは、ルーマニアをしてこの兩國による共同保證を諦め、獨伊樞軸への参加を不可避ならしめた。しかもこの運命は政治的現實によるものではなくて、「政治的及び世界觀的構想の論理的必然の結果」とされたのである(Wirtschaftsdienst, 12 Juli 1940)。

かくしてルーマニアは政治的にも經濟的にも全面的な再編成を行はねばならなかつた。ドイツの仲介によつて八月にソ聯、ハンガリー及びブルガリアとの間に夫々新國境の協定が成立した後、アントネスコ將軍によつて政權が掌握されることになり、九月十四日新國王ミハエルの下に鐵衛團による單一政黨内閣が組織された。かくして全體主義國家への體制が採られると共に、完全に獨伊樞軸の下に立つに至つたのである。次いで十月ルーマニア獨立保證協定に基きドイツ軍の國內への進駐を許し、十一月に入つて日獨伊

三國同盟に参加することによつて、ルーマニアは今や歐洲新秩序建設の一翼たることになつた。ところで、これよりさきルーマニアの國內政争及び大規模の軍事動員は國內經濟の混亂を惹起し、資本逃避、物價騰貴が起り、重要食糧品の供給不足さへも現れた。此處に於てか、先づ國內經濟の安定、次いで新秩序に即應すべき經濟の編成替が要求されたが、この目的の爲に廣汎な十ヶ年計畫が立てられ、その遂行に邁進することになつた。この場合もとよりドイツの協力が期待されてゐるが、一九四〇年十一月に成立した獨羅經濟協定こそは、この兩國間の經濟的協力の基本原則を取りきめたものであつた。これによれば、ドイツはルーマニア十ヶ年計畫の遂行に對して、あらゆる技術的並に財政的援助を約束してゐるが、その重要な諸點は次の如

くである。

1. ドイツは十ヶ年計畫繼續中、この計畫の遂行に必要な巨額の長期資本貸付に應ずる。
2. 既存の農林業に對する協力を繼續し、ドイツからの貸付の範圍内に於て農業用機械器具を供給する。
3. 歐洲新經濟秩序の範圍内に於て、ルーマニア工業生産を促進する爲に、ドイツは技術的及び財政的援助を惜しまなく。
4. 十ヶ年計畫の範圍内に於て、ルーマニア交通機關、とりわけ鐵道及び道路網並に石油輸送管を建設し、ドイツは貸付金の範圍内に於て必要な資材を提供する。
5. ドイツはルーマニア工業並に金融制度確立の爲に、私經濟的協力により援助を與へる。
6. ドイツ政府はルーマニア政府の要求に基き、農業、工業及びその他の専門家を派遣する。
7. 兩國政府は兩國の通商關係の形成に留意し、ルーマニア生産物市場としてのドイツ市場は適正な價格を保證し、ドイツとの取引關係に於けるルーマニア市場の重要性を高める (Frankfurter Zeitung, 5. Dez. 1940).

この計畫の具體的内容は未だ充分に明らかにされてゐないが、農業計畫に重心が置かれてゐることは、ルーマニアの農業國たる性質から當然である。既述のやうにこの國の集約度は極めて低く、したがつてルーマニア農民の生活水準を高める爲には、その集約化と機械化とにより、農産物の増産と適正價格の保證とが要求せられ、この目的の爲に、政府は先づ十ヶ年間に約三百億レイを支出することにした。但しこの計畫は即時にル

ーマニアの全農業に及ぶものではなくて、差當り經驗ある農民に對して、近代的農業用機械器具、最新の施肥方法、選擇された種子の採用等を行はしめ、この經驗から漸次全國的な農業の計畫的な集約化を行はんとするものである。この場合何よりも農業用機械の供給が要求されるが、現下の情勢にあつては供給能力を有するものは、ドイツ農業のみである。既に獨逸經濟協定の成立以前、舊政府の下に於ける一九三九年の五ヶ年計畫の下にあつてさへ、ルーマニアの所要農業用機械器具は次の如く多額に達した。

トラクター	一、〇〇〇臺	三〇〇
播種機	一〇、〇〇〇臺	一八〇
鋤	二〇、〇〇〇個	四〇
刈取機	五、〇〇〇臺	二五〇
打穀機		二五〇
穀物及種子選りわけ機		一〇〇
鋤		一五〇
鋤		五〇

百萬レイ

(Wirtschaftsdienst, 15 Nov. 1940)

かくしてドイツは例へば、第一回の引渡として既にトラクター一千臺を提供したが、今や新に樹立された機械化計畫にあつては、それより遙かに多いものがドイツに要求されることは必然である。しかしかゝる農業の機械化には農民の廣汎な訓練を要し、したがつてドイツ専門家の技術的援助がなければならぬが、既にドイツ専門家により一部このことは實現されてゐる。

ルーマニアの工業化計画についても、この見地から考慮されるべきであり、適當なルーマニア工業部門をば、農業用機械の修理及び組立工場に轉換せしむべき用意がされてゐる。他の工業部門に於てもルーマニアの持つ自然的基礎の上に工業化の計画が進められた。即ち、軍需工業は合理化されると共に、他方從來發達し來つたこの國農産物の加工を業とする食糧品工業の伸張、石油事業の振興が企圖されてゐる。かゝる計畫はルーマニアの機械類の需要を高めるであらうが、從來ドイツは大口の機械類供給者であり、例へば一九三九年中のルーマニア機械類輸入の五七%をドイツが占めてゐた事實に徴して、爾後ドイツからの供給は益々高まるであらう。工業化の問題に於て、精力的な努力が期待されるのは石油業である。ルーマニアは早くも一九四〇年七月にイギリス系の石油會社を沒收し對獨石油供給の増額の體制を取つたが、新獨羅經濟協定によれば、その六〇%がドイツに輸出されることになつてゐる。この目的の爲にパイプラインの建設が目論まれ、十二月四日の命令によつて、石油輸送管の建設は専ら之を國家の獨占事業とし、同時に之に屬する諸設備を國有に移すことになつたのである (Frankfurter Zeitung, 5 Dez. 1940)。

同時に他方ではポーリングの強化その他經營の合理化による大規模の採油プログラムが立てられた。かくしてルーマニア經濟は再建され、歐洲廣域經濟の重要な参加者たる事が期待されてゐる。

三、ブルガリア 去就を注目されてゐたこの國も一九四一年三月一日三國同盟に参加すると同時に、ドイツ軍の進駐するところとなつた。バルカン半島の中央部に位し、ギリシヤはもとより、地中海方面のイギリス攻撃の基地を爲すものである。面積は十萬三千平方杆、人口六百萬であるが、一九四〇年九月七日の勃羅協定

によつてルーマニアから七千七百平方杆の南ドブルジャを恢復した。

全面積の三五・〇%は耕地、二・六%は牧場、三・五%は森林である。人口の八〇%は農民であり、その産業では農業が壓倒的であるが、原始的耕作法、近代的農耕法に對する無知、資本の缺乏、耕地の細分化の爲に生産率が低い。一九二六年の調査によれば、四百四十六萬九千九百ヘクタールの耕地は七十三萬四千の世帯に分けられ、一世帯當り耕地は平均六ヘクタールにしか過ぎぬ。このことは、一部は相続人の間に均等に土地を分割する相続制度に起因し、不斷に耕地細分化の傾向にある。かくして人口の八〇%を占める農民の所得は國民所得總額の五〇%にしか過ぎず、逆に農民の負債は莫大であつて百二十億レヴァに達する (J. S. Roucek, The Politics of the Balkans, 1939)。

農産物中で小麦と玉蜀黍とが最も多く、總耕地中前者は四八%を、後者は二七%を占め、之に次いで煙草、茶、葡萄、油料植物等の生産がある。近年四ヶ年計畫によつて農業經營の近代化が企てられ、單位耕地當り收穫の増加、過剩農業人口問題の解決、森林の改良、油料及び纖維植物の増加、農業機械の利用及び施肥の増加等に關する諸方策が爲されてゐる。

農業以外の産業は一般に不振である。石炭を始め、銅、亜鉛、鉛等の礦物が相當に賦存するが、資本不足の故に近代的な精鍊、採掘が行はれず、その産額も僅少である。工業人口は一九三三年には三萬三千人にしか過ぎず、繊維、皮、靴、煙草、ビール、等の如き輕工業が營まれてゐるに止る。

かゝる事實から、當然にその輸出品の大部分は農産物によつて占められて居り、煙草が最も多く、卵、葡萄、

小麥等が之に次ぐ。ブルガリアの外國貿易に於て注目すべきことは、ドイツの占める地位が壓倒的だといふことである。しかも開戦以來この傾向は高まり、一九三九年にあつてはドイツの参加率は次掲に明らかになやうに、輸出では六七・八%、輸入では六五・九%に當る。

ブルガリアの貿易(百萬レヴァ)

輸出	輸出		輸入	
	一九三九年	一九三八年	一九三九年	一九三八年
總計	六、〇六六	五、五六七	四、九三五	四、九三五
ドイツ	四、一〇〇	三、二七四	三、四〇三	二、五六三
ポエトメン	二〇二	二五五	二一〇	三九二
ボエトメン	二二八	三一八	二九七	二七六
計	四、五四〇	三、八四七	三、九一〇	三、一三一
他の諸國總計	一、五二六	一、七二〇	一、二八七	一、八〇四
イタリヤ	三六七	四二二	三五七	三七〇
アメリカ	二〇六	一九〇	一二〇	一三四
イギリス	一八八	二六七	一四四	三四八
ハンガリー	一一九	七〇	四四	一三五

(Wirtschaftsdienst, 8 März 1940)

かやうに他の諸國とりわけイギリスとの取引は激減し、その半面ドイツとの取引は増加し、ドイツとの經濟關係はより緊密になつたのである。この緊密な兩國の經濟關係は主要輸出入品の構成をみれば、より明瞭にされる。

ブルガリアの主要輸出入品(百萬レヴァ 一九三九年)

輸出		輸入	
煙草	二、四八六	機械器具	一、三七三
卵	五一二	金屬及金屬製品	一、〇一五
葡萄酒	四六一	纖維原料及製品	七九三
小麥	四四三	交通機關	四三八
果物半加工品	二三九	石油	二八四
葡萄酒	一二六	化學製品	一九四
林産物	一〇二	纖維素、紙等	一四一
		染料及塗料	一三八

(Wirtschaftsdienst, 8 März 1940)

ブルガリア貿易に於けるドイツの獨占的地位は、ブルガリアの國內經濟をもドイツに隷屬させるものである。この國の農業はドイツの市場を失へば衰頹の外なく、又その近代化や工業化にはドイツの機械類や人造肥料が不可欠である。この故に既に一九三九年十月にドイツとの間に經濟協定が結ばれ、兩國の經濟關係の緊密化は促進されたが、今回の三國同盟への参加により、正にルーマニアはその選擇を誤らなかつたものと云へる。

四、ユーゴスラヴィア ヴェルサイユ條約によつて民族自決の美名の下に舊セルビア及びモンテネグロの二王國、マセドニアの一部、クロアチヤ、スロヴァニア、スラヴォニア、ダルマチヤ、ボスニア、ヘルツェゴヴィナ、ヴォイヴォディナ、等から實はモザイク的に作り上げられた國であり、したがつて文化的にも經濟的にも分立してゐる。その國土は二十四萬八千平方料、人口は一千三百九十萬人(一九三一年の調査)であるが、

その約八〇％は農民である。しかるに農民の所得は國民所得の五〇％にしか過ぎず、工業に従事する一一％の人口が國民所得の三四％、商業及び金融業關係の三％が國民所得の一〇％を占めてゐる事實(J. S. Roucek, The Politics of the Balkans, 1930)に徴すれば、農民の經濟的地位の極めて低いことがわかる。その國土の大部分は山岳地帯であり、平地は僅かにその二〇乃至三〇％にしか過ぎず、この狭小な農地に人口の極めて多くの部分を占める農民が住んでゐることがその原因である。大體に於て東部で穀物が耕作され、南部及び西部で牧畜が行はれてゐるが、その能率は極めて低い。全農民の約十分の一は土地を所有せず、季節的移動労働者として働かねばならず、一般に合理的労働、新式機械、種子の選擇等が行はれない。

山岳地帯の多い關係上森林が多く、その約三分の一は國有林となつて居り、木材竝に木材パルプは主要輸出品の一つになつてゐる。

他方に於て、この國は礦物資源に富み、鐵鑛石はボスニア地方に、鉛はスロヴァニア地方に、銅、クロム、アンチモニーはセルビア地方にある。その他鉛、亜鉛、錫、ボーキサイト、等重要礦物の豊かな賦存があるが、この國の貧困の故に充分の開発が行はれず、鑛産額は年産約十億ディナーにしか過ぎぬ。

かやうな經濟的事情の下に、國內では民族の紛争が絶えず、對外的には獨伊樞軸とイギリスとの對立の間に差し挟まれ、複雑なバルカン自身の問題の中に巻きこまれてゐる。勿論ユーゴスラヴィアはドナウ沿岸諸國の國境改訂問題には直接的關係はないが、その國際關係に於ける困難さは想像するに餘りがある。

戰爭の擴大、とりわけその地中海への擴大は西歐諸國との通商を困難ならしめ、この國の經濟も一時的な

混亂に陥つた。何よりもそれは食糧品や原料品の缺乏に現れたが、その最も甚だしいのは食料油、次いで砂糖、小麦粉、豚脂肪等に於てであつた。これらは勿論戰爭のみに起因したのではなくて、例へば冬季あぶら菜の收穫不良、飼料不足による豚飼育の困難、小麦粉出廻りの遅延等によるものである。かゝる事情の下に於て物價騰貴が惹起され、このことは人々を買溜に驅つた。かやうな投機的買占め、竝にそれによる商品不足克服の爲に、開戦直後の九月一般的な命令が公布されたが、翌一九四〇年二月に至つて初めて、卸賣價格統制令が公布され、次いで漸次六十種の生活必需品に對して最高價格を決定した。更に同年八月末に至つて、價格統制は小賣及びストックにも及ぼされることになつた。

物資の不足はたゞに食糧品のみならず、工業原料の上にも及んでゐる。第一に原棉の不足がある。この國の綿業は大部分米綿の輸入に依存してゐたのであるが、一九四〇年上半年期には普通の半年分以上を合衆國から輸入し得たし、一ヶ年棉花需要高約二千五百萬キログラム中、トルコから三百萬キログラムを期待することが可能である。次いでゴムの不足が甚だしく、政府は在庫品を民需、とりわけ自動車のタイヤ及びゴム靴に消費することを禁止した (Frankfurter Zeitung, 26 Sep. 1940)。

かやうな事情は國內物資の消費統制、價格の統制と同時に、積極的に國內原料増産への努力に向はしめた。南部マセドニアの棉耕作は既に國家の價格保證と收穫の合理的配分によつて獎勵されてゐる。一九四〇年の國內産棉花の公定價格は最良品一キログラムにつき十六ディナーから二十六ディナーに引上げられた。同様な手段は麻についても講ぜられてゐる。國內産燃料消費獎勵の爲の委員會が構成され、石炭をコークスにする努

力、油頁岩からの採油の企てが爲されてゐる。

他方に於て貿易の統制は必至であり、一九三九年十二月に銅、鉛、亜鉛鑛等の國家委員會が構成されたが、翌年二月に農産物の輸出には一切許可制が實施されることになつた。六月に至つてこの國のあらゆる方面の權威を網羅した貿易局が組織され、輸出入及び通過の規制並に指導、輸出品市場の國家的干渉、輸出プレミアムの授與、補償取引の實施、外國での國家的買付、關稅問題、國家間の支拂取引、等をその任務とした。この貿易局は既に活動を開始して、ベルリンではノルウェー、デンマーク、オランダ、ベルギー、及びフランス占領地帯との取引復活の協定が進められ、ソ聯との貿易はソ聯通商代表のベルグラードへの到着によつて、その擴張が期待されてゐる。だが、より大きい期待は對獨取引に懸けられてゐる。過去に於てもこの國の貿易に於てドイツの占める地位は壓倒的であつた。例へば一九三八年についても、輸入ではドイツ五〇%、イタリアア八・九%、アメリカ六%であり、輸出ではドイツ四九・九%、イギリス九・六%、イタリア六・四%、アメリカ五・一%となつてゐる。この故に開戦と共に、ユーゴスラヴィアはいち早く中立の態度を表明したが、西歐諸國との通商路の斷絶は、好むと好まざるとに拘らず、少くとも經濟的にはこの國を樞軸側へと驅つた。當時のユーゴスラヴィアは「飽くまでも中立維持を希望するが、最大市場たるドイツを失ふことを欲せず」との聲明はこの間の消息を明らかにするものである。事實に於ても對獨取引は急激な増加を示して來た。

ユーゴスラヴィアの外國貿易(百萬ダイナール、上半期)

國名	一九三九年		一九四〇年		増減
	輸	入	輸	入	
總計	二四一四	三三四七	二五二八	三〇八九	(+)(+)
ドイツ保護領	六五〇	一二四六	一一一五	一四一〇	(+)(+)
ドイツ	三〇五	三九二	一七一	一四一	(+)(+)
イタリア	二四一	五三九	二九七	四三九	(+)(+)
ハンガリー	一五四	二一八	九三	一〇〇	(+)(+)
ルーマニア	三八	三二	五八	一〇四	(+)(+)
イギリス	一八九	一五七	一五二	一八	(-)(-)
フランス	五九	五二二	六六	一八	(-)(-)
ベルギー	二六七	三三三	三三	三三	(-)(-)
オランダ	四二	六一	三五	二〇	(-)(-)
アメリカ	一一三	四〇	一三八	二六四	(-)(-)
アルゼンチン	二七	三〇	四〇	一〇四	(+)(+)

(Wirtschaftsienst, 9 Aug. 1940)

この國の農産物や鑛物原料はドイツに廣大な市場を見出すであらうし、機械類や化學製品、代用纖維は獨伊から供給されることになり、かくしてユーゴスラヴィアも亦、歐洲新秩序建設に關する役割の一端を擔ふに至るであらう。